

II. 일본

2. 논문 491

3. 보고서 552

III. 중국

1. 저서 557

2. 논문 590

3. 기타 660

IV. 기타 외국

1. 저서 693

2. 논문 720

3. 기타 764

색인 779

I. 한국

1. 저서
2. 논문
3. 보고서

II. 일본

1. 저서

한일 역사현안 관련 일본군 '위안부' 연구논저 목록 · 하

— Ⅱ —
— 2 —
— 3 —



동북아역사재단
NORTHEAST ASIAN HISTORY FOUNDATION

이
리
사
재
단



동북아시아역사재단

NORTHEAST ASIAN HISTORY FOUNDATION

2. 논 문

논 문 명 : 朝鮮料理店女性と産業慰安婦

저 자 : 樋口雄一

게 재 지 : 海峡 第16号

발행연도 : 1992年

발 행 처 : 朝鮮問題研究会

쪽 수 : 16~30쪽

차 례 :

はじめに

朝鮮料理屋の女性達

大阪・天六近くの朝鮮人町

地方都市の朝鮮料理店と女性

女性の職業と「芸妓・娼妓」の人数

戦時下の在日朝鮮人女性の移動

朝鮮人「産業慰安婦」

一九四〇年調査

一九四三年調査

논문명 : 陸軍中央と『従軍慰安婦』政策—金原節三「陸軍省業務日誌摘録」を中心に

저자 : 吉見義明

게재지 : 季刊 戦争責任研究 創刊号

발행연도 : 1993年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 4~11쪽

차례 :

はじめに

日中戦争期における陸軍の「従軍慰安婦」政策

アジア太平洋戦争期における陸軍省の「従軍慰安婦」政策

おわりに

논문명 : マレー半島の日本軍慰安所

저자 : 林博史

게재지 : 世界

발행연도 : 1993年

발행처 : 岩波書店

쪽수 : 272~279쪽

차례 :

はじめに

一. 日本軍の記録にみる慰安所

二. 元日本兵の証言にみる慰安所

三. クアラピラ慰安所

おわりに

논문명 : マレー半島における日本軍慰安所について

저자 : 林博史

게재지 : 自然・人間・社会 第15号

발행연도 : 1993年

발행처 : 関東学院大学 経済学部教養学会

쪽수 : 67~99쪽

차례 :

はじめに

- I. 慰安所に関する日本軍史料
 - II. 元日本兵の証言にみる慰安所
 - III. ネグリセンビラン州の慰安所
 - IV. マレー半島各地の慰安所
 - V. シンガポールの慰安所と料亭
- おわりに

논문명 : 一金原節三 「陸軍省業務日誌摘録」を中心に一陸軍の慰安婦管理の一側面

저자 : 林博史

게재지 : 季刊 戦争責任研究 創刊号

발행연도 : 1993年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 12~19쪽

차례 :

はじめに

- 軍中央による「衛星サック」整備計画
「衛星サック」交付の指揮軍命令系統
「衛星サック」交付数と交付先
- おわりに

논문명 : = 随想百話 = 二度めの夏

저자 : 西野留美子

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 創刊号

발행연도 : 1993年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 38~39쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : ドイツの戦後処理をめぐって(上) : ドイツ現代史における賠償と補償 -
フィリピンにおける元「従軍慰安婦」調査報告

저 자 : 長田由美

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 創刊号

발행연도 : 1993年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 47~50쪽

차 례 :

調査の概要

フィリピンでの調査状況

聞き取り調査について

史資料について

논 문 명 : 「衛生サック」公布資料を手がかりに - 「従軍慰安婦」第1次調査

편 자 : 戦争責任資料センター

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 創刊号

발행연도 : 1993年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 20~36쪽

차 례 :

資料調査第一次発表の特徴・成果

논문명 : 「従軍慰安婦」補償問題で、新たな報告書作成

저자 : 荒井信一

게재지 : 季刊 戦争責任研究 創刊号

발행연도 : 1993年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 37쪽

차례 : 없음

논문명 : [資料]日本占領下蘭領インドにおけるオランダ人女性に対する強制売春に関するオランダ政府調査報告

저자 : [解説]吉見義明

편자 : 安原桂子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第4号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 44~58쪽

차례 :

解説 オランダ領東インドのヨーロッパ人「慰安婦」—オランダ政府調査報告書について

翻訳 日本占領下蘭領インドにおけるオランダ人女性に対する強制売春に関するオランダ政府調査報告

序論ならびに要約

I. 売春

II. オランダ領東インドの占領

III. ジャワ島

日本軍占領中のジャワ島の慰安所

第一期

第二期

第三期

IV. スマトラ

V. 外海の諸島

VI. 結論

〈参考資料〉 調査した公文書保管所

논문명 : [資料紹介] 「従軍慰安婦」の送出と朝鮮総督府—韓国にある総督府関係資料について

저자 : [解説] 吉見義明

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第5号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 32~36쪽

차례 :

はじめに

移動状態の把握

送出の促進と抑制

軍による移動の統制

논문명 : シンガポールの日本軍慰安所

저자 : 林博史

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第4号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 34~43쪽

차례 :

はじめに

I. 慰安婦募集の新聞広告

II. 地元英字新聞による調査報道

III. 証言に見るシンガポールの慰安所

おわりに

논문명 : 「従軍慰安婦」問題日韓合同研究会の報告

저 자 : 林博史

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第3号

발행연도 : 1994年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 38~43쪽

차 례 :

第一回日韓共同研究会についての共同記者発表

第一回日韓共同研究会結果報告

논 문 명 : [資料紹介]ビルマ・マンダレーの日本軍慰安所規定

저 자 : 林博史

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第6号

발행연도 : 1994年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 74~79쪽

차 례 :

解説

[資料1] 駐屯地慰安所規定

[資料2] 「マンダレー」駐屯地業務規定

[資料3] 第五野戦輸送司令部駐屯地業務規定

[資料4] 「マンダレー」駐屯地勤務規定

논 문 명 : 朝鮮民主主義人民共和国元「慰安婦」の被害報告

저 자 : 西野留美子

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第5号

발행연도 : 1994年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 37~43쪽

차 례 :

はじめに
真相調査中間報告
証言 崔奉仙
戦後に続く被害
おわりに

논문명 : 오ランダ人「慰安婦」-收容所体験に苦しみ續けるオランダ女性

저자 : 西野留美子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第6号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 68~73쪽

차례 :

[証言1]

逃亡

「慰安婦」生活

性病

兵隊の日

[証言2]

浮き出しくる記憶

收容所の悪夢

もうひとつの記憶

戦後のトラウマ

논문명 : [資料]オランダ女性慰安婦強制事件に関するバタビア臨時軍法会議判決

저자 : [解説]新美隆

편자 : 安原桂子, 横山伊徳

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第3号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 44~50쪽

차 례 :

蘭領印度における戦争犯罪法廷

慰安婦事件と戦争犯罪

バタビア軍法会議判決文等

논문명 : 各国慰安婦の戦後と現在一痕跡を引きずりながら生きた彼女らの戦後

저 자 : 安原桂子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第3号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 51~57쪽

차 례 :

はじめに

様々な疾病に悩まされ続ける元慰安婦

再出発をつまずかせた性病

「恥ずべき存在」

「セックスに嫌悪感」

極端に高い不妊率

儒教文化、羞恥心、独身

癒しがたい屈辱感と根深い劣等感

抵抗のエネルギーもなく、宗教にすがる者も

そして「孤独な老人」に

癒しがたい心の傷を抱えて

논문명 : 中国に残された韓国人「慰安婦」

저 자 : 奥村哲

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第5号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 44~47쪽

차 례 :

はじめに

武漢近辺で集团的残留した人々

李天英さんの場合

中国の情况

補償運動と帰国問題

논문명 : 国会図書館所蔵の戦争体験記・部隊史の第二次調査の報告

편자 : 日本の戦争責任センター

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第5号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 18~23쪽

차 례 :

はじめに—第二次調査について

軍慰安所が存在していた地域について

「従軍慰安婦」の出身

徴集について

軍自らの慰安所開設

慰安所の生活について

放置された慰安婦

強姦・性暴力

最後に

軍慰安所・軍慰安婦第2次集計表

논문명 : 特集 被害回復についての提言 : 「従軍慰安婦」制度による犠牲者の被害回復
についての提言

편자 : 戦争責任資料センター

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第4号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 2~11쪽

차례 :

まえがき

- I. 原状回復
- II. 更生—現在可能なりハビリテーション
- III. 満足と再発防止保障
 名誉回復措置
 再発防止保障
- IV. 損害賠償
 損害賠償についての提言
 被害回復の実行の具体策

논문명 : =エッセー= 戦争と性

저자 : 早川紀代

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第3号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 36~37쪽

차례 : 없음

논문명 : ある日本人「慰安婦」と永野発言

저자 : 川田文子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第5号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 48~51쪽

차례 :

永野発言の三つの誤り

公娼制度も慰安所制度も究極の「女性蔑視」

「醜業婦」「賤業婦」そして「アバズレ女」

논문명 : 国連の最近の議論と仲裁裁判所 — 「従軍慰安婦」問題解決のために

저자 : 戸塚悦朗

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第5号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 52~73쪽

차례 :

はじめに

国連における審議の進行状況の概要

国連NGOなどの活動の概要

一九九二年国連現代奴隷制部会の審議

国連NGO人権実情調査団の活動

国連世界人権会議の審議

一九九三年国連人権小委員会の審議

一九九四年国連人権委員会の審議

国連女性問題人権機関の充実

一九九四年国連現代奴隷制部会の審議

国連におけるNGO要求

国連におけるNGO法的主張

国連における日本政府の部分的事実承諾

日本政府の国連における国際法上の反論

一九六五年日韓協定をめぐる論争

一九六五年日韓協定と国際友和会勧告

犯罪の不処罰を理由とする賠償義務

被害者早期救済のための国連現代奴隷制部会勧告

被害者の早期救済に必要性

国際友和会提案に至る経緯

常設仲裁裁判所(The Permanent Court of Arbitration)

まとめ

논문명 : 富山県における「労務慰安婦」について - 強制連行と「慰安婦」の接点

저자 : 萩野富士夫

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第6号

발행연도 : 1994年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 64~67쪽

차례 : 없음

논문명 : [資料紹介]日本警察の「慰安婦」政策② - 『警察史』にみる「占領慰安婦」・
「軍慰安婦」・「事業場慰安婦」 -

저자 : [解説]吉見義明・尹明淑

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第14号

발행연도 : 1995年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 60~68쪽

차례 :

一. 「占領慰安婦」

二. 「軍慰安婦」・「事業場慰安婦」

資料① 『兵庫県警察史』昭和編

資料② 『広島県警察百年史』下巻

資料③ 『岡山県警察史』下巻

資料④ 『徳島県警察史』

資料⑤ 『大分県警察史』

資料⑥ 『長崎県警察史』下巻

資料⑦ 『茨城県警察史』昭和編

資料⑧ 『青森県警察史』下巻

資料⑨ 『大分県警察史』

資料⑩ 『警視庁』昭和前編

資料⑪ 『広島県警察百年史』下巻

논문명 : 上海の日本軍慰安所と朝鮮人

저자 : 藤永壯

게재지 : 国際都市上海

발행연도 : 1995年

발행처 : 大阪産業大学産業研究所

쪽수 : 99~179쪽

차례 :

はじめに

慰安所開設の前提—日本型公娼制度の導入とその変貌

上海の海軍慰安所とその「前身」

共同租界当局の売買春対応策

日本(総)領事館による売買春管理の開始

日本型公娼制度の再編と海軍慰安所への転換

上海の慰安所制度と朝鮮人

在留朝鮮人の変遷

「接客婦」・風俗営業と慰安所経営

慰安所の諸形態とその存在状況

概観

慰安所の分布状況と若干の事例

おわりに

논문명 : [資料紹介] アンダマン島の日本海軍「慰安所利用内規」

저자 : [解説] 木村宏一郎

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第10号

발행연도 : 1995年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 23~27쪽

차례 : 없음

논문명 : [資料] 独立山砲兵第三連隊 「森川部隊特種慰安業務二関スル規定」

저 자 : [解説]松野誠也

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第7号

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 87~89쪽

차 례 :

[資料]

昭和十四年十一月十四日 森川部隊特種慰安業務二関スル規定 / 森川部隊

논 문 명 : [資料]主計将校と「従軍慰安婦」

편 자 : 戦争責任資料センター

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第7号

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 80~86쪽

차 례 :

はじめに

慰安所設置方法の教育

慰安所の設営(海軍)

慰安所の設営と管理(陸軍)

隊長の女性をめぐる問題

アメリカ軍用慰安所の設置

논 문 명 : 「従軍慰安婦問題」ーリンダ・チャベス氏報告

저 자 : [解説]荒井信一

편 자 : 荒井信一

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第10号

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 54~56쪽

차 례 :

リンダ・チャベス氏の国連人権小委員会(四七会期)報告

논문명 : [資料紹介]日本警察の「慰安婦」政策① - 『警察史』にみる「占領軍慰安婦」

저 자 : [解説]吉見義明・尹明淑

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第13号

발행연도 : 1996年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 52~59쪽

차 례 :

資料① 『北海道警察史』二・昭和編

特殊慰安所の設置

資料② 『新潟県警察史』

特殊慰安施設

資料③ 『秋田県警察史』下巻

風俗営業の再開と接客婦

資料④ 『富山県警察史』下巻

資料⑤ 『山形県警察史』下巻

資料⑥ 『神奈川県警察史』下巻

1. 戦駐軍特殊慰安施設の準備指令

2. 設営の方針

3. 慰安婦の確保

4. 施設の確保と物資の調達

5. 慰安所の実施状況

논문명 : 書評 吉見義明・林博史編著 『共同研究 日本軍慰安婦』(大月書店、一九九五年)

저 자 : 藤永壮

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第13号

발행연도 : 1996年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 27~31쪽

차례 : 없음

논문명 : 英軍による日本軍性暴力の追及

저자 : 林博史

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第14号

발행연도 : 1996年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 69~77쪽

차례 :

はじめに

戦争犯罪概念と性暴力

ビルマ警察が情報収集した日本軍の性犯罪

南シャン地方での集団レイプ事件

カラゴン事件の中での性暴力の追求

おわりに

논문명 : 特集 軍隊・戦争と性暴力 : 中国戦線における日本軍の性犯罪

저자 : 笠原十九司

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第13号

발행연도 : 1996年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 2~11쪽

차례 :

はじめに

二. 河北省における日本兵の婦女陵辱

山西省における 日本兵の婦女陵辱

日本軍の性犯罪意識

논문명 : 国民基金の支給をめぐる

저자 : 上杉聡

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第13号

발행연도 : 1996年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 48~51쪽

차례 :

一般市民からの離反

被害者からの離反と分断

強行支給がもたらしたもの

国民基金の生き延びろ試み

政治家が決断を

논문명 : 特集 軍隊・戦争と性暴力 : ヴェトナム戦争におけるアメリカ軍の残虐行為
と性犯罪

저자 : 生井英考

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第13号

발행연도 : 1996年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 12~17쪽

차례 :

はじめに

ヴェトナム戦争における戦争犯罪

ヴェトナム戦争とは何か

アメリカ兵とヴェトナム戦争

戦闘行動中の残虐行為

アメリカ軍の性犯罪

日本軍とアメリカ軍の比較

논 문 명 :特集 軍隊・戦争と性暴力：軍隊と性暴力過去から現在へーカンボジア
PKOと性暴力ー

저 자 :西野留美子

게 재 지 :季刊 戦争責任研究 第13号

발행연도 :1996年

발 행 처 :日本の戦争責任センター

쪽 수 :20~26쪽

차 례 :

女性団体の告発

頻発した性暴力

予捨て

軍隊と性

アンタックの遺産

人道派兵の名の下での人権侵害

논 문 명 :特集 軍隊・戦争と性暴力：生井さんの報告を聞いて一二つの戦争の残虐行
為と性犯罪

저 자 :川田文子

게 재 지 :季刊 戦争責任研究 第13号

발행연도 :1996年

발 행 처 :日本の戦争責任センター

쪽 수 :17~19쪽

차 례 :없음

논 문 명 :台湾人性奴隷被害者のトラウマに関する研究

저 자 :江美芬

게 재 지 :季刊 戦争責任研究 第16号

발행연도 :1997年

발행처 : 일본의戦争責任センター

쪽 수 : 76~78쪽

차례 : 解説

논문명 : 中国人「慰安婦」訴訟—取り組みの経緯と現状—

저자 : 大森典子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第15号

발행연도 : 1997年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 66~69쪽

차례 :

はじめに

中国国内での「慰安婦」問題の解明

日本の法律家による中国人戦争被害者の調査

提訴とその後の情况

一連の取り組みの影響と今後の方向

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点(2) : 「慰安婦」問題とフェミニズム

저자 : 大越愛子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第18号

발행연도 : 1997年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 10~17쪽

차례 :

戦争とレイプ

性暴力との闘争へ

国家とフェミニズム

大日本帝国の欲望

むすびにかえて

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点(2) : 女性史からみた 「慰安婦」問題

저자 : 藤目ゆき

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第18号

발행연도 : 1997年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 2~9쪽

차례 :

はじめに

公娼制度批判

「自由主義史観」派の「慰安婦 = 公娼」論批判

「慰安婦 = 非公娼」論再考

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点 : 元「慰安婦」にみる 「複雑性 P T S D」

저자 : 梁澄子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第17号

발행연도 : 1997年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 26~31쪽

차례 :

過覚醒, 侵入, 狭窄

複雑性 P T S D

外傷的きずな

「慰安婦」問題に向き合うということ

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点 : 日本軍の残虐行為と性犯罪 一山西省孟
県の事例

저자 : 笠原十九司

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第17号

발행연도 : 1997年

발행처 : 일본의戦争責任センター

쪽 수 : 38~50쪽

차례 :

はじめに

二. 孟県における「治安・肅正」作戦と残虐行為

- (1) 太原攻略戦と日本軍の孟県侵攻
- (2) 日本兵士の村民虐殺証言
- (3) 晋察冀辺区の成立と「肅正作戦」基地
- (4) 百团大戦後の「報復掃討」作戦
- (5) 無人区政策

三. 進圭村の日本軍の性犯罪

- (1) 「治安」作戦の長期化と軍紀の弛緩
- (2) 「治安」作戦部隊の軍紀頹廃
- (3) 進圭村の日本軍拠点
- (4) 監禁強姦の可能

논문명 : 中国人元「慰安婦」の証言 — 山西省孟県での被害者たち

저자 : [解説] 林博史

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第15号

발행연도 : 1997年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 70~79쪽

차례 :

解説

証言1 李秀梅

証言2 劉面煥

証言3 周喜香

証言4 陳林桃

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点(2) : シンポジウム 参加記 — ナショナルリ

ズムと「従軍慰安婦」問題一

저 자 : 杉本由美子

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第18号

발행연도 : 1997年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 28~32쪽

차 례 :

「沈黙の声」と現在の「罪」

国家は私を代表しない

被害者から見えない歴史の再構成を

「空虚な主体」と「危険な主体」

「他者」の呼びかけに回答する

논 문 명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点(2) : 戦場での兵士の「セクシュアリティ」一
高橋鉄の『生心レポート』より一

저 자 : 山本直英

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第18号

발행연도 : 1997年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 18~27쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点 : 「慰安婦」問題の新局面 一広義 「強制」の
犯罪性の確定と立法運動の開始

저 자 : 上杉聡

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第17号

발행연도 : 1997年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 32~37쪽

차 례 :

「朝生」 「サンプロ」以後
右翼へ対抗した出版活動
強制連行を示す新事実
山を越したか地方議会決議
国民基金と暫定措置
注目すべき海外の動き

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点(2) : 安丸良夫 氏にきく—「慰安婦」問題
と歴史學

저 자 : 成田龍一・岩崎稔・大内裕和

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第18号

발행연도 : 1997年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 33~37쪽

차 례 :

いくつかの論点
「実証主義」をめぐる
「業者」と「強制」・暴力
「証言」と歴史學
歴史における忘却と発見
「自由主義史觀」批判の方法

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点 : 公娼制とその周辺 —東京府を中心
に—

저 자 : 早川紀代

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第17号

발행연도 : 1997年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 51~59쪽

차 례 :

はじめに

明治初期の娼妓政策

内務省令第四四号「娼妓取締規則」発令の前後

大正期・昭和初期の公娼制とその周辺

公娼制と日本軍「慰安婦」制度

논문명 : 인도네시아의 일본군「慰安婦」調査「日本によって連れ去らせた少女たちの足跡を追って」

편자 : プラムディヤ・アナンタ・トゥール

역자 : 押川典明

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第16号

발행연도 : 1997年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 55~64쪽

차 례 :

解説

「日本によって連れ去らせた少女たちの足跡を追って」

序

1. 少女たちはプールのされ、船で運ばれた。
2. 娘たちの数と父親の職業
3. スカルノ・マルトデイハルジョ(五三歳)の証言
4. ファティマ

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点(3) : フェミニズムアートと「慰安婦」一嶋田美子さんの表現

저자 : 吉村真理子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第19号

발행연도 : 1998年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 20~33쪽

차례 :

はじめに

戦時下の日本女性と「慰安婦」

「日本人」の「女」として

논문명 : 日本ファシズムと性病—いわゆる「従軍慰安婦」の前提

저자 : 藤野豊

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第22号

발행연도 : 1998年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 54~61쪽

차례 :

はじめに

一. 「花柳病予防法」改正論の提起

二. 「花柳病予防法」再改正論の高揚

三. 「性病」認識の確立

おわりに

논문명 : 日露戦争と日本による「満州」への公娼制度移植

저자 : 藤永壮

게재지 : 大阪産業大学産研叢書8 『快樂と規則 : 近代における娯楽の行方』

발행연도 : 1998年

발행처 : 大阪産業大学産業研究所

쪽 수 : 57~100쪽

차례 :

はじめに

日露戦争期の「売買春」管理
関東州の状況
関東州以外の日本軍占領地の状況
日露戦後における公娼制度の確立
関東州における 公娼制度の確立
満鉄沿線地域への拡散
その他の地域での「売買春」管理
おわりに

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点(3) : 中国人元 「慰安婦」の心的外傷とPTSD

저자 : 桑山紀彦

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第19号

발행연도 : 1998年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 10~19쪽

차례 :

はじめに

トラウマ、PTSDとは

方法論

PTSDの臨床的診断

各種心理検査の結果

ケース個別のPTSDレベル

考察

結語

논문명 : 「慰安婦」問題と世界の女性暴力 - 「戦争と女性に対する暴力」国際会議報告

저자 : 西野瑠美子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第20号

발행연도 : 1998年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 30~37쪽

차 례 :

VAWWとしての「慰安婦」問題

東京世界女性会議

武器・弾圧としてのレイプ

不処罰と法・国家の沈黙

女性の体験の疎外化と記録の不在化

日常と非日常の連続性と特殊性

平時の女性

「慰安婦」問題の今後

おわりに

논문명 : 特集 「慰安婦」問題を考える視点(3) : 国外移送目的誘拐罪の共同正犯一隠
されていた大審院判決

저 자 : 前田朗

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第19号

발행연도 : 1998年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 2~9쪽

차 례 :

一. 「慰安婦」の類型化

二. 誘拐は犯罪である

三. 誘拐罪とは何か

(一)略取・誘拐とは何か

(二)保護法益は何か

四. 国外移送目的誘拐罪とは何か

(一)目的犯とは何か

(二)行為類型

五. 共謀共同正犯とは何か

(一)共犯と共犯学説

(二)共同意思主体の犯罪

(三)判例と共謀共同正犯論

六. 日本政府の責任を考える

논문명 : 日本軍「慰安婦」歴史館の開館

저자 : 池内靖子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第22号

발행연도 : 1998年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 62~65쪽

차례 : 없음

논문명 : 秋期特別シンポジウム〈慰安婦問題〉からみたハンナ・アーレント

저자 : 高橋哲哉・佐藤和夫・志水紀代子・大越愛子

게재지 : 女性・戦争・人権 第2号

발행연도 : 1999年

발행처 : 女性・戦争・人権 学会

쪽수 : 52~77쪽

차례 : 없음

논문명 : 特集・軍隊と性を考える : シベリア出兵時における日本軍と「からゆきさん」

저자 : 林博史

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第24号

발행연도 : 1999年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 18~25쪽

차례 :

はじめに

在満州領事館の「からゆきさん」対策

シベリア出兵にともなう領事館の危惧
日本軍による日本人娼婦の管理
女性を連れて行こうとする業者と領事館
おわりに

[参考資料]

논문명 : 天津の日本軍「慰安婦」供出システム — 偽「天津特別市政府」警察局の公文
資料から

저 자 : 林伯耀

게재지 : 女性・戦争・人権 第2号

발행연도 : 1999年

발행처 : 女性・戦争・人権 学会

쪽 수 : 78~115쪽

차례 :

はじめに

天津の妓女と妓院

日本軍による『慰安婦』供出命令

『天津特別市政府』警察局の記録文書にみる日本軍への『慰安婦』供出の状況

河南省の日本軍駐屯部隊に『供出』された妓女たちのケース

天津市内日本軍『軍人クラブ』に供出された妓女たちのケース

日本軍直轄慰安所『東駅会館』に供出された妓女たちのケース

山東省の日本軍駐屯部隊に供出された 妓女たちのケース

窠主(ヤオツウ)、漢奸に対する解放後の裁判記録よりみた『慰安婦』供出の実態

窠主、李万有のケース

窠主、李耀林のケース

漢奸、王土海のケース

窠主、楊草亭のケース

証言

王端玲さんの証言(一九九八年五月二七日、於 天津)

王在田さんの証言(一九九八年七月三日、於 天津)

おわりに

논문명 : 調査研究ノートービルマで調査したこと

저자 : 林よし子

게재지 : 女性・戦争・人権 第2号

발행연도 : 1999年

발행처 : 女性・戦争・人権 学会

쪽수 : 190~198쪽

차례 : 없음

논문명 : 中国山西省 性暴力被害者における P T S D の検証 第2次報告

저자 : 桑山紀彦

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第25号

발행연도 : 1999年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 30~37쪽

차례 :

はじめに

これまで明らかになった P T S D の所見

回避

記憶の断片と映像性の高まり

今回の調査の方法論と結果

新たに明らかになった P T S D 所見

考察

おわりに

논문명 : 「民族」か「ジェンダー」か? — 強いられた対立 — 『ナショナリズムと「慰安婦」問題』その後

저자 : 上野千鶴子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第26号

발행연도 : 1999年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 15~25쪽

차례 :

脱植民地化の課題

罪責と責任

「民族」か「ジェンダー」か?

女性の国民化?

多元性へ向けて

논문명 : 中国華北の戦場における日本軍の性暴力の構造—山西省の現地調査から見えてくるもの

저자 : 石田米子

게재지 : 女性・戦争・人権 第2号

발행연도 : 1999年

발행처 : 女性・戦争・人権 学会

쪽 수 : 166~189쪽

차례 :

はじめに

性暴力被害の記憶を聞き取るという関係

出会いから始まった聞き取るという関係

聞き取りの方法

聞き手と語り手の関係

姿を現してきた日本軍占領時の孟県の村と女性たち

孟県の村の姿

河東村の尹さん姉妹を襲った性暴力

河東村の性暴力の実態と構造

わが身と家族に起こったことと村に起こったこと—記憶と記録

性暴力被害者の記憶と村人の記憶と文献に残った記録

高銀娥さんと「南社惨案」/ 趙潤梅さんと「西煙惨案」

孟県農村の性暴力の性格と日本軍性暴力の構造

村の性暴力—命令なき組織的性暴力

都市「慰安所」の初歩的調査

おわりに

논 문 명 : シンポジウム 報告 - 戦争と性暴力

저 자 : 細身和之・藤目ゆき・角田由紀子・志水紀代子

게 재 지 : 女性・戦争・人権 第2号

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 女性・戦争・人権 学会

쪽 수 : 5~37쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 『ナショナリズム』と「慰安婦」問題』を読んで : フェミニズム連帯の可能性

저 자 : 宋連玉

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第23号

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 46~48쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 『ナショナリズム』と「慰安婦」問題』を読んで : フェミニズムは国民国家を相
対化する

저 자 : 早川紀世

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第23号

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 40~45쪽

차 례 : 없음

논문명 : 特集・軍隊と性を考える : 資料「慰安婦」・強制連行問題 - ILO条約勧告
適用専門家委員会 1999年報告(抜粋)

편자 : 中山和久

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第24号

발행연도 : 1999年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 26~28쪽

차례 : 없음

논문명 : エッセイ : はじめての証言 スハナさんのこと

저자 : 川田文子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第25号

발행연도 : 1999年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 38~41쪽

차례 : 없음

논문명 : 書評 『シンポジウム—ナショナリズムと「慰安婦」問題』を読んで - 挫かれた「慰安婦」再問題化

저자 : 浅野千恵

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第25号

발행연도 : 1999年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 42~45쪽

차례 :

本書の問題構成

上野の方法論の検討

「慰安婦」をめぐる表象の問題

おわりに

논문명 : 南京の慰安婦と慰安所

저자 : 経盛鴻

편자 : 高宏

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第28号

발행연도 : 2000年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 57~60쪽

차례 :

日本軍が南京に慰安所を設立した方法

漢奸が南京に建てた多くの慰安所

논문명 : 特集 中国上海・南京の日本軍慰安所 : 南京・上海の慰安所と上海派遣軍軍
医部 - 「渡辺進軍医大尉日記」から

저자 : 吉見義明

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第27号

발행연도 : 2000年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 30~33쪽

차례 :

はじめに

慰安所開設と上海派遣軍司令部

南京での慰安所開設と上海派遣軍軍医部

上海の慰安所と上海派遣軍軍医部

おわりに

논문명 : 特集 中国上海・南京の日本軍慰安所 : 中国での慰安所現地調査について

저 자 : 林博史

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第27号

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 2~4쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 資料紹介ヒイリピンにおける日本軍の性暴力 — 『日本占領下ヒイリピンにおける日本軍性暴力資料集』

저 자 : [解説] 林博史

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第30号

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 74~79쪽

차 례 :

1. [師団参謀長口演要旨(強姦行為ハ治安ヲ乱ス原因トナル)]
2. [軍参謀長口演要旨(作戰初期ニ強姦著シク多ク)]
3. [慰安等ハ後ニ先ヅ討伐ヲ実施スベシ]
4. [花柳病患者罹患経路調査]
5. [軍法会議取扱人員表・抄]
6. [陸軍々人軍属非行表(9月)・抄]
7. [書翰(日本兵ニ依リ犯サレシ最モ非度イ犯罪)]
8. [郵便検閲主要処分状況(10月)・抄]
9. [治安上有害ナル郵便物(9月)・抄]

논 문 명 : 特集 中国上海・南京の日本軍慰安所 : 上海の慰安所・現地調査報告—上海に慰安所の記憶と痕跡を訪ねて

저 자 : 西野瑠美子

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第27号

발행연도 : 2000年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 4~11쪽

차례 :

はじめに

陽家宅の慰安所

青瘧の慰安所

江湾の慰安所

大審院判決と「慰安婦」急増の不可解

日本軍慰安所創設の地北四川路

軍と軍指定慰安所の関係

浦東の慰安所

中国人の強いた「慰安婦」徴集

おわりに

논문명 : 特集 中国上海・南京の日本軍慰安所 : “慰安婦”の緊急調査

저자 : 蘇智良

편자 : 高宏

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第27号

발행연도 : 2000年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 19~23쪽

차례 :

一. 「慰安婦」とは何か

二. “中国ビー”

三. 中国は慰安婦制度の最大の被害国

四. 存命する元中国慰安婦の状況

논문명 : 上海での中国「慰安婦」問題国際シンポジウムに参加して

저자 : 宋連玉

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第28号

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 61~62쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 「女性国際戦犯法廷」をなぜ開くのか—その目的と今日的意義

저 자 : 松井やより

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第28号

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 52~57쪽

차 례 :

「責任者処罰を」という被害女性の訴えに応じて
真相究明、補償、処罰—戦時性暴力不処罰の終止符を
天皇が免責され戦犯の処罰はタブー
韓国の告訴告発を日本の運動は支持せず
米国のベトナムでの戦争犯罪を裁いたラッセル法廷
個人と国家の責任、戦後責任を裁く
中国、北朝鮮など国際的に広がる準備活動
戦争責任と女性の人権の両面から正義の回復を

논 문 명 : 陸軍慰安所の創設と慰安婦募集に関する一考察

저 자 : 永井和

게 재 지 : 二十世紀研究 1

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 二十世紀研究編集委員会

쪽 수 : 79~112쪽

차 례 :

はじめに

- I. 警察資料について
 - II. 陸軍慰安所の創設
 - III. 日本国内における慰安婦募集活動
 - 1. 和歌山の誘拐容疑事件
 - 2. 北関東・南東北での募集活動
 - IV. 地方警察の反応と内務省の対策
- おわりに

논문명 : 特集 中国上海・南京の日本軍慰安所 : 中国人軍隊慰安婦問題に関する研究
ノートー上海と南京での研究交流を終えて批判的立場から考える

저자 : 尹明淑

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第27号

발행연도 : 2000年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 24~29쪽

차례 : 없음

논문명 : 秦郁彦の「歴史学」とは何であるのか? - 『慰安婦と戦場の性』に見る手法

저자 : 前田朗

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第27号

발행연도 : 2000年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 75~81쪽

차례 :

はじめに

図版盗用

初歩的なルール

B図はオリジナル

新潮社の回答
粗雑な改竄
写真盗用
写真使用の許諾
伝聞・憶測・捏造
国際法の理解をめぐる

논 문 명 : 前田朗氏への反論 — 「盗用」問題について答える

저 자 : 秦郁彦

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第28号

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 79~85쪽

차 례 :

はじめに

写真の「盗用」問題

三人の演者と一〇人の聴衆

写真の著作権をめぐる

国連組織図の「盗用」問題

おわりに

논 문 명 : 特集 中国上海・南京の日本軍慰安所 : 南京レイプと南京の慰安所

저 자 : 川田文子

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第27号

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 12~18쪽

차 례 :

外科医の日記に残された南京レイプ

ある強姦被害者の証言

中支那方面軍慰安所設置を指示

鼓樓慰安所と安乃家

難民施設で「慰安婦」募集

논문명 : 植民地台湾における朝鮮人接客業と「慰安婦」の動員—統計値から見た覚え書き

저자 : 藤永壯

게재지 : 大阪産業大学産研叢書 16 『近代社会と売春問題』

발행연도 : 2001年

발행처 : 大阪産業大学産業研究所

쪽수 : 36쪽

차례 :

はじめに

- 一. 台湾在住朝鮮人人口の推移
 - 二. 接客業従業者の特徴
 - 三. 台湾経由で中国大陸に渡航した朝鮮人女性たち
- おわりに

논문명 : [資料紹介]台湾拓殖株式会社「日本軍慰安所」関係資料

저자 : [解説]林博史

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第34号

발행연도 : 2001年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 84~98쪽

차례 :

解説

台湾拓殖株式会社「日本軍慰安所」関係資料

海南島バラック建築の件

海南島海軍慰安所の件

海南島經濟工作に関する取極の件

海南島調査隊用並に軍閥資材供給の件
当社未払込金徴収に関する件
海南島慰安所営業資金貸付の件
人員並に物資輸送の件
海南島慰安所営業資金貸付の件
当社未払込金徴収に関する件
台拓関係海南島渡航者人名表
昭和十四年事業予算説明書
支那事変以来中南支に於ける軍に対する協力状況
建築事業進捗状況に関する件
海南島に於ける事業経営上 要望及懸案事項
帝国議會説明資料 業務概要
副大公司业务概要

논문명 : 韓国における「慰安婦問題解決」運動の位相(上) 一八〇～九〇年代の性暴力運動との関連で

저 자 : 山下英愛

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第34号

발행연도 : 2001年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 74~83쪽

차례 :

はじめに

民族民主運動と性暴力運動一八〇年代の女性運動

民族民主運動への統合

民族民主運動の性暴力認識

性売買問題への取り組み

性暴力運動の質的轉換一九〇年代の女性運動

性暴力事件の衝撃

性暴力相談所の開設と性暴力問題の世論化

논문명 : フィリピンにおける性暴力と加害部隊(下)

저자 : 上田敏明

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第33号

발행연도 : 2001年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 58~66쪽

차례 :

パナイ島での被害者と日本軍部隊との関係

原告 フェリさ・ボルナレスの場合

原告 トマサ・サリノグの場合

原告 パシータ・サクラン・サンテイリアンの場合

原告 ロサリオ・ノブエトの場合

原告 ロジータ・ナシーノの場合

原告 ビオシッタ・ランサローテの場合

논문명 : 在日元 「慰安婦」謝罪・補償請求事件

저자 : 小沢弘子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第31号

발행연도 : 2001年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 43~51쪽

차례 :

事件の概要

裁判経過

個人の法主体性について

国際法違反の判断について

国家無答責の原則

除斥期間

おわりに

논문명 : 「慰安婦」問題解決の展望と課題 : 「女性國際戦犯法廷」を「傍聴」して

저자 : 松村由子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第31号

발행연도 : 2001年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 76~79쪽

차례 :

「法廷」の空気

反対する人々

解決を妨げるもの

今後の展望

논문명 : [資料紹介] 「慰安婦」援護実例に関する国会審議

저자 : [解説]池谷好治

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第33号

발행연도 : 2001年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 76~81쪽

차례 :

解説

I. 援護法改正の伴う「戦闘参加者」の援護対象化

II. 在日旧植民地出身者である元「慰安婦」の補償対象性

〈資料1〉小林進議員(日本社会党)の質問に対する山本浅太郎厚生省援護局長の答弁

〈資料2〉後藤俊男議員(日本社会党)の質問に対する園田直厚生大臣、実本博次厚生省援護局長の答弁

논문명 : 中国人「慰安婦」第1次訴訟 東京地裁判決批判

저자 : 坂口禎彦

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第33号

발행연도 : 2001年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 54~57쪽

차례 :

はじめに

責務を放棄した裁判所

事実認定を回避した異例な判決

本件裁判所の法的判断の浅薄さと幼拙さ

むすび

논문명 : 特集 「慰安婦」問題の10年～その現階段と根本的解決に向けて～ : 日本軍性
奴隷(「従軍慰安婦」)制度研究の現階段

저자 : 吉見義明

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第38号

발행연도 : 2002年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 2~7쪽

차례 :

I. 成果

II. 課題

制度を支えた非公然の組織・人々の研究

海外での資料発掘の可能性

日本人「慰安婦」の研究

「慰安婦」制度と公娼制度との異動の問題

논문명 : 特集 「慰安婦」問題の10年～その現階段と根本的解決に向けて～ : 「戰時性的
強制被害者問題解決促進法案」提出と経過

저자 : 吉川春子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第38号

발행연도 : 2002年

발행처 : 일본의戦争責任センター

쪽 수 : 26~31쪽

차례 :

インドネシアでは「慰安婦」対象の事業なし

「オランダで激しい反日感情」

三党案の具体的内容

日本人「慰安婦」も対象にした共産党案

논문명 : 特集 「慰安婦」問題の10年~その現階段と根本的解決に向けて~ : 「国民
基金」の「償い事業」とは何だったのか

저자 : 金英姬

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第38号

발행연도 : 2002年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 8~17쪽

차례 :

「国民基金」の発足と経過

各国で差のある事業内容

支給をめぐる攻防

事業終了後の状況

논문명 : フェミニズムとく慰安婦問題

저자 : 大越愛子

게재지 : 女性・戦争・人権 第5号

발행연도 : 2002年

발행처 : 女性・戦争・人権 学会

쪽 수 : 139~150쪽

차례 :

日本のフェミニズムの問題意識

日本のフェミニズムの戦争責任

「帝国のフェミニズム」再編—ポストモダン・フェミニズムの陥穽

現代日本のポストモダン・フェミニズムの問題

논문명 : 特集 「慰安婦」問題の10年～その現階段と根本的解決に向けて～ : 国際法は
日本の国家責任をどこまで認めたか

저 자 : 東沢靖

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第38号

발행연도 : 2002年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 18～25쪽

차 례 :

はじめに

「慰安婦」訴訟において議論された国家責任

戦後の国際人権機関と「慰安婦」訴訟

責任者処罰を求めて

ニュルンベルクの諸原則から国際刑事裁判所の設置へ

女性国際戦犯法廷を経て

논문명 : 日本軍“慰安婦”・性暴力に関する資料状況

저 자 : 林博史

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第36号

발행연도 : 2002年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 94～99쪽

차 례 :

はじめに

慰安婦制度に関わった組織

日本政府・軍の公文書の廃棄と残存状況

各国の資料館

さいごに

논문명 : 韓国における「慰安婦問題解決」運動の位相(下)一八〇～九〇年代の性暴力運動との関連で

저자 : 山下英愛

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第35号

발행연도 : 2002年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 72~81쪽

차례 :

性暴力特別法制定運動

性暴力運動の急進化

三. 「慰安婦」問題解決運動の位相

1. 「慰安婦」運動の形成経緯

2. 「売春」と民族言説

3. 民族運動としての意義と限界

おわりに

논문명 : 〈日帝支配〉に関する諸議論と〈慰安婦〉問題

저자 : 宋連玉

게재지 : 女性・戦争・人権 第5号

발행연도 : 2002年

발행처 : 女性・戦争・人権 学会

쪽수 : 151~157쪽

차례 :

はじめに

一. 〈慰安婦〉は植民地期の女性被害の表象—〈慰安婦〉と〈公娼〉または〈売春婦〉の不幸の差

二. 現代史と連続する近代史と〈慰安婦〉

三. アジアにおける国際連帯のために

おわりに

논 문 명 : 資料 戰時性的強制被害者問題解決促進法案 : 從軍慰安婦問題解決促進法案
~ 戰時における性的強制に係る問題の解決の促進に関する法律(案)從軍慰
安婦問題解決促進案法案要綱 (三党提出案)

편 자 : 日本の戦争責任センター

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第38号

발행연도 : 2002年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 32~33쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 特集 「慰安婦」問題の10年~その現階段と根本的解決に向けて~ : 資料
「慰安婦」問題をめぐる国会での論戦(上)

편 자 : 日本の戦争責任センター

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第38号

발행연도 : 2002年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 34~45쪽

차 례 :

解説

参議院内閣委員会会議録第十七号(二〇〇二年七月二三日)より抜粋

논 문 명 : [資料紹介]インドネシアにおける日本軍「慰安婦」に関する資料 - 『NEFIS
尋問報告』から

저 자 : [解説]吉見義明

게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第41号

발행연도 : 2003年

발 행 처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 45~55쪽

차 례 :

- I. ジャワ島関係
- II. ハルマヘラ島関係
- III. カリマンタン島(ボルネオ島)関係
- IV. スエウエン島(セレベス島)関係
- V. バリ島関係
- VI. アンボン島関係
- VII. スマトラ島関係
- VIII. 改憲・戦争への道 -教育基本法改悪を許さない活動を!

논문명 : 雲南省の「玉砕」地の「慰安所」

저 자 : 金榮

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第42号

발행연도 : 2003年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 75~83쪽

차 례 :

朴英心ハルモニとの再会

雲南省西部一滇西地区「慰安所」

拉孟陣地の「慰安所」-「雲南省龍陵県松山慰安所」

朴英心ハルモニの足跡

龍陵県「家溝慰安所」

騰衝(騰越)の三ヶ所「慰安所」

「荷花慰安所」

三. 調査を終えて

논문명 : 戦時下北海道における朝鮮人‘労務慰安婦’の成立と実態 -強制連行と関係性において

저 자 : 西田秀子

게재지 : 女性史研究 ほっかいどう 創刊号

발행연도 : 2003年

발행처 : 札幌女性史研究会

쪽 수 : 16~36쪽

차례 :

はじめに

前史—「慰安婦」の前提と花柳病予防法の改正

札幌在住朝鮮人酌婦の実態

朝鮮料理屋の組合組織と花柳病予防

企業による「慰安所」設置の要請と経過

「慰安所」の開設と実態

企業による援助と開設

未成年の「慰安婦」たち—国勢調査から

「慰安所」の運営と推移

敗戦—解放と前借金・会社の評価

おわりに

논문명 : 資料「慰安婦」問題をめぐる国会での論戦(下)

저자 : 日本の戦争責任センター

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第39号

발행연도 : 2003年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 73~82쪽

차례 :

解説

参議院内閣委員会会議録第十七号(二〇〇二年七月二三日)より抜粋

논문명 : 植民地朝鮮における公娼制度の確立過程—1910年代のソウルを中心に

저자 : 藤永壮

게재지 : 二十世紀研究 第5号

발행연도 : 2004年

발행처 : 二十世紀研究編集委員会

쪽 수 : 13~36쪽

차례 :

はじめに

I. 「併合」までの買春管理政策

1. 朝鮮人接客女性の「出現」
2. 朝鮮人接客業に対する管理のはじまり

II. 「併合」直後の動向

1. 過渡期の管理方針と遊廓の第1次再編
2. 「芸妓」「妓生」の組織化

III. 植民地公娼制度の確立

1. 新規則の制定
2. 遊廓の第2次再編
3. 接客婦の増加と女性売買構造の「日本化」

おわりに

논문명 : 『日本軍性暴力被害者』裁判の現状—2003年を振り返って

저자 : 梁澄子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第43号

발행연도 : 2004年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 71~77쪽

차례 :

画期的な下関判決

宋神道裁判も上告棄却

山西省裁判での初の付言判決

中国人「慰安婦」裁判で加害者証言

ヒリピン裁判も上告棄却、敗訴確定

台湾裁判他、年内に高裁判決続々

논문명 : 「慰安婦」問題とアクティブ・ミュージアム運動 「女たちの戦争と平和資料館」

저 자 : 西野瑠美子
게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第46号
발행연도 : 2004年
발 행 처 : 日本の戦争責任センター
쪽 수 : 113~117, 181쪽
차 례 :

はじめに

- 一. 「記憶の保存」
- 二. 認識の齟齬と記憶の差異
- 三. アクティブ・ミュージアム運動

논 문 명 : 書評 石田米子・内田知行編 『黄土の村の性暴力』(創土社、二〇〇四年)

저 자 : 川田文子
게 재 지 : 季刊 戦争責任研究 第45号
발행연도 : 2004年
발 행 처 : 日本の戦争責任センター
쪽 수 : 82~85쪽
차 례 : 없음

논 문 명 : 日本軍「従軍慰安婦」被害者の拉致事件を処罰した戦前の下級審刑事判決を
発掘 - 資料 国外移送誘拐被告事件に関する長崎地方裁判所刑事部昭和11
年二月一四日判決

저 자 : 戸塚悦朗
게 재 지 : 龍谷法学 第三七卷 第三号
발행연도 : 2004年
발 행 처 : 龍谷大学法学会
쪽 수 : 824~877쪽
차 례 :

見つかった歴史資料は、以下の日本裁判所の判決二つである
明確になった日本軍・政府の行為の犯罪性
不処罰問題の典型
批判さるべき日本政府による情報開示の懈怠
不処罰問題に関する研究問題
資料の公表の経過と理由

논문명 : 戦時女性に対する暴力への日本司法の対応、その成果と限界～発掘された
日本軍『慰安婦』拉処罰判決(1936年)をめぐって～(上)

저자 : 戸塚悦朗

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第43号

발행연도 : 2004年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 35～45쪽

차례 :

第I部 総論

資料

背景

今回発見された資料の意義

논문명 : 戦時女性に對する暴力への日本司法の對應、その成果と限界(下)

저자 : 戸塚悦朗

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第44号

발행연도 : 2004年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 50～63쪽

차례 :

第II部 各論編

長崎地裁判決の言い渡し日

長崎地裁判決の判決書

長崎地裁判決に関わった当事者等関係者

被告人

弁護人

検察官

裁判官

被害者

証人

警察官

主文

判決理由

事実認定の部分

共謀共同正犯関係事実について

虚言、甘言、詐言等誘惑行為により誤信させる行為(誘拐)について

国外移送について

証拠説明の部分

犯意の継続についての重要性の指摘

犯意継続以外の事実関係について

犯意継続について

婦人誘拐の事実について

3. 法律の適用の部分について

논문명 : 特集 「慰安婦」・性暴力裁判の成果と課題 : 中国人「慰安婦」訴訟の10年を振り返って

저자 : 大森典子・安達洋子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第47号

발행연도 : 2005年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 14~19쪽

차례 :

提訴にいたる経緯と中国人戦争被害賠償・請求運動

訴訟活動の経緯の概要

裁判のなかで勝ちとった成果

中国における「慰安婦」被害の多様性を明らかにしたこと
歴史的背景の解明
被害者のPTSDの解明
裁判支援運動を通じての成果
事実を日本の社会の中で一定程度広めたこと
中国社会の中でも彼女たちの被害を被害として認めさせることになった
今後の課題

논문명 : 特集 「慰安婦」・性暴力裁判の成果と課題 : 日本軍「慰安婦」問題をめぐる
国連機関の動き

저자 : 渡辺美奈

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第47号

발행연도 : 2005年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 20~28쪽

차례 :

はじめに

条約機関の最終コメント

国連憲章に基づく機関の報告書

国際労働機関(ILO)

おわりに

논문명 : 「ポスト構造主義」と歴史学 — 「従軍慰安婦」問題をめぐる上野千鶴子・吉
見義明の論争を素材に

저자 : 上野輝将

게재지 : 日本史研究 509

발행연도 : 2005年

발행처 : 日本史研究会

쪽수 : 1~33쪽

차례 :

はじめに

社会学者上野千鶴子の歴史批判 — 「誠実」で「まじめ」な歴史家の限界

歴史家吉見義明の反論—虚像の「歴史学」と歴史学の「常識」

論争の中断とその「中間的総括」

「従軍慰安婦」問題と上野認識論のアポリア — 「表象」・「パラダイム」転換をめぐる

1. 「表象」と「真実」

2. 「パラダイム」転換 — 「言説」の世界と現実の世界

歴史学と客観性

「上野 — 吉見」論争と歴史家たちの応答

思想家安丸良夫の見解

上野歴史認識論と歴史家たち

結びにかえて—「歴史学の危険」か? —

논문명 : 台湾の阿媽たちとともに—裁判支援活動を通して

저 자 : 柴洋子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第48号

발행연도 : 2005年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 64~70쪽

차례 :

はじめに

裁判になかで

台湾における二つの被害形態

原告たちの被害事実の概要

(一)漢民族 高宝珠さんの場合

役所からの招集通知で広東へ

さらにビルマの山奥へ

ラングーンへ

日本敗戦後の生活

年若い、身体も弱った現在

(二)原主民タロコ族のイワル・タナハさんの場合

阿媽と婦援会の活動

最後に

논문명 : 沖縄ーキャンプ・コサに収容されていた朝鮮人「慰安婦」の写真

저자 : 日本の戦争責任センター

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第49号

발행연도 : 2005年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 82~83쪽

차례 : 없음

논문명 : 特集 「慰安婦」・性暴力裁判の成果と課題 : 「在日元従軍慰安婦」謝罪・報償請求事件裁判の成果と課題

저자 : 朱秀子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第47号

발행연도 : 2005年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽수 : 2~7쪽

차례 :

はじめに

宋さんの経歴と被害の実態

「支える会」の発足と提訴にいたるまで

宋さんの人間不信と性意識

削かれた民族性と差別

東京地裁・東京高裁の判決を受けて

裁判継続の苦悩と支援者との絆

これからの課題として

논문명 : 特集 「慰安婦」・性暴力裁判の成果と課題 : 三西省性暴力被害者裁判と関連する活動

저자 : 川口和子・川見公子・石田米子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第47号

발행연도 : 2005年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 8~13쪽

차례 :

三西省性暴力被害者裁判と関連する諸活動の概要

三西省性暴力の被害実態の解明

被害女性・原告との交流と裁判支援のための活動

訴訟の経過

논문명 : 慟哭の航路—日本軍「慰安婦」を運んだ陸軍徴備船

저자 : 平尾弘子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第51号

발행연도 : 2006年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 60~63쪽

차례 :

陸軍徴用備船となった貨客船三池丸

三池丸乗組員の証言

太平洋戦争開戦時の三池丸の航跡

女性たちの慟哭

朝鮮人女性移送の航路

戦後六〇年—犠牲者の悲哀の尊厳

논문명 : アメリカ下院の「慰安婦」決議と日本政府の妨害活動

저자 : 荒井信一

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第54号

발행연도 : 2006年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 40~43쪽

차 례 :

決議案の提出
日本政府の妨害活動
逆転と歴史問題
展望

논문명 : 特集 「慰安婦」問題の最前線 : 米下院「慰安婦」決議案と河野談話—日本軍
「慰安婦」制度研究の最新の知見から

저 자 : 吉見義明

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第56号

발행연도 : 2007年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 2~10쪽

차 례 :

強制とは何か
植民地(朝鮮・台湾)ではどうだったか
占領地(中国・東南アジア・太平洋地域)
未成年者の連行・使役に問題はないのか
慰安所の状況は強制使役ではなかったか
強制を業者が行った場合、日本軍に責任はないのか
「従軍慰安婦」という用語を使うべきはないのか
結論

논문명 : 特集 「慰安婦」問題の最前線 : [資料紹介]東京裁判で裁かれた日本軍「慰
安婦」制度

편 자 : 日本の戦争責任センター

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第56号

발행연도 : 2007年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 3~17, 27쪽

차 례 :

解説

- [資料1] (PD5330 / EX1702) 인도네시아·볼네오島(카리만탄) 폰테아나ック 日本海軍占領
期中蘭領東印度西部볼네오에於ける強制売淫行為에關する報告
- [資料2] (PD5326 / EX1701A) 인도네시아·볼네오島(카리만탄) 폰테아나ック
폰테아나ック 虐殺事件에關する一九四六年三月一三日付林秀一署名付訊問調書
- [資料3] (PD5591 / EX1794) 인도네시아·모아島
오히라·세이다이陸軍中尉의宣誓陳述書 一九四五年一月一三日
- [資料4] (PD5770 / EX1725) 인도네시아·ジャワ島マダラン
イエ·베를만의尋問調書 一九四六年五月十六日
- [資料5] (PD5806 / EX1792A) 포르투갈領チモール(東チモール)
루이스·안토니오·누메스·로드리게스의宣誓陳述書 一九四六年六月二六日
- [資料6] (PD52772E-5 / EX2120) 베트남·ランソン
니엌·테이톤의口術書抜粹
- [資料7] (PD2220 / EX353) 中国桂林
軍事委員會行政院戰犯罪証拠調査小隊「桂林市民控訴 其の一」一九四六年五月二七日
- [資料8] 井関恒夫『西ボルネオ主民虐殺事件一檢証「ポンテアナ事件」』(不二出版、一九八七年)

논문명 : 特集 「慰安婦」問題の最前線 : [資料紹介]日本の裁判所が認定した日本軍
「慰安婦」の被害事実(上)

편자 : 坪川宏子

게재지 : 季刊 戦争責任研究 第56号

발행연도 : 2007年

발행처 : 日本の戦争責任センター

쪽 수 : 28~39쪽

차 례 :

解説

「判決パンフ」作成の背景
何か事實認定されているか
背景事情について
各原告の被害事実について
最後に

- [資料] 1. 韓国遺族会裁判 東京高裁判決 二〇〇三年七月二二日
 2. 関釜裁判 山口地裁下関支部判決 一九九八年四月二七日
 3. ヒイリビン裁判
 4. 在日韓国人裁判 東京地裁判決 一九九九年一〇月一日

[参考資料] 「慰安婦」関係調査結果発表に関する内閣官房長官談話(「河野談話」一九九三年八月四日
 「いわゆる従軍慰安婦問題について」内閣官房内閣外政審議官 一九九三年八月四日

3. 보고서

보고서명 : 従軍慰安婦問題アジア連帯会議報告集

편 자 : 従軍慰安婦問題行動ネットワーク

발행연도 : 1992年

발행처 : 従軍慰安婦問題行動ネットワーク

쪽 수 : 94쪽

차 례 :

報告集発刊にあたって

日程表

元従軍慰安婦証言1 (盧清子)

元従軍慰安婦証言2 (金福童)

〈韓国側発題〉

挺身隊問題に対する歴史的考察(尹貞玉)

天皇制、軍国主義、女性(鄭鎮星)

挺身隊(慰安婦)問題解決のための運動の展開過程とこれからの課題(尹美香)

〈日本側発題〉

〈従軍慰安婦〉問題と日本の女性—日本の女性の立場から考える(鈴木裕子)

日本での取り組み(高橋喜久江)

「慰安婦問題」解決のためのアジア連帯会議(清水澄子)

裁判闘争報告(福島瑞穂)

〈在日の発題〉

ウリ・ヨソネットの立場と今後の活動(朴潤南)

「朝鮮人従軍慰安婦問題を考える会」の活動について(高順子)

従軍慰安婦の真の解決のために(朴美佐子)

〈アジアからの発題〉

台湾従軍慰安婦第一回報告書(Mei-Ling Chen 台湾)

フィリピンからの従軍慰安婦に関するアジア会議への報告(Nelea Sancho Lios フィリピン)

泰緬鉄道に関係した従軍慰安婦と強制労働者(Somkad Mahissja 香港)

従軍慰安婦に関する問題点(ゴビンド・ケルカー タイ)

マレーシアの慰安所(松井やより)

従軍慰安婦問題と沖縄(高里鈴代 沖縄)

〈決議文採択〉

決議

参加者一覧



동북아역사재단
NORTHEAST ASIAN HISTORY FOUNDATION



동북아역사재단

NORTHEAST ASIAN HISTORY FOUNDATION

한일 역사현안 관련 일본군 '위안부' 연구논저 목록·하

—
Ⅲ
·
중
국
—

동북아역사재단

동북아역사재단

동북아역사재단

NORTHEAST ASIAN HISTORY FOUNDATION



동북아역사재단

NORTHEAST ASIAN HISTORY FOUNDATION

1. 저 서

책 명 : 日军慰安妇内幕
저 자 : 谢永光
발행연도 : 1993年
발행처 : 香港 : 明报出版社
쪽 수 : 285쪽
차 례 : 없음

책 명 : 随军慰安妇 庆子
저 자 : 千田夏光
역 자 : 徐宪成

발행연도 : 1996年

발행처 : 北京 : 群众出版社

쪽 수 : 225쪽

차례 :

前言 追寻日本帝国陆军的耻辱 - 随军慰安妇

第一章 女人上陆 - 为1000元定金而受雇于军队

第二章 从博多到上海 - 道批129名随军慰安妇

第三章 在上海陆军吾娱乐所的日子 - 士兵2元, 军官5元

第四章 第124联队的娼妓 - 与博多连队的重逢

第五章 转战, 再转站 - 战败期间的腊包尔

第六章 垂死的遗败 - 密林的饥饿地狱

后记 庆子战后的36年

译后语

책명 : 昭示 中国慰安妇 跨国跨时代调查白皮书

저자 : 江浩

발행연도 : 1998年

발행처 : 西宁 : 青海人民出版社

쪽 수 : 372쪽

차례 :

一

二

三

四

五

六

七

附录

(一)

(二)

(三)

- (四)
- (五)
- (六)
- (七)
- (八)
- (九)
- (十)

책 명 : 台湾慰安妇报告

저 자 : 妇女救援基金会 主编

발행연도 : 1999年

발행처 : 台北 : 台湾商务印书馆股份有限公司

쪽 수 : 305쪽

차 례 : 없음

책 명 : 慰安妇研究

저 자 : 苏智良

발행연도 : 1999年

발행처 : 上海 : 海书店出版社

쪽 수 : 414쪽

차 례 :

自序

楔子 慰安妇问题震惊世界

- 一. 金学顺的血泪控诉
- 二. 李东秀子作证日本国会
- 三. 亚洲的愤怒
- 四. 何谓慰安妇
- 五. 文明世界的耻辱

第一章 慰安妇制度探源

- 一. 海外驻军面临的新问题

- 二. 上海的日本驻军与日本公娼
- 三. 冈村宁次与慰安妇团
- 四. “大一沙龙”
- 五. 朝鲜人在上海的风俗营业
- 六. 关东军中的慰安所
- 第二章 慰安妇制度的正式确立
 - 一. 日军军纪大崩坏
 - 二. 南京大屠杀与慰安妇制度的实施
 - 三. 松井石根的命令
 - 四. 杨家宅娱乐所
 - 五. 日本军民联手炮制慰安所
 - 六. 江湾的日军慰安所
- 第三章 慰安妇制度的展开(一) — 中国南方的日军慰安所
 - 一. 上海的日军慰安所(一)
 - 二. 上海的日军慰安所(二)
 - 三. 上海的日军慰安所(三)
 - 四. 以南京为中心的江苏“皇军俱乐部”
 - 五. 浙闽赣的“特种妇女”
 - 六. 湘鄂皖的慰安所
 - 七. 两广的慰安所
 - 八. 遍及海南的日军慰安所
 - 九. 香港和西南的慰安所
- 第四章 慰安妇制度的展开(二) — 中国北方的日军慰安所
 - 一. 平津地区的“军人俱乐部”
 - 二. 冀鲁豫的日军慰安所
 - 三. 山西, 内蒙的慰安所
 - 四. 白山黑水间的慰安所
- 第五章 慰安妇制度的扩大 — 东南亚和日本的慰安所
 - 一. 东南亚各地的慰安所(一)
 - 二. 东南亚各地的慰安所(二)
 - 三. 日本本土的慰安所
- 第六章 慰安妇制度的运作
 - 一. 慰安妇制度的指挥管理系统
 - 二. 慰安妇的征召
 - 三. 慰安妇的输送

- 四. 慰安所的名称与类型
- 五. 慰安所的内部管理
- 六. 慰安妇与日军的性病
- 七. “皇军”与慰安妇
- 第七章 慰安妇制度生产的背景及其本质
 - 一. 慰安妇制度与日本近代社会
 - 二. “军中乐园”实行之原因
 - 三. 慰安妇制度的实质
- 第八章 各国慰安妇：地狱里的囚徒
 - 一. 慰安妇的国籍和数量
 - 二. “中国P”
 - 三. 台湾慰安妇
 - 四. 朝鲜的“女子挺身队”
 - 五. 日本慰安妇
 - 六. 白人慰安妇
- 第九章 慰安妇的生活实态
 - 一. 性奴隶：从军慰安妇
 - 二. 战时慰安妇的苦难
 - 三. 慰安妇的生活实例
 - 四. 战败时的慰安妇
 - 五. 战争的结束和慰安妇
- 第十章 战争还没有结束 — 慰安妇问题50年回顾
 - 一. 知识界的良心 — 慰安妇研究的发轫
 - 二. 慰安妇研究的深入
 - 三. 中国学者的努力
 - 四. 中国政府的立场
 - 五. 亚洲妇女基金会的活动
 - 六. 联合国对慰安妇问题的调查
 - 七. 历史是一面镜子

慰安妇问题年表(1932~1997)

本书征引书目

後记

책 명 : 日军性奴隶 中国“慰安妇”真相

편 자 : 苏智良

발행연도 : 2000年

발행처 : 北京 : 人民出版社

쪽 수 : 182쪽

차례 :

自序

慰安妇就是日本军性奴隶

慰安妇团到来上海

南京大屠杀与慰安妇制度

上海杨家宅娱乐所

日军全面实施慰安妇制度

日军为什么要建立慰安妇制度

慰安所的类型和分布

日军对慰安所的管理

避孕套和“星秘膏”

中国是慰安妇制度的最大受害国

日军怎样强征中国慰安妇的

军事性奴隶的结局

参绝人寰的苦难 — 万爱花的控诉

永远不能愈合的伤口 — 袁竹林的自述

烽火下的母女悲歌 — 台湾阿妈的回忆

幸存者战后的生活实况

对日本右翼在慰安妇问题上谬论的批判

日本政府对慰安妇问题上的法律责任

联合国关于慰安妇问题的报告

各国慰安妇幸存者对日本政府提起的诉讼

中国慰安妇幸存者控诉日本政府

后记.

책 명 : 滔天罪孽 二战时期的日军“慰安妇”制度

편 자 : 苏智良, 荣维木, 陈丽菲

발행연도 : 2000年

발행처 : 上海 : 学林出版社

쪽 수 : 703쪽

차례 :

序言 - 苏智良

一. “慰安妇”制度的起源

- “从军慰安妇”问题的由来 - 千田夏光著 唐棣译
- 侵华日军“慰安妇”制度的略论 - 苏智良, 陈丽菲
- 试论侵华日军建立“慰安妇”制度的原因 - 刘惠怒
- 甲午战争以来日军对中国妇女的暴力问题 - 邵雍
- 日本军国主义与“慰安妇”制度 - 孟庆龙
- 日军妇女暴行和战时中国妇女杂志 - 江上幸子

二. “慰安妇”制度的实施

- 大衣沙龙 - 侯桂芳
- 战时日军的第一家慰安所 - 苏智良
- 关于上海四个日军慰安所的调查 - 苏智良编
- 寻访“海乃家” - 李凯琦
- 江湾万安路 - 日军的行乐“花街” - 胡海英
- 宝山慰安所揭密 - 傅家驹
- 日军侵华海军与上海慰安所 - 华强
- 档案中发现的有关上海日军“慰安妇”问题 - 陈正卿, 庄志龄
- 日军南京强奸事件与慰安所的罪恶 - 高兴祖
- 南京大奸杀是日军对人类文明社会的集体犯罪 - 朱成山
- 南京大屠杀期间日军慰安所惨状 - 高兴祖
- 南京下关区侵华日军慰安所的调查报告 - 张连红, 李广廉
- 南京日军“慰安妇”制度的实施 - 陈娟
- 侵华日军在南京实施“慰安妇”制度始末 - 经盛鸿
- 侵华日军南京慰安所调查 - 段月萍
- 凤宜楼慰安所始末 - 汪业新
- 侵琼日军“慰安所”实象 - 符和积
- 关于日军强征山西“慰安妇”的调查报告 - 刘萍
- 日军山西孟县河东据点的性暴力 - 石田米子
- 侵华日军在山西孟县的性暴力 - 英豪

日军在汉口积庆里的陆军特殊慰安所 — 房建昌, 森久男
论日军在中国华北的性暴力 — 何天义
天津日军“慰安妇”之供给系统 — 林伯耀
侵华日军滇西慰安所与“慰安妇” — 陈祖梁
台拓企业与“慰安妇”制度 — 朱德兰

三. 苦难的军事性奴隶受害者

侵华日军中的“慰安妇” — 裘适
日军侵略者强迫中国妇女做“慰安妇”实录 — 稣实
日军“随军慰安妇”的血泪 — 朱鼎元
关于朝鲜妇女充当“挺身队”(“慰安妇”)问题 — 尹贞玉著, 刘黎明译
台湾“慰安妇”问题的最近动向 — 陈丽菲
让正义苏醒 — 台湾“慰安妇”记事 — 庄国明
她们的伤口尚没愈合 — 台湾“慰安妇”问题的进展 — 王清峰

四. 关于“慰安妇”问题性质的认识和战后赔偿

谁在制造谎言 — 荣维母
“慰安妇”问题和日本的国际化 — 管宁
“慰安妇”问题和日本的战争责任认识 — 步平
“慰安妇”问题和日本的战争罪责 — 卞修跃
日本与德国战后赔偿比较研究 — 姜维久
评德国和日本的不同的二战史观 — 李乐曾
战后日军对华赔偿问题 — 赵聆实
日本侵华罪行及中国战争损失调查当议 — 石源化
关于“慰安妇”问题的一些思考 — 林晓光
中国“慰安妇”调查办法的初探 — 张量
日本军队对被害国妇女实施性暴力及原因探索 — 马振犊
关于中国部分“慰安妇”受害事实调查及相关法律问题 — 康健
从国际法看日本侵华战争的民间赔偿问题 — 管建强
日本侵华战争的民间受害者对日索赔问题研究 — 丁伟
日本对战争受害者赔偿问题述评 — 吴广义
“慰安妇”索赔的法律问题部析 — 龚柏华
喜见“慰安妇”打破沈默 — 冯英子
对日军“慰安妇”赔偿的回应 — 杜学魁
义助“慰安妇” — 李敖

东京的烛光 — 陈丽菲

五. 关于“慰安妇”问题的资料

日军强征“慰安妇”史料一则 — 北京市档案馆

日军强逼中国妇女“慰安妇”资料摘编 — 何吉

新发现的日军强征天津妇女充当“慰安妇”的史料部析 — 李秦

从军“慰安妇”问题综述 — 杨昭全

中国“慰安妇”问题国际学术研讨会述评 — 陈丽菲, 苏智良

《慰安妇研究》评述 — 沈智

上海《中国“慰安妇”问题国际学术研讨会宣言》

2000年“女性国际战犯法庭”宪章 — 苏智良译

책 명 : 台日官方档案慰安妇史料汇编

저 자 : 台湾省文献委员会

역 자 : 王学新 编译

발행연도 : 2001年

발행처 : 南投 : 台湾省文献委员会

쪽 수 : 357쪽

차 례 : 없음

책 명 : 军国之女 : 日本女性与「大东亚战争」

저 자 : 李建军

발행연도 : 2001年

발행처 : 贵阳 : 贵州人民出版社

쪽 수 : 426쪽

차 례 :

序章 正被罪恶的沉淀 擦亮历史的镜子

“军国之女”，辱敏永志的牺牲品

军国主义，扬幡招魂还是除恶务尽

第一章 组约为虐的“大日本国防妇人会”

	军阀的谎言与女人的躁动
	“昭和之列女”与刽子手
	后方的“贞淑之女”与前方的“现地妻”
第二章	从军慰安妇
	“芒果病”，“南京事件”与慰安妇制度的建立
	占地“特殊军用品”
	慰安妇事态
	“冲锋1号”与“卫生性公共厕所”
	满洲的慰安妇
	中国内地的慰安妇
	东南亚，南洋的慰安妇
	“人种展览”
	滇西的慰安妇，“最后的悲剧像”
	向强大的胜利者“慰安”，苏军的“慰安妇”
	美军的“慰安妇”－R·A·A的建立及其影响
	遥远历史的回声
第三章	“从军看护妇”
	天使还是魔鬼？
	“日赤”的建立与“从军看护妇”的产生
	瓜达尔卡纳尔岛，阿图岛之战中看护妇
	英帕尔战役中的看护妇
	赛班岛，“玉碎的防波堤”
	菲律宾丛林战役
	冲绳之战中的看护妇
	剧变的角色，中国战场的看护妇
	被历史遗忘的“天使”
第四章	“我们支撑着圣战”－后方“经济战”中的女性
	“早婚运动”与人口资料的开发
	“价格伤残的军人运动”
	“为国义务就劳动”
	“经济战”的战果－铸犁为剑
	贫困物语：“奢侈是敌人”
第五章	“帝国之花”－秘密战中的日本女性
	“超级爱国者”，侵略战争的尖兵
	满洲谍报战：从日俄战争到“大东亚战争”

- 上海的东洋“玛塔·哈丽”
 太平洋与美洲大陆谍报战
 “东京玫瑰”
 东南亚的“皇军先遣队”
 双面“女谍”
 “妖花”川岛方子
- 第六章 覆巢破卵，空袭下的本土女性
 “神国”初破
 “江户之花”与焦土上的“蝼蚁”
 “飞象行动”与巫术
 “原爆”及其影响
- 第七章 塞班，冲绳岛的女性 — “玉碎”的殉葬品
 “武士道”·“玉碎”“切服”与国民性
 “一亿玉碎”的“本土作战计划”
 胞弱的“太平洋防波堤”
 塞班的“万岁突击”与疯狂的自决行动
 冲绳的“铁血台风”
 异类的战争罪行
 “同是天皇陛下的赤子”？
 冲绳的“集团自决”
 美国占领军与冲绳绳女性
- 第八章 “满洲开拓团”的女性 — 日本帝国的弃民
 “满洲开拓案”与“大陆政策”的遂行
 “无主旷野”上的新地主
 “大陆的花嫁”运动
 “五族协和，王道乐土”
 “前锋屹立着神勇的关东军”
 末日里的殖民者
 “满洲开拓少年义勇军”的覆灭
 阿城“威灵碑”
 葛根庙，麻山事件
 立花珠美传奇
 “虏囚之苦”
 “突击寻夫”
 魂断回归路

“残留孤儿”，“残留妇儿”，日本永远的弃民
大事年表
主要参考书目

책 명 : 被掠往侵略战场的慰安妇 韩国挺身队问题对策协议会

편 자 : 韩国挺身队问题对策协议会

역 자 : 金镇烈, 黄一兵

발행연도 : 2001年

발행처 : 北京 : 中国文史出版社

쪽 수 : 476쪽

차례 :

在中国被日本人却持 — 金学顺
噩梦般的日子正在等着我 — 金德镇
在广州的那条胡同里 — 李英淑
被骗到被陌生的上海 — 河顺女
跟着部队转移到南京 — 吴五穆
他们告诉我这里是吉林 — 黄锦周
我们竟然被送到了“满洲” — 文必瑾
我是妈妈！我要回家 — 李容洙
12岁的时候我走进了“彰化慰安所” — 李玉粉
这是慰安所，是接待军人的地方 — 文玉珠
我们到的目的地部署日本，而是中国 — 李玉顺
我再没有能够见到家里的人 — 李相玉
我凄惨的慰安妇生活在汉口开始 — 李得南
可能我就要死在这里了 — 李用女
挣扎在密林中的死亡线上 — 金台善
我们做梦也没有想到是接待军人的 — 朴顺爱
登上一列窗户被封闭的火车 — 崔明顺
我试图逃出那个非人的地方 — 姜德景
慰安所里我家竟咫尺之遥 — 尹头理
在台湾洞穴里做了海军慰安妇 — 陈庆彭
我下般的那个港口是台湾彰化 — 朴头理
军人们我的房门上贴了姓名和号码 — 姜顺子

他的年龄跟我父亲一样大 — 孙判妊
从广东, 香港到新加坡, 印度尼西亚 — 金福东
最终, 我下般的地方是台湾 — 金分善
那个人告诉我广东好玩极了, 还能赚钱 — 朴莲伊
在中国和苏联边界的乐园慰安所里 — 金春子
他们命令我去杭州 — 裴足间
在“满洲”的那13年里 — 崔一礼
在那些被强占的中国人的房子里 — 吕富实
那列火车真奔中国的哈尔滨 — 全锦花
在雄基和中国珥春成为慰安妇 — 崔贞礼
看见军人我大大地吃了惊 — 朴顺伊
码头上已经有军人在蹬着我们了 — 金银珍
后记 — 译者

책 명 : 慰安妇

저 자 : 乔治·希克斯(Hicks, George)

역 자 : 滕建群

발행연도 : 2002年

발행처 : 北京 : 新华出版社

쪽 수 : 279쪽

차 례 :

为什么要翻译出版这本书

致谢

姓名, 机构和货币交换比率说明

引子

- 一. 被掩盖的事实浮出水面
- 二. 诱骗和拐卖
- 三. 非正义没有得到复仇

第一章 战争与性

- 一. 战士与性
- 二. 日本的理由
- 三. 娼妓业的前因后果 : 日本的扩张和军国主义的兴起
- 四. 第二次世界大战前和占领区中的日军

第二章 人肉市场

- 一. 从村落到慰安所：招募
- 二. 劫持奴隶式的袭击和前线的军事行动
- 三. 三宝瓏案：性奴隶制

第三章 战区内的性

- 一. “开苞”，把妇女们投入工作
- 二. 作战中的“慰安妇”
- 三. 慰安所里的时间已到
- 四. 爱与友情

第四章 上海和其他不同版本的规定

- 一. 冲绳岛的规定
- 二. 中山部队，头山部队和常州的规定
- 三. 马尼拉的规定
- 四. 金钱问题
- 五. 存在的健康问题

第五章 太阳帝国

- 一. 日本
- 二. 琉球和小笠原群岛
- 三. 台湾
- 四. 帝国的各个角落
- 五. 太平洋诸岛屿
- 六. 拉包尔
- 七. 菲律宾
- 八. 新加坡和马来亚
- 九. 缅甸
- 十. 印度尼西亚

第六章 一场噩梦的终结，另一场噩梦的开始

- 一. 为占领军慰安
- 二. 恢复正常的生活

第七章 觉醒和揭露

- 一. 日本与韩国1965年达成的基本条约
- 二. 早期的举办：1972年的劳工问题
- 三. 韩国的女权主义和妇女组织
- 四. 没有人愿意作证
- 五. 卢泰愚的日本之行和它的结果

- 六. 日本拒不承认事实
- 七. 韩国妇女的6项要求
- 八. 反应, 行动和突破

第八章 性的政治

- 一. 日本首相访问韩国
- 二. 法律诉讼开始
- 三. 媒体和公众注意力
- 四. 日本右翼分子的态度
- 五. 作为赔偿的替代名词, 道歉性报酬?

第九章 政府开口说话

- 一. 日本方面的报告
- 二. 韩国政府的报告
- 三. 妇女委员会的反应
- 四. 朝鲜的报告

第十章 国际范畴

- 一. 新加坡和马来西亚
- 二. 台湾
- 三. 菲律宾
- 四. 印度尼西亚
- 五. 亚洲“慰安妇”团结大会
- 六. 关于日本战后赔偿的国际公共听证会
- 七. 日本承认恫吓现象

结束语

日本的责任
得到世界的关注

책 명 : 铁盒里的青春 台籍慰安妇的故事
편 자 : 台北市妇女救援基金会采访记录 夏珍
발행연도 : 2005年
발행처 : 台北 : 天下远见出版股份有限公司
쪽 수 : 184쪽
차 례 : 없음

책 명 : 海南文史 : 纪念中国人民抗日战争暨世界反法西斯战争胜利60周年

저 자 : 杜汉文, 副主编 云惟俊, 海南省政协文史资料委员会 编

발행연도 : 2005年

발행처 : 海南出版社

쪽 수 : 462쪽

차례 :

序

一. 日寇在海南的暴行

日寇铁蹄下的海南岛

一场惨无人道的大屠杀

死里逃生忆当年

令人刻骨铭心的往事

乐罗村血案

水南遭劫 志士遇难

日军纵火焚毁抱旺村

日军暴行所见

岭村毒气惨案

苦难的劳工生活

日军焚烧劳工目击记

宁当少年鬼 不做亡国奴

“走日本”和做日本工

日军血洗乐会县互助乡的罪行

日军迫害妇女的残暴手段

翠绿园 — 陵水县日军慰安所

日军在万成设立慰安所的罪行

王家槐所著《海南近志》抗战史料评注

海口发现日军侵琼图片

铁证 : 日寇当年垂涎“常夏宝库”

二. 琼崖东线齐抗日

琼崖“战时党政处”活动遗址

石山, 道堂之战

夜袭公园锄汉奸

抗战时期琼崖革命根据地的医疗工作

在抗战硝烟中诞生的琼崖特委初级党校

琼东，乐会县抗日斗争历史纪实
抗日民族统一战线在万宁的胜利
李振亚将军在六连岭的战斗生活
一个交通员的抗日足迹
救死扶伤为抗日 严刑拷打不动摇
营救美国飞行员
海上夺粮助抗日
抗日烈士陈鸿儒
我没忘记自己是个中国人

三. 琼西烽火

创建琼西抗日根据地 坚持反“蚕食”斗争
血泪烽烟话当年
北岸石丛点烽火
儋县抗日初期战事回忆
王焕先生抗日爱国事略
国共合作打日寇 高第齐心卫村庄
抗日堡垒水井村
王坊村民抗日纪事
烽火年华 峥嵘岁月
父亲邓瑞英热心抗日的两件事
胸怀民族仇 勇敢杀日寇

四. 鏖战琼西南

莺歌海 — 扛过母瑞山来的抗日战旗
国恨家仇深似海 小女子挥枪上战场
为铲除汉奸而英勇献身的史伯龄
黑眉反击战
黎族民兵袭击旧村日军据点的经过
袭击三井洋行始末
拨除老伯日寇据点战斗的回忆
陶世民血洒抗日路
为民献身 浩气长存
为国捐躯 雄风犹在
抗日英烈陈曼夫
共产党的挚友林超宇

五. 五指山风云

日军侵琼 黎苗遭殃
日军在红毛下乡的罪行
黎民抗税斗争与日军“扫荡”太平乡
日军火烧八村王毅司令部
抗战时期琼崖国民党党政军机构及人员一览表
抗战期间罗山苗民的斗争
中平“河濫国际村”拯救同盟国战俘经过
诞生于战火中的任之小学
烽火中七次迁徙的定安中学

六. 琼侨与抗日

忆沦陷时期的淡边柔河与琼州会馆
新, 马侨胞罹难记
在马来半岛的困难日子里
国家兴亡 匹夫有责
我当南侨机工的回忆
参加中印缅公路上战斗的亲历

七. 琼籍国民党将士抗日事迹选编

叶佩高将军与抗日战争
血泪的史诗
韩建勋将军传略
抗日航空烈士莫同渐
王守诚小传
孤岛喋血卫难疆 琼崖忠烈壮山河

八. 纪念琼崖抗日战争胜利60周年论文选登

琼崖女性热血丰碑
日本侵略海南时期的慰安妇制度浅探.

책 명 : 沉默的伤痕 : 日军慰安妇历史影像书

저 자 : 赖采儿

발행연도 : 2005年

발행처 : 台北市 : 商周出版

쪽 수 : 193쪽

차 례 : 없음

책 명 : 以人类的名义 向日本控诉

저 자 : 柳白

발행연도 : 2005年

발행처 : 北京 : 中国长安出版社

쪽 수 : 267쪽

차 례 :

卷头语

第一部 昨天·今天 中国“慰安妇”

第一章 李秀梅

不平静的冬夜

那年 你才十五岁

我说 我要说!

进圭村 那孔窑洞

家破人亡

父亲 这样活

日本老兵重返西烟镇

泪别西烟

第二章 侯冬娥

总以为你活著

她是进过炮楼的!

美丽是灾祸

再入魔窟

患难结真情

第三次出嫁

诉不尽的冤仇

赴日之行

诀别人生

第三章 胡良侣

道义与伤痕同在

澧县行

往事仇深

初识胡良侣

下等人家

十二岁当家

	那一个雨夜
	澧水伤别
	追记：位卑未敢忘忧国 — 记山村教师张双兵
第二部	黑太阳下的细菌战 鼠疫肆虐崇山村
第四章	崇山血案
	义乌飞鸿
	未了仇结
	鼠疫悄悄降临
	死亡开始了……
	祸及四方
	活体解剖 — 崇山人第二劫
	劫後餘生者言
第五章	细菌肆虐
	一页被隐瞒的罪恶
	受害者的血泪控诉
	追记 侵华日军细菌战受害者诉讼二审开庭
第三部	旷古绝伦的大屠杀
	无锡太湖马山岛屠杀幸存者 赵锡金
	南京大屠杀幸存者 石怀瑜 徐绍亮 李秀英
第六章	血染太湖水
	在日本驻华使馆门前
	五十六年恨与仇
	日寇血洗马山岛
	和平村 依然在流泪……
	我和日本不共戴天!
第七章	石怀瑜
	虐杀成性的日本兵
	最难忘 下关诀别
	九死一生渡长江
第八章	徐绍亮
	谁之罪?
	混乱的下关
	下关屠杀亲历记
第九章	李秀英
	寻找李秀英

我们是李逵的後代!
那一天是12月12日
死亡 不屬於你
中国母亲的誓言

第四部 广岛·原子弹 蘑菇云下的中国幸存者著

第十章 原子弹爆炸幸存者张文彬
高清珍 你在哪里?
一段不寻常的经历
生死难卜
原来要去当劳工
去日本
苦役与死亡
风云突变

第十一章 为了申诉 重返日本
原子弹爆炸的时刻
重返日本
广岛啊广岛!
和平在哪里?
新島寻踪
寻找曾经的温情
日本, 没有从战争噩梦中醒来
追记 怀念李秀英大娘

第五部 索赔 索赔……

第十二章 索赔 — 不可抗拒的历史潮
蜀人童增
中国 没有遗忘……
索赔宣言
索赔 开始了……
漫漫索赔路
忘记历史的民族没有未来

後记

책 명 : 战时“性奴隶”制度与战后的起诉提要 慰安妇制度

저 자 : 苏智良

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 哈尔滨 : 黑龙江人民出版社

쪽 수 : 미상

차 례 : 없음

책 명 : 日本对海南的侵略及其暴行

편 자 : 苏智良

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 上海 : 上海辞书出版社

쪽 수 : 미상

차 례 : 없음

책 명 : 日本侵华遗留问题和赔偿问题(上册)

편 자 : 苏智良, 荣维木, 陈丽菲

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 商务印书馆

쪽 수 : 506쪽

차 례 :

序言 — 苏智良

中国领导人关于日本侵华战争及其遗留问题的讲话

日本侵华战争及其遗留问题急议 — 苏智良, 陈丽菲

中日战争遗留问题研究述评—荣维木

东京审判的反思 — 何天义

《旧金山和约》的注脚 — 王选

《旧金山和约》和《日台和约》与美日的“台湾地位未定”论 — 余子道

1952台北和议中日本利用中国不统一逃脱战争赔偿 — 曾景忠

日本对亚洲国家战争赔偿立场之比较—以国家间的赔偿为中心 — 袁成毅

《大东亚战争的总结》批判 — 王喜亮

日本人的战争认识 — 藤原彰
对自由主义史观于司马史观的批判 — 津田道夫
日本右翼势力研究拟议 — 何里
日本右翼思潮与右翼团体史考 — 林绍光
日本的侵略与日本人的战争观 — 江口圭一
试论战后日本右翼势力 — 张跃斌
歪曲历史的“国民运动” — 佘义文
关于历史教科书问题的思考 — 今井勉
从《新历史教科书》到《最新日本史》 — 郭素美
“日本会议”与《最新日本史》 — 王智新
日军对中华妇女史无前例的强暴 — 被强奸这远多于“慰安妇” — 吴天威
“慰安妇”问题与日本战争罪责 — 卞修跃
侵华日军“慰安妇”制度略论 — 苏智良, 陈丽菲
二战期间在日本的中国劳工 — 陈景彦
论战后赴日化工归国级遗留问题 — 居之芬
被强掳到大阪筑港的中国劳工 — 林伯耀
日本企业的战争责任及民间赔偿问题 — 以制造“花冈惨案”的鹿岛建设公司为例 — 张艳梅, 安平.

책 명 : 日本侵华遗留问题和赔偿问题(下册)

편 자 : 苏智良, 荣维木, 陈丽菲

발행연도 : 2005年

발행처 : 商务印书馆

쪽 수 : 390쪽

차 례 :

从国际法看南京大屠杀 — 新美隆

驳松村俊夫对历史证人李秀英的诬陷 — 朱成山

日本侵华战争与战俘问题 — 从内海爱子的观点谈起 — 洛河

日本觊觎, 强点我钓鱼列屿的历史 — 再质奥原敏雄教授 — 吴天颖

评析30年前日本政府《关于尖阁诸岛所有权问题的基本见解》 — 鞠德源

世界华人保钓活动大事简象 — 简兆平

侵华日本驻北平及华北各地细菌部队研究概论 — 徐勇

侵华日本细菌战诉讼案回顾与思考 — 杨万株, 刘雅玲, 陈玉芳

齐齐哈尔“8·4”事件的历史考察 — 步平

日本是如何掩盖化学战罪行的 — 高晓燕
 关于吉林敦化日遗毒弹得两个现场 — 赵聆实
 依法兴日本提出1931—1945年侵华损害的索赔权利(1992年3月10日) — 王工
 中国战争受害者在日本各法院诉讼情况简述 — 康健
 中国战后补偿诉讼中的国际法争论点—个人请求的原则,《海牙公约》精神的复苏 — 高木喜孝
 平民个人受害赔偿的国际法依据与国际惯例简介 — 姜维玖
 论对日民间索偿的相关法律问题 — 管建强
 对日民间索偿法律问题探究 — 丁伟
 战后日本国对被占国的赔偿及相关法律问题评述 — 朱妙春, 许峰
 中国民间受害者对日本索赔存在的问题和对策 — 上海天宏律师事务所对日索赔课题组
 战争赔偿：七位著名法学者的观点—关于中国公民李秀梅等诉日本国损害赔偿案和中国公民刘连仁诉日本
 国损害赔偿案的法律适用的意见 — 谢怀栻, 江平等
 中国民间对日索赔运动的进程与走向 — 张连红
 笔谈中日关系中的历史问题 — 时殷弘等
 试论当代中日关系中的历史认识问题—兼评《中日接近和“外交革命”》发表引起的“外交新思考”问题 — 张
 海鹏
 论题：关于日本侵华战争的遗留问题 — 苏智良等

책 명 : 上海日军慰安所实录

저 자 : 苏智良, 陈丽菲, 姚霏

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 上海 : 上海三联书店

쪽 수 : 287쪽

차 례 :

1. 大衣沙龙
2. 三好馆
3. 小松亭
4. 永乐馆
5. 陆军慰安妇团 I, II.
- 6~15. 朝鲜人经营的慰安所
- 16~29. 美楣里的慰安所
30. 东优园
31. 大胜馆

32. 春园
33. 虹口行乐所
34. 上海军人俱乐部
35. かもめ - 沪上园慰安所
36. 旭俱乐部
37. 风月庄
38. 沪月
39. 末广
40. 东宝兴路135号慰安所
- 41~42. 东宝兴路8号, 260号慰安所
43. 六一亭
44. 四川里52号慰安所
45. 曙庄
46. 南昌上海馆
47. 三新里2号慰安所
- 48~55. 虬江路松柏里的慰安所
- 56~58. 虬兴路顺兴里的慰安所
59. 映生里3号慰安所
60. 余乐里19号慰安所
- 61~62. フロタター 酒吧和Idealism酒吧
63. 虬江支路116号慰安所
- 64~65. 海能路26号, 31号慰安所
66. 水乐庄
67. 远东舞厅
68. 新田食堂上海支点
- 69~72. 广东街的慰安所
73. 军之友社
74. 三亚贸易公司
75. 虹口旅社慰安所
76. 海军くがぬ俱乐部
77. 文路“花月”
78. 武昌路338号慰安所
79. 日之出酒吧
80. 汤恩路260号慰安所
81. 海乃家

82. 海乃家別管
83. 蒙特卡罗酒吧
84. 公共租界慰安所
85. 中华旅馆慰安所
86. 大上海旅馆慰安所
87. 靠近法租界的慰安所
88. 太仓路慈云别业慰安所
89. 梦花街慰安所
90. 南市食堂
91. 闸北, 虹口慰安所组合
92. 北火车站路局大楼慰安所
93. 浦东庆宁寺慰安所
- 94~95. 旗昌栈慰安所
96. 杨家宅慰安所
- 97~111. 江湾的慰安所
- 112~113. 政府路, 三民路的慰安所
114. 大康纱厂附近的慰安所
115. 千田, 深谷部队慰安所
116. 羽田别庄
117. 上海寮
118. 突击屋
119. 恭兴路军人俱乐部
- 120~136. 吴淞的慰安所
137. 上海郊外的慰安所
- 138~142. 嘉定的慰安所
143. 青浦县城慰安所
144. 崇明慰安所
145. 浦东高桥慰安所
146. 浦东塘桥慰安所
147. 罗店镇米家祠堂慰安所
148. 杨行“三百亩”慰安所
149. 松江第一慰安

책 명 : 为历史作证 一位摄影师9次赴日本采访侵华战争真相全录

저 자 : 张国通

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 开封 : 河南大学出版社

쪽 수 : 198쪽

차 례 : 없음

책 명 : 追索 朝鲜“慰安妇”朴永心和她的姐妹们

저 자 : 陈丽菲, 苏智良

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 广州 广东人民出版社

쪽 수 : 203쪽

차 례 :

第一章 怀孕的“慰安妇”

引子

来自美国国会图书馆的照片

什么是“慰安妇”

历史是这样被发现的

“慰安妇”受害者知多少

不堪回首的往事

被俘“慰安妇”来自何方

朴永心, 17岁的性奴隶

坎坷人生

“我就是这个怀孕的可怜人”

南京法庭巧遇朴永心

谁拍摄的裸照

了不起的南京人

第二章 从平壤到南京

“在南京, 我被叫做‘歌丸’”

南京的慰安所

去慰安所就像领配给品

日军颁布的慰安所规定

裴足间在南京的遭遇

	朴永心所在的利济巷
	利济巷2号的“高丽窑子”
	中，朝，日三国联合调查启航
	纪念馆老姐妹相遇
	重返利济巷
	朴永心再入“19号”
第三章	再返云南
	日军侵入滇西
	日军在云南的性暴力
	朴永心被带到滇缅
	腾冲的慰安所
	腾冲攻坚战中的“慰安妇”
	龙陵的日军慰安所
	腊勐日军慰安所
	血战松山
	松山战斗最后时刻的“慰安妇”
	被俘的“慰安妇”
	走近松山
	与救命恩人的重逢
	利济巷2号的去留
	后记
	参照书目

책 명 : 血痛 26个慰安妇的控诉

저 자 : 陈庆港

발행연도 : 2005年

발행처 : 北京 : 北京出版社

쪽 수 : 202쪽

차례 :

自序

那年花开

见证 日军慰安所

日本实施的慰安妇制度

日军慰安所数量无法统计

那大慰安所

新盈慰安所

石碌慰安所

金江慰安所

黄流机场慰安所

“战地后勤服务队”

采访 我不是日本娼

万爱花：第一个站出来控诉的中国女人

赵润梅：捆起来，放到毛驴背上

张仙兔：老头就哆嗦了一辈子

郭喜翠：不停地有鬼子来欺负

高银娥：每天都被带出去几次

王改荷：一枪托，牙掉了四颗

周喜香：落下了病，经常浑身抽搐

刘面换：毛驴说：“花姑娘，好！”

尹玉林：我过去的事没有告诉丈夫

黄有良：那夜我哭了一个通宵

陈金玉：我心里的曲气还没出

林亚金：他们来弄得满身是血

杨阿布：我跑了村里人会遭殃

蒲阿白：我被抓走，家人不知道

林爱兰：把我吊到屋顶上用棍打

谭玉莲：这一辈子受尽了屈辱

邓玉民：我哭，不敢说出来情

菜爱花：父母亲的眼睛都哭瞎了

王志凤：来了日本兵，我没出躲

符美菊：那些事说不出口的呀

李美金：晚上，日本兵往进挤

林石姑：就跳河想死掉

桌天妹：当年过得不是人的日子

郑金女：那时我还小，疼得真叫

朴来顺：再不要发生那可怕的战争

原声 怎一个痛字了得

很痛，现在还痛

片段 断片

我要他们低头认罪

慰安妇问题年表(1931~2005)

记住疼痛是为了不再疼痛

책 명 : 日军慰安妇制度批判

편 자 : 陈丽菲

발행연도 : 2006年

발행처 : 北京 : 中华书局

쪽 수 : 400쪽

차례 :

引子

第一章 日本近代独特的性政治

第一节 日本历史上自最早的“慰安妇”

第二节 游廓业与政治的蜜桔关系

第二章 海外妓业与日本的近代殖民扩张

第一节 日本近代以来的女性买卖业

第二节 日本的海外妓女业

第三节 不彻底的废娼运动

第三章 军队性奴隶制的萌芽于确立

第一节 战争前期的日本军队与日本妓女

第二节 “大一沙龙” — 日军首个以“慰安所”命名的军队性服务所

第三节 第一的为军队征集的“慰安妇团”

第四节 上海日本海军慰安所的发展

第四章 “慰安妇”制度的实施

第一节 南京大屠杀与性暴力

第二节 军队“慰安妇”制度的运作

第三节 南中国的慰安所

第四节 被中国的慰安所

第五节 日军与未按所的管理

第五章 “慰安妇”制度的扩大

第一节 朝鲜殖民地与“慰安妇”制度

第二节 地区的扩大 : 日军在东南亚的慰安所

第三节 对日军“慰安妇”制度的几点总结

第六章 日军暴力下的中国“慰安妇”

第一节 中国妇女的受害范围

第二节 中国妇女的受害身份类型

第三节 中国妇女的受害生存实态

第七章 伤者永痛

第一节 个区域受害者自述举例

第二节 资料和证言中的制度是太

第三节 战后的再伤害

第八章 战后的调查与赔偿

第一节 韩国受害者的东京起诉之路

第二节 中国受害幸存者的东京起诉之路

第三节 菲律宾受害者的东京起诉之路

第四节 国际上对受害者索赔的法律援助

第五节 日本政府的战争责任

中文参考书目

日文参考书目

后记

책 명 : 侵华日军战犯手记文档揭秘

편 자 : 张子峰

발행연도 : 2007年

발행처 : 北京 : 中国青年出版社

쪽 수 : 230쪽

차례 :

前言

一. 日军“北平西苑华北集中营”

[一] 日军“北平西苑华北集中营”轰动海内外

[二] 日本战犯上村喜赖笔下的《北平西苑华北俘虏营》

[三] 西苑华虏营的基本组织框架

[四] 俘虏人员的管理和文件

[五] “上村喜赖笔供述”未载部分的提示

[六] “西苑华虏营”的幸存者及周边群众的控诉与回忆

第一部 分图档

1. 上村喜赖笔供述的原件照片
2. 日军留下的“西苑华虏营”部分照片的档案
3. 今日“北平西苑华俘虏营”遗址考察照片
4. 日军留下的侵华事物及照片资料考察

二、日军北京“慰安妇”，“慰劳妇”

- [一] 日军“北京慰安所”的迷雾
 - [二] 日军“北京慰安所”，“慰劳妇”问题的缘起
 - [三] 印有“慰安妇”和“慰劳妇”资料的原件
 1. 遍布北京庞大而奇特的“日本妇女”共同居住场所
 2. “共同居住”的“日本妇女”的人数，地址分布
 3. “慰安妇”，“慰劳妇”，“女给”等称谓及住所初索
 4. 真索“慰安妇”戳印
 5. 数次发现的“慰安妇”印章戳记
 6. 仅有一份的“威取”称谓资料内含巨大的实证基础
 7. 日本投降后，共同居住的“日本女人”没有马上撤移北平
- 附.“集中居住日本女人”在北京各区街分布示意图

第二部 分图档

1. “日本妇女”原产地考察照片
2. 日军留下的日本妇女慰劳侵华日军的照片

日军侵华战争启示录

- [一] 日本教科书
- [二] 日本所谓的“日支事变”和“储金箱”
- [三] 参与“秦华战争从动员”的“五彩小玩偶”
- [四] 威灵铜钟
- [五] 新发现的日军战争地油印刊物《南京陷落一周年》和“宋井石根大将”《南京入城感》油印诗稿
- [六] 南京日军“军费”资料，彰显庞大的侵华军费开支
- [七] 从伪满洲国皇帝溥仪登基《昭书》，到“金融改组纪念铁桶”，“满线印样”
- [八] 目前为止，仅发现的一枚“日军肃正建设”银质镏金纪念章
- [九] 老乡家深藏的一对瓷瓶 承载着日寇野蛮侵略和残忍统治

后记

책 명 : 慰安妇考察手记

저 자 : 曹保明

발행연도 : 2007年

발행처 : 长春 : 吉林文史出版社

쪽 수 : 105쪽

차례 :

- 一. 急切的起飞
- 二. 取证的无奈
- 三. 焦灼的等待
- 四. 难忘的相见
- 五. 遥远的回忆
- 六. 南京大屠杀的延续
- 七. 烈士的妻子
- 八. 儿子的心声
- 九. 最后的抉择
- 十. 你就看着办吧
- 十一. 保住一段历史
- 十二. 认证
- 十三. 她是我们的好邻居
- 十四. 一盘石磨
- 十五. 心灵的靠近
- 十六. 愤怒的控诉
- 十七. 和“东候”相依为命
- 十八. 一个残破的水瓢
- 十九. 精制的小线板儿
- 二十. 渡口人家
- 二十一. 绿色的风筝
- 二十二. 离去
- 二十三. 史家巷一号
- 二十四. 周粉英小档案
- 二十五. 写在后面的话

책 명 : 真相 : 慰安妇调查纪实

저 자 : 陈庆港

발행연도 : 2007年

발행처 : 江苏 : 文艺出版社

쪽 수 : 미상

차 례 : 없음

2. 논문

논문명 : 日本侵略者强迫中国妇女作日军慰安妇实录

저자 : 稣实

게재지 : 抗日战争研究 1992年 4期

발행연도 : 1992年

발행처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 미상

차 례 : 없음

논문명 : 关于朝鲜妇女充当“挺身队”(慰安妇)问题

저자 : 尹贞玉

편자 : 刘黎明

게재지 : 抗日战争研究 1992年 4期

발행연도 : 1992年

발행처 : 中国社会科学院近代史所; 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 미상

차 례 :

一. 前言

二. 历史背景

三. 分到满洲和中国地区的慰安妇

四. 南方方面

五. 停战与慰安妇

六. 结束语

논문명 : “慰安妇” : 今朝欲洗沉冤耻

저자 : 梁甫

게재지 : 世界知识 1993年 14期

발행연도 : 1993年

발행처 : 世界知识出版社

쪽수 : 미상

차례 :

“慰安妇”军用品

悲愤的呐喊

走向官方解决

重要的是查明真相

논문명 : 《魂归何处》从神户, 哈尔滨, 上海到北京

저자 : 余思

게재지 : 中国戏剧 1993年 3期

발행연도 : 1993年

발행처 : 中国戏剧协会

쪽수 : 미상

차례 : 없음

논문명 : 日军强逼中国妇女为“慰安妇”资料摘编

저자 : 何吉, 管宁

게재지 : 抗日战争研究 1993年 4期

발행연도 : 1993年

발행처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 미상

차 례 :

- 一. 在中国慰安妇所
- 二. 扬州
- 三. 常州
- 四. 芙湖
- 五. 南京等地
- 六. 天津
- 七. 宝庆(邵阳)
- 八. 内蒙
- 九. 河北

논 문 명 : 血泪写就的历史岂能无视 — 二战日军“慰安妇”问题综述

저 자 : 林晓光

게 재 지 : 国际观察 1994年 1期

발행연도 : 1994年

발 행 처 : 上海外国语大学

쪽 수 : 미상

차 례 :

- 一.
- 二.
- 三.
- 四.
- 五.

논 문 명 : 朴必莲诉日本政府所带来的司法思考

저 자 : 张树和

게 재 지 : 法学杂志 1994年 5期

발행연도 : 1994年

발 행 처 : 北京市法学会

쪽 수 : 미상

차 례 :

- 一. 事实梗概
- 二. 主张权利的途径和障碍
- 三. 朴必蓬在我国地方法院起诉的可能性
- 四. 朴必蓬通过司法途径主张权利的设想

논문명 : 关于战争罪行与赔偿问题 — 1994年为悼念甲午战争中英勇献身的将士作

저 자 : 赵增辉

게재지 : 四川师范学院学报(哲学社会科学版) 1994年 5期

발행연도 : 1994年

발행처 : 西华师范大学

쪽 수 : 70~76쪽

차 례 :

- 一. “慰安妇”的怨诉
- 二. 日本军国主义的罪行
- 三. 帝国主义侵略者的 敲诈勒索
- 四. 侵略者应为其罪行承担赔偿赔偿责任
- 五. 日本将何以善其后

논문명 : 日军慰安妇与南京慰安所

저 자 : 陈娟

게재지 : 民国春秋 1994年 5期

발행연도 : 1994年

발행처 : 江苏古籍出版社

쪽 수 : 27~28쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 二战赔偿问题评述

저 자 : 姜维久

게 재 지 : 学术月刊 1995年 8期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 上海市社会科学界联合会

쪽 수 : 30~33쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 日本向战争受害者个人赔偿的若干问题

저 자 : 姜维久

게 재 지 : 社会科学战线 1995年 5期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 吉林省社会科学院

쪽 수 : 66~69쪽

차 례 :

一
二

1. 关于战时的“从军慰安妇”问题
2. 关于强制做劳工的问题
3. “军票”问题

논 문 명 : 日本与德国战后国家赔偿及个人受害赔偿比较研究

저 자 : 姜维久

게 재 지 : 抗日战争研究 1995年 3期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 178~189쪽

차 례 :

—
二
三

논 문 명 : 亚洲各国二战受害者赔偿诉讼纷起的分析

저 자 : 姜维久

게 재 지 : 当代亚太 1995年 4期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 中国社会科学院亚洲太平洋研究所 : 中国亚洲太平洋学会

쪽 수 : 7~11쪽

차 례 :

一.

1. 战时从军“慰安妇”问题
2. 强制抓去日本做劳工问题
3. 军票赔偿问题

二.

논 문 명 : 战争与女性

저 자 : 林克欢

게 재 지 : 戏剧文学 1995年 11期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 吉林省艺术研究院

쪽 수 : 67~68쪽

차 례 :

(一)

(二)

논 문 명 : 日本战俘和“营妓”在昆明

저 자 : 万揆一

게 재 지 : 民国春秋 1995年 4期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 江苏古籍出版社

쪽 수 : 39~40쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 莫忘九州血和泪 振兴华夏须自奋 — 纪念抗日战争胜利五十周年

저 자 : 牟广钦

게 재 지 : 宁德师专学报(哲学社会科学版) 1995年 4期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 宁德师范高等专科学校

쪽 수 : 1~6쪽

차 례 :

- 一. 震惊世界的南京大屠杀
- 二. 野蛮残酷的“三光政策”
- 三. 白骨磷磷的“万人坑”
- 四. 丧心病狂的毒气战
- 五. 灭绝人性的细菌战
- 六. 受尽屈辱的“慰安妇”

논 문 명 : 日本学者论日本侵略战争

저 자 : 文以明

게 재 지 : 史学史研究 1995年 3期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 北京师范大学史学研究所

쪽 수 : 9~16, 80쪽

차 례 :

(一)

(二)

(三)

(四)

(五)

논 문 명 : 日本의 战后处理是如何进行的?

저 자 : 石井明

편 자 : 邵力群

게 재 지 : 国外社会科学文摘 1995年 5期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 上海社会科学院信息研究所

쪽 수 : 47~49쪽

차 례 :

日本战后亚洲外交的起点 — 缔结日台和平条约的交涉

日韩间马拉松式的交涉

冷战时期战后处理的特点

논 문 명 : 责任与使命 — 中国抗战研究应该得到进一步重视

저 자 : 苏智良

게 재 지 : 探索与争鸣 2005年 10期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 上海社会科学界联合会

쪽 수 : 2~6쪽

차 례 :

● 必须壮大抗战研究的力量出精品, 除大作品

● 必须加强微观的实证性研究

● 应增加纪念馆, 博物馆, 资料馆等设施

● 应建立国家级抗日战争纪念仪式

논문명 : 侵华日军上海慰安所揭秘
저자 : 苏智良
게재지 : 上海党史与党建 1995年 4期
발행연도 : 1995年
발행처 : 中共上海市委党史研究室
쪽수 : 25 ~ 27쪽
차례 :
日军慰安妇制度在上海发轫
江湾严宅 : 日侨经营的慰安所
大一记慰安所的见证人
中国姑娘最悲惨

논문명 : 日本战争责任资料中心与《战争责任研究》
저자 : 宋志勇
게재지 : 抗日战争研究 1995年 4期
발행연도 : 1995年
발행처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会
쪽수 : 77 ~ 79쪽
차례 : 없음

논문명 : 关于日军的“慰安妇制度”
저자 : 王延华
게재지 : 齐齐哈尔大学学报(哲学社会科学版) 1995年 5期
발행연도 : 1995年
발행처 : 齐齐哈尔大学
쪽수 : 125 ~ 128쪽
차례 :
一. “慰安妇制度”的形成

- 二. 慰安妇的来源, 种类及等级
- 三. 色情地狱中的挣扎于反抗
- 四. 齐齐哈尔慰安所
- 五. 慰安所的结局与下场

논문명 : 二战时期的日军“慰安妇制度”

저자 : 王延华

게재지 : 理论观察 1995年 5期

발행연도 : 1995年

발행처 : 理论观察杂志社

쪽수 : 43~46쪽

차례 :

- 一. “慰安妇制度”的形成
- 二. 慰安妇的来源, 种类及等级
- 三. 色情地狱中的挣扎与反抗
- 四. 齐齐哈尔慰安所
- 五. 慰安所的结局与下场

参考书目

논문명 : 慰安妇 : 讨个说法

저자 : 张友新, 赵喜鸣

게재지 : 文史天地 1995年 6期

발행연도 : 1995年

발행처 : 贵州省政协办公厅

쪽수 : 19쪽

차례 :

“我们是被拐骗走的”
魔窟 — “慰安所”
心还在流血

논문명 : 论日本侵华战争的残酷性, 惊夺性和破坏性 — 以日本侵华战争时期在上海所犯罪行为为例

저자 : 张铨

게재지 : 史林 1995年 3期

발행연도 : 1995年

발행처 : 上海社会科学院历史研究所

쪽수 : 64~71쪽

차례 :

(一)

(二)

(三)

논문명 : 日本国内关于日中战争论的动向

저자 : 斋藤道彦

게재지 : 北京师范大学学报(社会科学版) 1995年 4期

발행연도 : 1995年

발행처 : 北京师范大学

쪽수 : 36~37쪽

차례 :

向和平主义的转变

战争责任轮的构造

从和平主义到海外派兵

关于历史的改写

南京大屠杀的争论

屠杀犹太人的问题

关于细菌战

关于毒气战

战后补偿问题

논문명 : 抗战初期的日军慰安所

저 자 : 华强
게 재 지 : 档案与史学 1995年 4期
발행연도 : 1995年
발 행 처 : 上海市档案馆
쪽 수 : 54~57쪽
차 례 :
一
二
三

논 문 명 : 侵琼日军慰安妇实象
저 자 : 符和积
게 재 지 : 抗日战争研究 1996年 4期
발행연도 : 1996年
발 행 처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会
쪽 수 : 34~50쪽
차 례 :
一
二
三

논 문 명 : 骇人听闻 : 40万女性沦为日军的性奴隶 — 撕开日本军妓制度的秘幕
저 자 : 苏智良
게 재 지 : 炎黄春秋 1996年 10期
발행연도 : 1996年
발 행 처 : 炎黄文化研究会
쪽 수 : 62~64쪽
차 례 :

- 一. “一·二八”事变后日军创立军妓制度
- 二. 战时日军的第一个军妓所
- 三. 悲惨的慰安妇们

논문명 : 侵沪日军的“慰安所”

저자 : 苏智良

게재지 : 抗日战争研究 1996年 4期

발행연도 : 1996年

발행처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会

쪽수 : 51~62쪽

차례 :

- 一. 日军军妓制度的缘起
- 二. “杨家宅陆军娱乐所”
- 三. “大一记”和“海乃家”
- 四. 在色情地狱里挣扎的慰安妇们

논문명 : 侵华日军的第一个慰安所

저자 : 荣集

게재지 : 海内与海外 1996年 2期

발행연도 : 1996年

발행처 : 中华全国归国华侨联合会(中国侨联)

쪽수 : 58쪽

차례 : 없음

논문명 : 试析日本军国主义的两面性

저자 : 武寅

게재지 : 世界历史 1997年 3期

발행연도 : 1997年

발행처 :中国社会科学院世界历史研究所

쪽 수 : 2~9쪽

차례 :

- 一
- 二
- 三

논문명 :战犯谷寿夫伏法记

저자 :徐树法

게재지 :党史纵览 1997年 3期

발행연도 : 1997年

발행처 :党史纵览杂志社

쪽 수 : 36~38쪽

차례 :

- (一)
- (二)

논문명 :关于日军慰安妇制度的几点辨析

저자 :苏智良

게재지 :抗日战争研究 1997年 3期

발행연도 : 1997年

발행처 :中国社会科学院近代史所 :中国抗日战争史学会

쪽 수 : 166~181쪽

차례 :

- 一
- 二
- 三
- 四
- 五

논문명 : 南京日军慰安所实象

저자 : 苏智良

게재지 : 紫金岁月 1997年 6期

발행연도 : 1997年

발행처 : 南京出版社

쪽수 : 22~25쪽

차례 : 없음

논문명 : 侵华日军慰安所揭秘

저자 : 辑参

게재지 : 春秋 1997年 4期

발행연도 : 1997年

발행처 : 山东省政协文史资料委员会

쪽수 : 14~15쪽

차례 : 없음

논문명 : 日本侵华战争遗留问题概述

저자 : 何天义

게재지 : 抗日战争研究 1997年 4期

발행연도 : 1997年

발행처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会

쪽수 : 141~156쪽

차례 :

- 一. 中日间有没有战争遗留问题?
- 二. 中日间究竟有哪些战争遗留问题?

- (一) 领土争议问题
- (二) 屠杀惨案受害问题
- (三) 战俘劳工问题
- (四) 妇女受害问题
- (五) 细菌武器受害问题
- (六) 化学武器受害问题
- (七) 私人财产损失问题
- (八) 被劫文物图书归还问题
- (九) 日本残留公债问题

논문명 : 日本对二战罪责的认识研究

저자 : 黄宗祥

게재지 : 新疆大学学报(社会科学版) 1997年 2期

발행연도 : 1997年

발행처 : 新疆大学

쪽수 : 68~71쪽

차례 :

- 一. 日军所犯主要罪行及其认识态度
- 二. 日本否认战争罪责原因的历史考察
- 三. 日本何去何从?

논문명 : 富国强兵与娼妓制度

저자 : 吉见周子·林郁

편자 : 李建军

게재지 : 贵州文史天地 1998年 3期

발행연도 : 1998年

발행처 : 贵州省政协办公厅

쪽수 : 51~59쪽

차례 :

序章 命不符实的“娼妓解放令”

第一章 近代日本娼妓の实态

- 一. 沦落为娼的血泪之路
- 二. 最大的“娼妓出口国”

第二章 “富国强兵”与娼妓

- 一. 军队与“亡国病”
- 二. 绝无仅有的“从军慰安妇”
- 三. 特殊“军用品”
- 四. 性的奴隶
- 五. 悲剧在战后续演 - R+A+A

논 문 명 : 一个必须由日本人打开的“死结” - 为“七七”事变和“南京大屠杀”60周年而作

저 자 : 刘予菁

게 재 지 : 中国民航学院学报 1998年 16卷 2期

발행연도 : 1998年

발 행 처 : 中国民用航空学院

쪽 수 : 1~9쪽

차 례 :

- 一. 中日关系现状令人堪忧
- 二. 中日之间战争责任问题
- 三. 日本军国主义复活了吗?
- 四. 中日两国如何友好相处下去

논 문 명 : 日本与德国的战争责任及战后补偿

저 자 : 北住炯一

편 자 : 安成日

게 재 지 : 日本学论坛 1998年 3期

발행연도 : 1998年

발 행 처 : 东北师范大学

쪽 수 : 10~13쪽

차 례 :

- 一. 日德之“战争责任及战后补偿”之比较
- 二. “战争责任及战后补偿”问题上日德存在“反差”的背景
- 三. 今后的课题.

논문명 : 侵华日军慰安妇制度略论

저자 : 苏智良, 陈丽菲

게재지 : 历史研究 1998年 4期

발행연도 : 1998年

발행처 : 中国社会科学院

쪽수 : 89~104쪽

차례 :

- 一. 日军慰安妇制度的由来及其形成过程
 - (一) 本世纪初至30年代日军性服务观念的提出与实施
 - (二) “慰安妇”与“慰安所”的出现
 - (三) 慰安妇制度的正式确立
- 二. 日军在华慰安所的类型及其设立
 - (一) 日军慰安所的类型
 - (二) 中国的日军慰安所
- 三. 关于慰安妇的几点辨析
 - (一) 日军强迫中国妇女充当慰安妇的几种方式
 - (二) 二战中日军慰安妇的数量估计
 - (三) 中国慰安妇的数量估计

논문명 : 侵占海南岛日军的慰安活动

저자 : 程昭星

게재지 : 文史春秋 1998年 4期

발행연도 : 1998年

발행처 : 广西政协办公厅

쪽수 : 60~64쪽

차 례 :

—
—
—

논문명 : 新闻翻译中的跨文化思考

저 자 : 彭汉良

게재지 : 武汉教育学院学报 第17卷 第4期

발행연도 : 1998年

발행처 : 江汉大学

쪽 수 : 93~97쪽

차 례 :

- 一. 文化因素的翻译中的重要性
- 二. 透过语言符号看文化因素
 1. 文化心理
 2. 思维模式
- 三. 跨越文化藩篱靠语言手段
 1. 画龙点睛靠标题
 2. “名不正则言不顺”
 3. 褒贬之间建立场

논문명 : 日军妇女暴行和战时中国妇女杂志

저 자 : 江上幸子

게재지 : 社会科学论坛 1999年 2期

발행연도 : 1999年

발행처 : 河北省社会科学界联合会

쪽 수 : 19~25쪽

차 례 :

序

- 一. 女性杂志以外有关妇女暴行的报道
 1. “新华日报”－当时报纸, 杂志
 2. “战地总动员, 上下”－当时单行本
 3. “侵华日军暴行总录”, “河北省志五九妇女运动杂志”－近期出版的
- 二. 中国女性杂志中有关暴行事件报道
 1. 妇女共鸣(三二·一～四四·一, 南京－汉口－重庆)
 2. “妇女生活”(三五·七～四一·一, 上海－武汉－重庆)
 3. “上海妇女”(三八·四～四〇·六, 上海)
 4. “中国妇女”(三九·六～四一·三, 延安)
 5. “妇女月刊”(四一·九～四八·六, 重庆－南京)
 6. “现代妇女”(四三·一～四九·四, 重庆－上海)

논문명 : 南京의 慰安妇 与 慰安所

저자 : 经盛鸿

게재지 : 抗日战争研究 1999年 2期

발행연도 : 1999年

발행처 : 中国社会科学院近代史所; 中国抗日战争史学会

쪽수 : 191 ~ 199쪽

차례 :

- 一. 侵华日军在南京实施“慰安妇”制度的由来
- 二. 日军在南京设立慰安所的途径
- 三. 通过汉奸在南京建立多家公开的慰安所
- 四. 日军对方南京慰安所的管理

논문명 : 南京“慰安妇”写真

저자 : 经盛鸿, 孙良铭

게재지 : 民国春秋 1999年 6期

발행연도 : 1999年

발행처 : 江苏古籍出版社

쪽수 : 16 ~ 19쪽

차 례 :

- (一) 从一份档案文件谈起
- (二) 南京“慰安妇”制度的由来
- (三) 日军在南京设立慰安所的途径
- (四) 通过汉奸建立公开的慰安所
- (五) 众多慰安所还不足日军泄欲
- (六) 日军对方南京慰安所的管理

논 문 명 : 慰安妇问题与日本战争罪责

저 자 : 卞修跃

게 재 지 : 抗日战争研究 1999年 2期

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会

쪽 수 : 159~174쪽

차 례 :

- 一. 征集中国妇女当日日军慰安妇是在当年日军最高当局和军部直接策划指使下的有组织, 有计划的罪行
- 二. 日军对慰安妇的征集和管理及其对慰安妇的残酷蹂躏, 都具有明显的“强制性”

논 문 명 : 关于上海四个日军慰安所的调查

편 자 : 苏智良

게 재 지 : 抗日战争研究 1999年 2期

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 200~207쪽

차 례 :

“杨家宅娱乐所”的调查

浦东庆宁寺日军慰安所的调查

浦东其昌栈慰安所的调查

南翔金家园慰安所的调查

논문명 : 日军史无前例的强暴中华妇女 — 被强奸者远多于慰安妇

저자 : 吴天威

게재지 : 抗日战争研究 1999年 2期

발행연도 : 1999年

발행처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽수 : 141 ~ 156쪽

차례 :

- 一. 日本传统娼妓制度之延展
- 二. 日军在中国东北经营的娼妓事业
- 三. 日军在中国强征慰安妇
- 四. 日军强奸中国妇女远多于慰安妇
 - (一) 慰安所多设立于后方, 有固定的场所
 - (二) 中国东北虽驻有强大的关东军, 经常保持49 万到85 万人(日本投降时有70 万人)
 - (三) 日军自1938 年以来, 经常在中国内地作战军队在100 万人以上
 - (四) 日军由上海到南京一路强奸掠夺虐杀中国妇女, 日军在苏州掳掠妇女2000 余人, 无锡3000 余人, 杭州2 万余人
 - (五) 1943 年日军在湖南强奸和掠夺妇女的部分实象
 - (六) 日军碉堡里的中国“慰安妇”
 - (七) 日军在华可自由强奸中国妇女为一“不成文”之政策

结语

논문명 : 侵华日军性暴力对中国女性的摧残 — 抗战时期山西孟县日军性暴力受害者调查

저자 : 王海华

게재지 : 妇女研究论丛 1999年 2期

발행연도 : 1999年

발행처 : 中国妇女研究会 : 全国妇联妇女研究所

쪽수 : 37 ~ 40쪽

차례 :

- 一
- 二

三
四
五

논문명 : 关于日军强征山西“慰安妇”的调查报告

저자 : 刘萍

게재지 : 抗日战争研究 1999年 2期

발행연도 : 1999年

발행처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽수 : 181~190쪽

차례 :

一. “慰安妇”受害的事实

(一) 万爱花受害事实

(二) Z受害事实

(三) Y受害事实

(四) S受害事实

二. 山西日军强征“慰安妇”的方式

三. 关于上述受害妇女身份的界定问题

논문명 : 第五届近百年中日关系史国际研讨会综述

저자 : 李晔

게재지 : 历史研究 1999年 1期

발행연도 : 1999年

발행처 : 中国社会科学院

쪽수 : 169~173쪽

차례 :

一. 关于近现代日本的侵华政策和策略问题

二. 关于日军侵华暴行问题

三. 关于东京审判及战争遗留问题

四. 关于中日关系的现状与未来展望

논 문 명 : 对自由主义史观与司马史观的批判

저 자 : 津田道夫, 燕子

게 재 지 : 抗日战争研究 1999年 4期

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会

쪽 수 : 163~176쪽

차 례 :

- 一. “自由主义史观”出台的思想史背景
- 二. 藤冈信胜对于历史事实的误认和歪曲
- 三. 司马史观和自由主义史观
 - (一) 明治时期与昭和战争前期政体对立的史观
 - (二) 司马氏的十五年战争史观
 - (三) 关于藤冈信胜的十五年战争史观批判
 - (四) 再论司马辽太郎的十五年战争史观

논 문 명 : 一年来抗日战争研究述评

저 자 : 编辑部

게 재 지 : 抗日战争研究 1999年 1期

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 236~251쪽

차 례 :

- 一. 对日本右翼势力的批判
- 二. 战争遗留问题
 - (一) 劳工研究
 - (二) 慰安妇研究
 - (三) 钓鱼列岛主权归属研究
- 三. 日本侵华罪行暴行
 - (一) 关于日军的轰炸
 - (二) 关于鸦片毒化
 - (三) 日军其他罪行

四. 抗战时期的中国文化和教育

- (一) 关于文化研究
- (二) 关于抗战时期的教育

五. 其他问题

- (一) 政治方面
- (二) 军事方面

논문명 : 论二战平民受害赔偿责任

저자 : 姜维久

게재지 : 社会科学战线 2000年第 1期

발행연도 : 2000年

발행처 : 吉林省社会科学院

쪽수 : 238 ~ 243쪽

차례 :

- 一. 亚洲平民受害索赔诉讼纷起
 - 1. 战时从军“慰安妇”问题
 - 2. 强制抓去日本做劳工问题
 - 3. 军票赔偿问题
- 二. 平民受害赔偿的国际对比
- 三. 德国、日本对战争与赔偿的态度比较

논문명 : 侵华日军南京“慰安妇”制度述论

저자 : 经盛鸿

게재지 : 江海学刊 2000年 6期

발행연도 : 2000年

발행처 : 江苏省社会科学院

쪽수 : 146 ~ 150쪽

차례 :

- 侵华日军在南京实施“慰安妇”制度的由来
- 日军在南京设立慰安所的两条主要途径

通过汉奸在南京建立多家公开的慰安所

日军方对南京慰安所的管理

南京慰安妇的血泪冤魂

논문명 : 侵华日军在南京的又一暴行 — 南京“慰安所”揭秘

저자 : 经盛鸿, 邓若华

게재지 : 档案与建设 2000年 8期

발행연도 : 2000年

발행처 : 江苏省档案局;江苏省档案学会

쪽수 : 22~25쪽

차례 :

从一份档案文件谈起

南京“慰安妇”制度的由来

日军慰安所的途径

通过汉奸建立公开的慰安所

日军对方南京慰安所的管理

慰安妇的血泪与白骨冤魂

논문명 : 日寇铁蹄下汉口的日本陆军慰安所

저자 : 房建昌

게재지 : 武汉文史资料 2000年 4期

발행연도 : 2000年

발행처 : 武汉市政协文史学习委员会

쪽수 : 37~41쪽

차례 : 없음

논문명 : 慰安妇问题与日本的战争责任认识

저자 : 步平

게 재 지 : 抗日战争研究 2000年 2期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 160~180쪽

차 례 :

- 一. 慰安妇问题在战后被重新提出的历史背景
- 二. 慰安妇在日本提出的诉讼
- 三. 慰安妇问题与日本的战争责任认识
- 四. 关于研究慰安妇问题的思考

논 문 명 : 香港日军慰安所调查记

저 자 : 苏智良

게 재 지 : 探索与争鸣 2000年 2期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 上海社会科学界联合会

쪽 수 : 44~48쪽

차 례 :

“日军们大吃大喝，狂歌醉舞，喝得醉醺醺的日兵，抢劫，强奸和杀人，到处都听到女人们的哭叫声，有人敲击面盆求救”

为了强征慰安妇，尽快在香港设立慰安区，江口上校通过港英政府副医务总监华伦天医生穿针引线，到养和医院会晤了香港名流，该院院长李树芬

在日军占领香港初期，各兵种的日军总人数达2 万人。为了激励驻香港日军的斗志，日军总督矶谷廉介决定建立大规模的军事红灯区

骆克道的慰安所只是供普通士兵泄欲的场所，而为日军高级军官设立的慰安所，则陈设较为豪华，其中最出名的是位于港岛半山区的“千岁馆”

花园道上的圣约翰座堂，是老牌的英国人教堂，每逢英国国家性节日，典礼多在这里举行。但日军占领香港后，座堂即被视为敌产而遭接收。日军实际上并不需要教堂，他们竟将教堂改作了变相慰安所的军人俱乐部

香港作家秋子在《慰安阿婶》一文中回忆道：“说起‘慰安妇’，想到日治时期邻居有个‘慰安阿婶’。”当时12 岁的秋子只记得“日军整日在阿婶的小屋出出入入，还不知道真正的‘慰安’工作是甚么也”

논문명 : 现代军事性奴隶 : 日本慰安妇制度散论

저자 : 苏智良

게재지 : 学术月刊 2000年第 8期

발행연도 : 2000年

발행처 : 上海市社会科学界联合会

쪽수 : 90~99쪽

차례 :

揭开“慰安妇”制度的真相

日本政府慰安妇问题的立场

对日本右翼谬论的批判

日本国家的法律责任

战后国际社会对日本“慰安妇”犯罪的认定

논문명 : 论南京大屠杀中的性暴力问题

저자 : 孙宅巍

게재지 : 民国档案 2000年 4期

발행연도 : 2000年

발행처 : 中国第二历史档案馆

쪽수 : 91~96쪽

차례 :

一. “南京大屠杀”是一个特定的综合暴行概念

二. 性暴力在南京大屠杀暴行中占有重要位置

三. 南京大屠杀中型暴力的特点

特点之一 : 性暴力的普遍性

特点之二 : 性暴力的野蛮性

特点之三 : 性暴力的官方性

논문명 : 近年来抗日战争史研究综述

저자 : 杨青

게 재 지 : 教学与研究 2000年 9期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 中国人民大学

쪽 수 : 65~70쪽

차 례 :

- (一) 抗日战争的起点及阶段的划分
- (二) 战争中的国共合作问题
- (三) 正面战场与敌后战场的关系
- (四) 抗战期间中国的经济
- (五) 抗战期间中国的文化和教育
- (六) 日本侵华罪行及对日本右翼势力的批判

논 문 명 : 女性的隐遁与重现 — 从《我在霞村的时候》到《现在》

저 자 : 王琳

게 재 지 : 当代文坛 2000年 1期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 四川省作家协会

쪽 수 : 51~53쪽

차 례 :

- 一.
- 二.
- 三.

논 문 명 : 寻访“海乃家”

저 자 : 李凯琦

게 재 지 : 档案与史学 2000年 1期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 上海市档案馆

쪽 수 : 63~64쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 侵华日军暴行概说

저 자 : 张承钧

게 재 지 : 海内与海外 2000年 8期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 中华全国归国侨华侨联合会(中国侨联)

쪽 수 : 8~10쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 南京下关区侵华日军慰安所的调查报告

저 자 : 张连红, 李广廉

게 재 지 : 南京师大学报(社会科学版) 2000年第6期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 南京师范大学

쪽 수 : 136~140쪽

차 례 :

一.

(一) 下关区的历史背景

(二) 受调查者的相关资料

二.

(一) 华月楼慰安所

(二) 铁路桥慰安所

三.

논 문 명 : 近几年来国内南京大屠杀研究综述

저 자 : 张连红, 许书宏

게 재 지 : 江海学刊 2000年 5期

발행연도 : 2000年

발행처 : 江苏省社会科学院

쪽 수 : 129~135쪽

차례 :

一.
二.

- (一) 关于南京大屠杀中死亡人数问题的研究
- (二) 日军南京大屠杀的原因及其暴行心理的研究
- (三) 关于南京大屠杀中日军性暴行的研究
- (四) 关于南京国际安全区的研究
- (五) 关于“东史郎诉讼案”问题的研究

三.

논문명 : 中国“慰安妇”问题国际学术研讨会综述

저자 : 陈丽菲, 苏智良

게재지 : 抗日战争研究 2000年第 2期

발행연도 : 2000年

발행처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 235~248쪽

차례 :

一. 慰安妇问题的研究

- (一) “慰安妇”制度的性质
- (二) 日军在中国推行慰安妇制度的过程
- (三) 日军在亚洲各地实施慰安妇制度的概况

二. 南京大屠杀等其他暴行

三. 日军的战争责任和赔偿问题

- (一) 日军的战争责任及其认识
- (二) 目前正在进行的受害者的赔偿诉讼
- (三) 追究日本国家战争责任的法律问题
- (四) 关于2000年东京国际女性战犯法庭

논문명 : 慰安妇幸存者的血泪控诉

저자 : 秦维宪

게재지 : 炎黄春秋 2000年 12期

발행연도 : 2000年

발행처 : 炎黄文化研究会

쪽수 : 45~48쪽

차례 :

学者出发伸张正义的吼声

慰安妇高呼打倒日本鬼子

논문명 : 江湾万安路 — 日军的行乐“花街”

저자 : 胡海英

게재지 : 档案与史学 2000年 1期

발행연도 : 2000年

발행처 : 上海市档案馆

쪽수 : 65~66쪽

차례 : 없음

논문명 : 大一沙龙

저자 : 侯桂芳

게재지 : 档案与史学 2000年 1期

발행연도 : 2000年

발행처 : 上海市档案馆

쪽수 : 66~67쪽

차례 : 없음

논문명 : “日本侵华史与教科书修订问题研讨会”综述

저자 : 欧阳烈丹

게재지 : 抗日战争研究 2001年 1期

발행연도 : 2001年

발행처 : 中国社会科学院近代史所; 中国抗日战争史学会

쪽수 : 220~224쪽

차례 :

- 一. 教科书修订与日本右翼势力问题
- 二. 中国历史学者应该坚持的立场
- 三. 对日本侵略掠夺暴行的实证性研究的重要性

논문명 : 2000年东京女性国际战犯法庭纪实

저자 : 苏智良

게재지 : 抗日战争研究 2001年 1期

발행연도 : 2001年

발행처 : 中国社会科学院近代史所; 中国抗日战争史学会

쪽수 : 225~233쪽

차례 :

东京大审의 催动
跨越国际의 起诉
正义의 判决
孽债必须清算

논문명 : 评大沼保昭의 《从东京审判到战后责任思想》

저자 : 宋志勇

게재지 : 二十一世纪

발행연도 : 2001年 4月

발행처 : 香港 : 香港中文大学, 中国文化研究所

쪽 수 : 144 ~ 148쪽

차 례 :

- 一. 东京审判与战後责任
- 二. 關於战争责任论和战後责任论的思想
- 三. 關於战争赔偿及补偿问题
- 四. 历史教科书问题
- 五. 萨哈林朝鲜人问题和补偿慰安妇

논 문 명 : 历史擂台 热烈回响 — 国立三重商工班级读书会成果发表

저 자 : 喻蓉蓉

게 재 지 : 历史月刊

발행연도 : 2001年 4月

발 행 처 : 台北 : 历史月刊杂志社

쪽 수 : 58 ~ 66쪽

차 례 :

慰安妇悲歌

民间东京大审

慰安妇源起

成立慰安所

战後调查

义助慰安妇

原住民神话

赛夏族

泰雅族

活化的历史教学

논 문 명 : 金美龄挺身慰安皇军

저 자 : 刘添财

게 재 지 : 海峡评论

발행연도 : 2001年 4月

발행처 : 台北 : 海峡评论杂志社

쪽 수 : 3쪽

차례 : 없음

논문명 : 「我恨日本人!」 - 山西 「慰安妇」의心声

저자 : 刘孝春

게재지 : 海峡评论

발행연도 : 2001年 5月

발행처 : 台北 : 海峡评论杂志社

쪽 수 : 5쪽

차례 : 없음

논문명 : 风潮下的暗流

저자 : 陆可光

게재지 : 读书 2001年 7期

발행연도 : 2001年

발행처 : 生活读书新知三联书店

쪽 수 : 68~71쪽

차례 : 없음

논문명 : 竹东慰安妇真象 - 慰安妇面面观

저자 : 林柏燕

게재지 : 新竹文献

발행연도 : 2001年 3月

발행처 : 新竹 : 新竹县文献委员会

쪽 수 : 92 ~ 108쪽

차 례 : 없음

논문명 : 试析冷战后日本右翼势力的发展及其存在根源

저 자 : 张艳茹

게재지 : 张家口师专学报 2001年 1期

발행연도 : 2001年

발행처 : 河北北方学院

쪽 수 : 50 ~ 55쪽

차 례 : 없음

논문명 : 日本侵华掠夺的物证

저 자 : 张新知, 王学文

게재지 : 文史精华 134期

발행연도 : 2001年

발행처 : 河北省政协文史资料委员会

쪽 수 : 52 ~ 60쪽

차 례 :

一. 没有发行保证的征用性军票

(一) 中日甲午战争时期的军票

(二) 日俄战争时期的军票

(三) 日德战争时期的军票

(四) 远征西伯利亚时期的军票

(五) 全面侵华战争时期的军票

1. 甲号军票

2. 乙号军票

3. 丙号军票

4. 丁号军票
5. 戊号军票
6. 号外军票
- (六) 太平洋战争时期的军票
- 二. 擅自发行的各种掠夺性银行券
 - (一) 横滨正金银行券
 - (二) 日本银行券
 - (三) 朝鲜银行券
 - (四) 台湾银行券
 - (五) 中华汇业银行券
- 三. 各自繁多各种强制性债券
 - (一) 以“大日帝国政府”名义发行的债券
 - (二) 以“日本劝业银行”名义发行的债券
 - (三) 以伪满洲国或伪银行名义发行的债券
- 四. 无限制发行的各种殖民性伪币
 - (一) 伪满洲中央银行币
 - (二) 为冀东银行币
 - (三) 伪察南银行币
 - (四) 伪蒙疆银行币
 - (五) 伪中国联合准备银行币
 - (一) 伪华兴商业银行币
 - (一) 伪中央储备银行币
 - (一) 伪厦门劝业银行币
- 五. 炫耀和美化侵略的各种纪念币

논 문 명 : 历史, 是不应该被扭曲的 — 谈日本殖民地与慰安妇问题

저 자 : 丁果

게 재 지 : 历史月刊

발행연도 : 2001年 6月

발 행 처 : 台北 : 历史月刊杂志社

쪽 수 : 118~123쪽

차 례 :

日本对台的殖民统治
殖民主义下的慰安妇问题

논문명 : 对残留日军慰安所史料的考订

저자 : 赵永强

게재지 : 山西档案 2001年 5期

발행연도 : 2001年

발행처 : 山西省档案局;山西省档案学会

쪽수 : 39~40쪽

차례 :

- 一. 对成文时与责任者的判定
- 二. 关于正文的说明
- 三. 这一史料发现之意义

논문명 : 世纪末东京大审判纪实 — 女性国际战犯法庭侧记

저자 : 朱成山

게재지 : 百年潮 2001年 3期

발행연도 : 2001年

발행처 : 中国中共党史学会

쪽수 : 4~12쪽

차례 :

- “国际实行委员会”筹备三年
- 中国大陆原告团的组成
- 开庭前慰安妇们东京败诉
- 催人泪下的“前夜祭
- 东京大审判庄严开庭
- 中国受害妇女东京血泪大控诉
- 跨越国际的“大起诉”
- 日本政府媒体的冷漠及右翼势力的骚扰

正义的判决和东京大游行
法庭仍未结束

논문명 : 东南亚国家的慰安妇问题与日本的战争责任

저자 : 朱和双

게재지 : 东南亚 2001年 3期

발행연도 : 2001年

발행처 : 云南省社会科学院东南亚研究所

쪽수 : 31~36쪽

차례 :

(一)

(二)

논문명 : 日军侵华期间强征中国慰安妇问题

저자 : 陈景彦

게재지 : 东北亚论坛 2001年 3期

발행연도 : 2001年

발행처 : 吉林大学

쪽수 : 60~64쪽

차례 :

- 一. 慰安妇的称谓与性质
- 二. 日军强征慰安妇的动机与目的
- 三. 慰安妇的人数问题
- 四. 中国慰安妇受害程度最深, 最严重

논문명 : 一年来抗日战争研究述评

저자 : 편집부

게 재 지 : 抗日战争研究 2001年 1期

발행연도 : 2001年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会

쪽 수 : 234~253쪽

차 례 :

一. 日军罪行与战争遗留问题

(一) 先说第一个问题

1. 南京大屠杀研究
2. “慰安妇”研究
3. 劳工研究
4. 细菌战研究
5. 化学战研究
6. 战争损失研究

(二) 再说第二个问题

1. 历史观研究
2. 战争责任研究

二. 中国抗战各问题.

(一) 军事研究

(二) 经济研究

(三) 外交研究

(四) 社会研究

(五) 人物研究

논 문 명 : 我不要当慰安妇

저 자 : 包不同

게 재 지 : 商业新闻周刊

발행연도 : 2001年 3月 7日~13日

발 행 처 : 미상

쪽 수 : 116쪽

차 례 : 없음

논문명 : 寻访东宁要塞群里的慰安妇

저자 : 韩茂才

게재지 : 黑龙江档案 2001年 4期

발행연도 : 2001年

발행처 : 黑龙江省档案局

쪽수 : 미상

차례 :

昔日慰安妇 埋在心底的血于泪

(이하 미상)

논문명 : 刺刀下的兽行 — 日军强迫妇女充当“慰安妇”罪行录

저자 : 미상

게재지 : 下一代 2001年 2期

발행연도 : 2001年

발행처 : 辽宁延安文艺学会

쪽수 : 80~93쪽

차례 :

什么是“慰安妇”, “慰安所”

血泪控诉

控告与索赔

“世纪末大审判”

논문명 : 历史岂容肆意颠倒 — 日本2002年“新历史教科书”评析

저자 : 刘丹忱

게재지 : 河北师范大学学报(哲学社会科学版) 2002年 6期

발행연도 : 2002年

발행처 : 河北师范大学

쪽수 : 107~110쪽

차 례 :

- 一. 问题的来龙去脉
- 二. 歪曲篡改的实例
 - (一) 日本国家的性质问题
 - (二) 日本发动侵华战争问题
 - (三) 日军在华的血腥暴行
 - (四) 关于“慰安妇”问题
 - (五) 细菌战与化学战
 - (六) 关于太平洋战争和“大东亚共荣圈”
- 三. 两面镜子的对照

논 문 명 : 日军侵占太原时的慰安妇与殡仪馆

저 자 : 刘展

게 재 지 : 文史月刊 2002年 1期

발행연도 : 2002年

발 행 처 : 山西省政协文史资料委员会

쪽 수 : 53쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 慰安妇的苦难与平反

저 자 : 王清峰

게 재 지 : 讲义

발행연도 : 2002年 6月

발 행 처 : 미상

쪽 수 : 70~73쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 抗战时期日军暴行的文化分析

저 자 : 郑忠, 高萍萍

게 재 지 : 徐州师范大学学报(哲学社会科学版) 第28卷 第3期

발행연도 : 2002年

발 행 처 : 徐州师范大学

쪽 수 : 132~136쪽

차 례 :

一.

性暴行

细菌战罪行

毒气战罪行

残害劳工

二.

(一) 从文化心理学角度的诠释

(二) 从人类文化学角度的分析

(三) 从宗教文化学角度的考察

三.

논 문 명 : 1939~1945日占海南下的皇军「慰安妇」

저 자 : 朱德兰

게 재 지 : 国立中央大学人文学报

발행연도 : 2002年 6月

발 행 처 : 中坜 : 国立中央大学

쪽 수 : 159~207쪽

차 례 :

前言

壹, 日军发动侵华战争的目的

贰, 日军攻占海南岛

叁, 日本郡政统治海南岛

肆, 日军全面统制海南岛经济

伍, 皇军的慰安妇

口述一 : 林亚金访问纪录

口述二：谭亚洞访问纪录
口述三：邓玉民访问纪录
结论
附录表图

논 문 명：“魏特琳的叩问”－评《侵略战争与性暴力》

저 자：陈丽菲

게 재 지：抗日战争研究 2002年 4期

발행연도：2002年

발 행 처：中国社会科学院近代史所：中国抗日战争史学会

쪽 수：194～198쪽

차 례：없음

논 문 명：2001年台湾文学景象

저 자：许俊雅

게 재 지：当代作家评论 2002年 2期

발행연도：2002年

발 행 처：辽宁省作家协会

쪽 수：87～91쪽

차 례：

书市风向球，准吗？

灾变文学说，我来了

作家的衣橱

饮食，旅游文学持续风行不坠

选与未选的几篇作品

结语

논 문 명：抗战时期日军对滇西妇女的性暴行初探

저 자 : 李金莲

게 재 지 : 楚雄师范学院学报 第18卷第一期

발행연도 : 2003年

발 행 처 : 楚雄师范学院

쪽 수 : 62~65쪽

차 례 :

- 一. 日军在滇西地区肆意奸杀各族妇女
- 二. 日军在腾龙边区淫虐抢残郎家妇女
- 三. 日军掳掠沦陷区各族妇女充当慰安妇

논 문 명 : 二战时期东南亚战场上的日军慰安妇

저 자 : 朱和双, 李金莲

게 재 지 : 学术论坛 2003年 2期

발행연도 : 2003年

발 행 처 : 广西社会科学院

쪽 수 : 97~103쪽

차 례 :

- (一)
- (二)
- (三)

논 문 명 : “日本侵略亚洲战争责任问题国际学术讨论会”综述

저 자 : 陈丽菲, 苏智良

게 재 지 : 抗日战争研究 2003年 4期

발행연도 : 2003年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会

쪽 수 : 225~231쪽

차 례 :

- 一. 关于“慰安妇”问题
- 二. 关于生化武器问题
- 三. 关于劳工问题
- 四. 关于民间赔偿问题
- 五. 关于历史教育问题

논문명 : 侵华日军华中“慰安妇”罪行新证

저자 : 陈正卿

게재지 : 档案与史学 2003年 1期

발행연도 : 2003年

발행처 : 上海市档案馆

쪽수 : 39~46쪽

차례 :

前言

一. 该“人名录”中直接以“慰安所”,“军慰安所”名义收录的慰安所

1. 上海

(1) 据第32 版载有

(2) 据第33 版载有新增单位

2. 江苏

(1) 据第32 版载有

(2) 在第33 版中未有新的补充

3. 浙江

(1) 据第32 版载有

(2) 据第33 版载有

4. 江西

(1) 据第32 版载有

(2) 在第33 版中上表内慰安所又继续收入, 但无新的发现

5. 湖北

(1) 据第32 版载有

6. 河南

(1) 据第32 版载有

(2) 第33 版中

7. 安徽
 - (1) 据第32 版载有
 - (2) 第33 版中未有新的发现
- 二. 该“人名录”中以“军俱乐部”,“特殊料理店”等名义出现的慰安所
1. 上海
 - (1) 据第32 版载有
 - (2) 据第33 版
 2. 江苏
 - (1) 据第32 版载有
 - (2) 据第33 版载有
 3. 浙江
 - (1) 据第32 版载有
 - (2) 据第33 版载有
 4. 江西
 - (1) 据第32 版载有
 - (2) 第33 版中未有新的发现
 5. 安徽
 - (1) 据第32 版载有
 - (2) 第33 版中没有新的记载
 6. 湖北
 - (1) 据第3 2 版载有
 - (2) 第33 版中未有新的记载

结语

논문명 : 侵华日军东宁要塞群中国劳工, 慰安妇调查报告

저자 : 黑龙江大学历史文化旅游学院课题组

게재지 : 黑龙江省社会主义学院学报 2003年 2期

발행연도 : 2003年

발행처 : 黑龙江社会主义学院

쪽 수 : 68~69쪽

차례 :

一
二

三

논문명 : 南京利济巷2号 - 侵华日军慰安所遗址考证

저자 : 经盛鸿

게재지 : 档案与建设 2004年 8期

발행연도 : 2004年

발행처 : 江苏省档案局 : 江苏省档案学会

쪽수 : 35 ~ 39쪽

차례 :

找到慰安妇活人争

罪恶的慰安妇制度

慰安妇典型 - 朴永心

朴永心怎样被发现

为朴永心南京寻证

朴永心确认慰安所旧址

논문명 : 侵华日军南京慰安所调查与研究

저자 : 经盛鸿, 管尔东

게재지 : 南京社会科学 2004年 12期

발행연도 : 2004年

발행처 : 南京市社会科学界联合会; 中共南京市委党校; 南京日报社

쪽수 : 33 ~ 39쪽

차례 :

一. 南京日军“慰安妇”制度的由来

二. 日军在南京设立慰安所的主要途径

三. 南京慰安妇的血泪

논문명 : 日本战争赔偿与美国的責任

저 자 : 乔林生

게 재 지 : 日本问题研究 2004年 2期

발행연도 : 2004年

발 행 처 : 河北大学

쪽 수 : 55~59쪽

차 례 :

一. 美国对日本战争赔偿政策的嬗变

- (一) 从1945年 8月二战结束至1946年底, 即冷战开始前, 主要是以“鲍莱报告”为政策内容的惩罚性赔偿阶段
- (二) 从1947年初到1949年5月, 以“斯特赖克报告”, “约翰斯顿报告”与凯南的《关于美国对日政策的建议》等为代表, 美国根据全球冷战战略及东亚国际形势的变化, 逐步削减日本的赔偿, 甚至放弃赔偿
- (三) 从1949年下半年到1951年9月, 美国积极推动对日片面媾和, 最终签署《旧金山和约》, 确定了象征性的劳务赔偿

二. 美国对日本战争赔偿政策的评价

논 문 명 : 日本军队的毒气战与美国 — 美国国家档案馆资料调查

저 자 : 吉见义明, 步平

게 재 지 : 抗日战争研究 2004年 1期

발행연도 : 2004年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会

쪽 수 : 96~112쪽

차 례 :

一. 1942年美国总统发表声明的原委

- (一) 日美开战前的情况
- (二) 日美开战后的情况

二. 日军在中国使用毒气的情报

- (一) 在山西省使用的情报
- (二) 到1943年3月的使用毒气战例
- (三) 在常德作战中使用毒气的情报
- (四) 河南霸王城附近的用毒计划

三. 日军在东南亚`太平洋地区使用毒气的资料

(一) 使用的战例

马来

缅甸

西南太平洋

(二) 日本关于不使用毒气的表态

(三) 在比阿克乌的使用

四. 海军制造的手投毒气瓶

五. 德国的毒气战政策

附记

논문명 : 保留侵华日军慰安所遗址的历史意义

저자 : 吕春华, 盛志伟

게재지 : 江苏地方志 2004年 5期

발행연도 : 2004年

발행처 : 江苏省地方志编纂委员会办公室

쪽수 : 49쪽

차례 : 없음

논문명 : 谁来为台籍慰安妇阿嬷请命

저자 : 刘莲弟

게재지 : 海峡评论

발행연도 : 2002年 12月

발행처 : 台北 : 海峡评论杂志社

쪽수 : 6~7쪽

차례 : 없음

논문명 : 日本学术界“慰安妇问题”研究述论

저자 : 潘德昌

게재지 : 社会科学辑刊 2004年 4期

발행연도 : 2004年

발행처 : 辽宁省社会科学院

쪽수 : 112~117쪽

차례 :

(一) 关于“慰安妇”制度的问题

1. 有无“慰安妇制度”问题
2. 日军设立“慰安妇制度”的动机和目的
3. 人种歧视和阶级歧视问题

(二) 强制的内容

(三) 慰安所内的强制问题

(四) 公娼制度和“慰安妇制度”的关系问题

(五) 招募时的强制

1. 在朝鲜, 中国台湾地区的征用
2. 在中国大陆, 东南亚, 太平洋地区的征用

(六) 公娼制, 买淫问题

논문명 : 论题 : 关于日本侵华战争的遗留问题

저자 : 苏智良, 高凡夫

게재지 : 历史教学问题 2004年 3期

발행연도 : 2004年

발행처 : 华东师范大学

쪽수 : 37~47쪽

차례 :

- 一. 什么是日本侵华战争的遗留问题
- 二. 关于日本侵华战争的赔偿问题
- 三. 对日本法庭根据的批驳

논문명 : 日本慰安妇制度的起源

저자 : 田中良

역자 : 张涛

게재지 : 池州师专学报 第18卷 第5期

발행연도 : 2004年

발행처 : 池州学院

쪽수 : 133~136쪽

차례 :

- 一. 慰安所的初步建立
- 二. “南京强奸事件”后慰安所的迅增加
- 三. 结语

논문명 : 五年来日军侵华暴行热点研究述略

저자 : 陈建成

게재지 : 首都师范大学学报(社会科学版) 2004年 3期

발행연도 : 2004年

발행처 : 首都师范大学

쪽수 : 163~168쪽

차례 :

- 一. 南京大屠杀研究
- 二. “慰安妇”研究
- 三. 细菌战, 毒气战研究
- 四. 战时劳工研究

논문명 : “慰安妇” : 这一页屈辱黑暗的历史 — 日军在华北实施“慰安妇”制度罪行史证

저자 : 晓苏

게재지 : 档案天地 2004年 2期

발행연도 : 2004年

발행처 : 河北省档案局

쪽 수 : 1, 4~9쪽

차례 :

- 一. 区村宁次授意大量设置慰安所
- 二. 名目繁多的日军慰安所
 - (1) 济南日军“星俱乐部”
 - (2) 山西省阳曲县南温川慰安所
- 三. “征集”慰安妇的真实内幕
- 四. 慰安所里的地狱生活

논문명 : 南京的“慰安所”与“慰安妇”

저자 : 经盛鸿, 王冠保

게재지 : 钟山风雨 2005年 2期

발행연도 : 2005年

발행처 : 江苏省政协文史委员会

쪽 수 : 20~24쪽

차례 :

- 南京日军“慰安妇”制度的由来
- 日军在南京慰安所的主要途径
- 南京慰安妇的血泪

논문명 : 对南京侵华日军慰安所的最新调查

저자 : 经盛鸿, 钱春霞

게재지 : 江苏地方志 2005年 4期

발행연도 : 2005年

발행처 : 江苏省地方志编纂委员会办公室

쪽 수 : 17~20쪽

차례 :

日军侵占南京初期, 个部队奉命自行设立的临时慰安所
由中国的地痞流氓与伪政权设立的慰安所
日本军部直接开办或委托日妓娼业主设立的慰安所
南京慰安妇的血泪.

논문명 : 日本社会传统与日军慰安妇制度

저자 : 高凡夫

게재지 : 学海 2005年 3期

발행연도 : 2005年

발행처 : 江苏省社会科学院

쪽수 : 58~61쪽

차례 :

问题的提出

日本社会传统与慰安妇制度的建立

日本人的观念

日本是典型的男权主义国家,男性在社会中处于绝对支配地位,他们养成了随便和放纵的性生活习惯
男性生殖崇拜,使男性性生活更具优越感

日本民族独特的文化特征和民族心理

日本军人对性生活的迷信心理

日本女性客观上的支持

长期的历史渊源

几点认识

논문명 : 「消失到再现」 : 跨疆越界串连的「慰安妇」议题

저자 : 董思齐

게재지 : 日本综合情报

발행연도 : 2005年 2月

발행처 : 미상

쪽수 : 57~65쪽

차례 : 없음

논문명 : 抗日战争时期的山西妇女

저자 : 刘晓丽

게재지 : 长治学院学报 第22卷 第3期

발행연도 : 2005年

발행처 : 晋东南师范专科学校

쪽수 : 57~61쪽

차례 :

一.

诞生于民族危难之时

是优秀的知识女性汇集的群体

成长了的女兵充分发挥了她们作为妇女抗日先锋队的作用

二.

三.

논문명 : 台湾慰安妇60 : 「生命, 韧性」影像展

저자 : 미상

게재지 : 张老师月刊

발행연도 : 2005年 8月

발행처 : 台北市 : 张老师月刊杂志社

쪽수 : 8~9쪽

차례 : 없음

논문명 : 上海日军慰安所探秘

저자 : 苏智良

게재지 : 检察风云 2005年 12期

발행연도 : 2005年

발행처 : 上海市人民检察院; 中国检察出版社

쪽수 : 66~68쪽

차 례 :

日军慰安所的出现
日军慰安所的延续
日军慰安所的扩展
上海日军慰安所之类型
上海日军“慰安妇”的来源
“慰安妇”制度的实质

논 문 명 : 生命, 韧性 — 「慰安妇」影像展座谈会

저 자 : 王浩威 主持

게 재 지 : 当代

발행연도 : 2005年 9月

발 행 처 : 台北 : 合志文化公社

쪽 수 : 112~127쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : 新发现的日军在华北设置慰安所的罪证

저 자 : 田苏苏

게 재 지 : 档案天地 2005年 1期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 河北省档案局

쪽 수 : 14~18쪽

차 례 :

- 一. 关于募集慰安妇来华北和在华北设置慰安所
- 二. 日军战犯关于华北设置慰安所的供词
 1. <<侦讯广瀨三郎的总结意见书>>
 2. 铃木启久口供交代
 3. 住冈义一供认
 4. 中村五郎供认

5. 冈田新吾供认
 6. 中村三郎供认
 7. 石田菊寿供认
- 三. 关于强征华北妇女的情况
- 四. 关于对华北妇女实施性奴役的纪录

논문명 : 日军慰安妇政策在华北地区的实施

저자 : 田苏苏

게재지 : 抗日战争研究 2005年 2期

발행연도 : 2005年

발행처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽수 : 166~188쪽

차례 :

- 一. 日军在华北地区慰安所的分布
- 二. 日军在华北地区慰安所的形态和特点
 - (一) 大中城市和日军控制的中心城镇里的慰安所
 - (二) 日军在 frontline 据点附近设置的慰安所
 - (三) 日军据点里的“慰安室”和临时慰安所
 - (四) 前线地区的巡回慰安妇
- 三. 日军强掳妇女充当慰安妇的卑劣手段

논문명 : 太平洋战争与台湾原住民 「慰安妇」(1941~1945)

저자 : 朱德兰

게재지 : 近代中国 163期

발행연도 : 2005年 12月

발행처 : 台北 : 近代中国杂志社

쪽수 : 53~70쪽

차례 :

前言

- 一. 台湾军参与中日战争及太平洋战争

- (一) 台湾军参与中日战争
- (二) 台湾军参与太平洋战争
- 二. 台湾总督府对太平洋战争的协力作用
 - (一) 台湾总督府对海外占领区的协力作用
 - (二) 台湾总督府对岛内日军的协力作用
- 三. 台湾原住民「慰安妇」的历史伤痕
 - (一) 台湾原住民「慰安妇」调查与分析
 - (二) 台湾原住民「慰安妇」个案

结论

논문명 : 论日本传统意识与侵略战争的关系

저자 : 陈檀

게재지 : 湖北社会科学 2005年 10期

발행연도 : 2005年

발행처 : 湖北省社会科学联合会 : 湖北省社会科学院

쪽수 : 90~91쪽

차례 :

- 一. 传统日本人的忠诚报恩观念与皇国意识
- 二. 忠诚报恩意识在战时的影响

논문명 : 国际法透视下的日军“慰安妇”问题

저자 : 陈淑荣

게재지 : 石家庄学院学报 第7卷 第4期

발행연도 : 2005年

발행처 : 石家庄学院

쪽수 : 33~38쪽

차례 :

- 一. “慰安妇”问题的重新提起
- 二. 强征“慰安妇”是日本的国际性犯罪

1. “慰安妇”的征集是在当年日本最高当局和军部的直接策划下的有组织, 有计划的罪行
2. 强征“慰安妇”是日本的国际性犯罪
3. 日本政府必须以国际立场担负起“慰安妇”问题上的责任.

논문명 : 近10年关于日军侵华罪行和遗留问题研究综述

저자 : 郭德宏, 陈亚杰

게재지 : 安徽史学 2006年 1期

발행연도 : 2006年

발행처 : 安徽省社会科学院

쪽수 : 116~128쪽

차례 :

- 一. 综合性的论著
- 二. 关于南京大屠杀
- 三. 关于细菌战
- 四. 关于毒气战
- 五. 关于对老工的掠夺和迫害
- 六. 关于“慰安妇”问题
- 七. 关于“集团部落”和“无人区”
- 八. 关于经济掠夺
- 九. 关于对文化站电局.
 - (一) 关于对文物典籍的掠夺
 - (二) 关于对文化教育的破坏
- 十. 关于对后方的大轰炸
- 十一. 关于贩毒和毒化政策
- 十二. 关于日军的其他罪行
- 十三. 关于中国的伤亡人数和财产损失
- 十四. 关于日军暴行产生的原因
- 十五. 关于战争遗留问题
- 十六. 关于日军罪行研究存在的问题及进一步解决的建议.

논문명 : 慰安妇事件

저 자 : 当代杂志编辑部
게 재 지 : 当代
발행연도 : 2006年 1月
발 행 처 : 台北 : 合志文化公社
쪽 수 : 134~135쪽
차 례 : 없음

논 문 명 : 历史修正主义与新民族主义 : 日本修改教科书争议的政治效应
저 자 : 罗志平
게 재 지 : 问题与研究
발행연도 : 2006年 1~2月
발 행 처 : 台北 : 国际关系研究所
쪽 수 : 81~106쪽
차 례 : 없음

논 문 명 : 血泪“慰安妇”的来龙去脉
저 자 : 叔弓
게 재 지 : 纵横 2006年 11期
발행연도 : 2006年
발 행 처 : 中国文史出版社
쪽 수 : 50~52쪽
차 례 :

始于九一八, 广施于南京大屠杀
东条英机开道, 裕仁加贴皇封
超及“兽类集团” 开动“野兽机器”

논 문 명 : 《泥岸》 - 中国的《望乡》

저 자 : 王碧清

게 재 지 : 南京广播电视大学学报 44期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 南京广播电视大学学报

쪽 수 : 34~41쪽

차 례 :

一. 省三和 《泥岸》

二. 《泥岸》中的当代官场人物形象

(一) 水投鞭 : 一个资料权重, 精于权术

(二) 郭金鼎 : 一个解放前的地下革命者, 解放后的地方干部的另类

(三) 郭维屏 : 一个善于钻营官场, 最终失去党性和起码人性的行政客

(四) 虞本西 : 一个钻营于官场的失意小政客

(五) 省城官场上的其他人物

논 문 명 : 平民化战争研究的启示

저 자 : 李小江

게 재 지 : 读书 2006年 10期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 生活读书新知三联书店

쪽 수 : 47~55쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : “大一沙龙” : 第一个日军“慰安所”

저 자 : 陈丽菲, 苏智良

게 재 지 : 史林 2006年 1期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 上海社会科学院历史研究所

쪽 수 : 76~79쪽

차 례 :

“大一沙龙”的由来

“大一”海军“慰安所”的内幕

中日证人的回忆

遗址能否保存.

논 문 명 : 面对战争罪恶时的生命抉择 — 评话剧《沦陷》

저 자 : 贾冀川

게 재 지 : 四川戏剧 2007年 3期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 四川省川剧艺术研究院

쪽 수 : 28~29쪽

차 례 :

一

二

三

四.

논 문 명 : 困扰中日关系的历史问题 — 以“慰安妇”为例

저 자 : 江文君, 苏智良

게 재 지 : 甘肃社会科学 2007年 3期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 甘肃社会科学院

쪽 수 : 119~123쪽

차 례 :

一. “慰安妇”问题缘起

二. 日本政府的态度和反应

三. 中国“慰安妇”的受害者在日本的诉讼

四. 国际社会日益注“慰安妇”问题

논문명 : 对南京原日军慰安所的最新调查报告

저자 : 经盛鸿

게재지 : 社会科学战线 2007年 3期

발행연도 : 2007年

발행처 : 吉林省社会科学院

쪽수 : 138~155쪽

차례 :

- 一. 南京日军“慰安妇”制度的由来
- 二. 日军在南京设立慰安所的主要途径
- 三. 日军方对南京慰安所的管理
- 四. 南京慰安妇的血泪
- 五. 南京“慰安所”直到日本投降后才被查封

논문명 : 慰安妇血铸的史实 — 对南京侵华日军慰安所的调查

저자 : 经盛鸿

게재지 : 南京师大学报(社会科学版) 2007年 1期

발행연도 : 2007年

발행처 : 南京师范大学

쪽수 : 108~114쪽

차례 :

- 一. 日军在攻占南京初期自行设立临时慰安所
- 二. 由中国的地痞流氓与伪政权设立慰安所
- 三. 日军部直接开办或委托日侨娼业主设立慰安所
- 四. 日军对南京慰安妇的“管理”与摧残

논문명 : 南京慰安妇的血泪 — 对南京侵华日军慰安所的最新调查报告

저자 : 经盛鸿, 王丽娜, 曹燕

게재지 : 百年潮 2007年 5期

발행연도 : 2007年

발행처 : 中国中共党史学会

쪽 수 : 54~59쪽

차 례 :

日军攻占南京初期,各部队奉命自行设立临时慰安所

由中国的地痞流氓与伪政权设立慰安所

日军部直接开办或委托日侨娼业主设立慰安所

日本军方对南京慰安妇的“管理”与摧残

논문명 : 日本应有勇气承担民族道德责任 — 从安倍的慰安妇讲话说起

저 자 : 邱震海

게재지 : 明报月刊

발행연도 : 2007年 4月

발행처 : 香港 : 明报杂志有限公司

쪽 수 : 68~69쪽

차 례 : 없음

논문명 : 九旬“慰安妇”活证人白蒲取证

저 자 : 鞠九江

게재지 : 福建党史月刊 2007年 12期

발행연도 : 2007年

발행처 : 中共福建省委党史研究室

쪽 수 : 미상

차 례 : 없음

논문명 : “慰安妇”, 不能忘却的记忆

저 자 : 段廷志

게재지 : 时事报告 2007年 8期

발행연도 : 2007年

발행처 : 中央宣传部

쪽 수 : 48~51쪽

차례 :

女性史上最黑暗的一页

国际社会的道义包围战

弄巧成拙挑衅宣传

논문명 : 对抗遗忘 — 写在抗日战争爆发70周年之际

저자 : 方毓强

게재지 : 上海采风 2007年 8期

발행연도 : 2007年

발행처 : 上海市文学艺术界联合会

쪽 수 : 76~77쪽

차례 :

《夜来香》与李兰香

遗忘是无知的开始

一则真实的笑话

打抱不平的美国人

논문명 : 武汉沦陷时期的慰安所与杀人场

저자 : 徐明庭

게재지 : 武汉文史资料 2007年 11期

발행연도 : 2007年

발행처 : 武汉市政协文史学习委员会

쪽 수 : 17~18쪽

차례 : 없음

논 문 명 : 突破思维的定势,跨越时空的警思 — 评省三的长篇小说《泥岸》

저 자 : 王碧清, 郭乃亮, 傅景贤

게 재 지 : 广播电视大学学报(哲学社会科学版) 142期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 中央广播电视大学委托内蒙古广播电视大学主办

쪽 수 : 116~118쪽

차 례 :

一. 《泥岸》一部令人心碎的历史悲剧

民族的悲剧

社会的悲剧

性格的悲剧

命运的悲剧

二. 《泥岸》画皮画骨,入木三分官场众生相

情人水投鞭 : 一个资深权重,精于权术,重情好色,“半生叱咤风云”的老干部

丈夫郭金鼎 : 一个解放前的地下革命者,解放后的地方干部的另类

儿子郭维屏 : 一个善于钻营官场,最终失去党性和起码人性的新政客

논 문 명 : 不容抹杀的历史 : 日军性奴隶制度

저 자 : 尹美香

역 자 : 崔强

게 재 지 : 当代韩国 2007年 3期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 社科文献出版社

쪽 수 : 59~64쪽

차 례 :

一. 日军“慰安妇”,日军性奴隶制度

二. 成立韩国挺身队问题对策协议会与日军“慰安妇”受害者的公开证言

三. 光复后受害者的生活以及挺身队协对受害者的福利事业

四. 解决日军“慰安妇”问题,每周星期三开展定期示威活动

五. 联合国等国际机构为解决日军“慰安妇”问题做出的努力

六. 美国众议院总会上正式接受的有关日军“慰安妇”的决议案

七. 日本政府的立场

八. 日军“慰安妇”生存者的居住状况以及我们应该做的工作

논문명 : 朱德兰, 《台湾总督府と慰安妇》

저자 : 伊藤桃子

게재지 : 国立中央大学人文学报

발행연도 : 2007年 7月

발행처 : 中坜 : 国立中央大学

쪽수 : 299~312쪽

차례 : 없음

논문명 : 美 「慰安妇」决议案令日本右翼恨之入骨

저자 : 李中邦

게재지 : 海峡评论

발행연도 : 2007年 8月

발행처 : 台北 : 海峡评论杂志社

쪽수 : 40~45쪽

차례 :

右翼亟欲打掉「河野谈话」

利用台湾独派辩解

操作「反日」, 「中国背景」

「慰安妇」, 「性奴隶」黏著日本外交

安倍访美「软功」一度奏效

拖美下水, 报纸广告惹火老美

右翼绝不反省但对美低调

논문명 : 档案记载的“慰安妇”真相

저자 : 张新

게 재 지 : 档案春秋 2007年 7期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 上海市档案馆

쪽 수 : 10~12쪽

차 례 :

档案中的慰安妇史料

慰安妇血泪史

历史不容抹杀欲望却

논 문 명 : 以《雾》为例浅谈叶广芩“日本系列小说”

저 자 : 郑尤

게 재 지 : 边疆经济与文化 2007年 2期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 黑龙江边疆经济学会 : 黑龙江省高师师资培训中心

쪽 수 : 112~113쪽

차 례 :

- 一. 小说中成功的人物塑造
- 二. 小说中对国民劣根性的无情批判
- 三. 小说反映了对“二战”历史旧帐的反思

논 문 명 : 日军暴力下的中国“慰安妇”

저 자 : 陈丽菲

게 재 지 : 书摘 2007年 5期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 光明日报社

쪽 수 : 88~91쪽

차 례 : 없음

논문명 : 太平洋上的核灾难

저자 : 埭叟

게재지 : 民防苑 2007年 3期

발행연도 : 2007年

발행처 : 上海市民防科研所

쪽수 : 2~3쪽

차례 :

持续半个世纪的核试验

逐步升级的核灾难

漫漫维权索赔路

논문명 : 慰安妇制度受害者不仅是女性

저자 : 夏蓓

게재지 : 档案与建设 2007年 12期

발행연도 : 2007年

발행처 : 江苏省档案局 : 江苏省档案学会

쪽수 : 38쪽

차례 : 없음

논문명 : 中国“慰安妇”问题研究综述

저자 : 胡银平

게재지 : 周口师范学院学报 第24卷 第1期

발행연도 : 2007年

발행처 : 周口师范学院

쪽수 : 76~79쪽

차례 :

一. 这期间中国大陆学者关于“慰安妇”问题的学术论文有数百篇之多, 现把有代表性的论文根据内容分类如下

- (一) 关于“慰安妇”制度的论述和实施的原因
- (二) 日军实施“慰安妇”制度的罪恶行径
- (三) 有关“慰安妇”问题的确凿证据和史料
 - 1. 慰安所
 - 2. 各地发现的档案, 文献资料
- (四) 战后日政府对于“慰安妇”问题的态度, 责任及有关国际法和赔偿问题
- 二. 中国大陆学者的研究专著(包括编著)
- 三. 中国台湾地区“慰安妇”问题的研究
- 四. 中国学者翻译的论文和著作(包括编著)
 - 1. 论文类
 - 2. 著作类
- 五. 研究机构和学术会议
- 六. “慰安妇”问题研究的不足和问题
 - 1.
 - 2.
 - 3.
 - 4.

논문명 : 《色戒》撕裂了我们的历史记忆 2008年 2期

저자 : 刘建平

게재지 : 报刊荟萃

발행연도 : 2008年

발행처 : 陕西日报社

쪽수 : 49~51쪽

차례 : 없음

논문명 : 日本帝国主义强掳朝鲜人的真相 2008年 1期

저자 : 李训革, 叶琳

게재지 : 日本学刊

발행연도 : 2008年

발행처 : 中国社会科学院日本研究所 : 中华日本学会

쪽 수 : 미상
차 례 : 없음

논문명 : 侵华日军军风纪의体系内认识 - 以《冈村宁次回忆录》为考察对象

저 자 : 严海建

게재지 : 广西社会科学, 152期

발행연도 : 2008年 2期

발행처 : 广西社会科学界联合会

쪽 수 : 124~127쪽

차 례 :

一.

二.

(一) 南京大屠杀问题

(二) “慰安妇”及暴行问题

三.

3. 기 타

자료명 : 武汉慰安所揭秘(보고서)

저 자 : 江城

게재지 : 武汉文史资料 1995年 4期

발행연도 : 1995年

발행처 : 武汉市政协文史学习委员会

쪽 수 : 115~131쪽

차 례 :

(一)

(二)

(三)

(四)

자 료 명 : 二战秘闻录(자료)

저 자 : 高士振

계 재 지 : 文史天地 1995年 4期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 贵州省政协办公厅

쪽 수 : 32~44쪽

차 례 :

1. 一只手表揭开了日军侵华的序幕
2. 蒋介石的准蔡延锴抗战
3. 蔡延锴“撒豆成兵”
4. 毛泽东为什么不同意杀蒋介石
5. 希特勒戏弄蒋介石
6. 蒋介石身边的日本大间谍
7. 叶挺舌战蒋介石
8. 慰安妇是日本最丑恶的罪证
9. 蒋介石别出心裁放“黄龙”
10. 轰动中外的武汉“七七”周年献金
11. “中山”舰血战“娘家人”
12. 蒋介石要杀第二个韩复榘
13. 蒋介石焦土抗战的悲剧
14. 日帝在华的鸦片之战
15. 毛泽东顾全大局表诚意
16. 斯大林的统一战线
17. 斯大林与希特勒的殊死搏斗
18. 奇袭日本观战团
19. 丘吉尔的“激将法”
20. 罗斯福的攻心战

자 료 명 : 侵沪日军搜掠妇女充当慰安妇史料(보고서)

저 자 : 副巡官万达尔

계 재 지 : 档案与史学 1995年 4期

발행연도 : 1995年

발행처 : 上海市档案馆

쪽 수 : 28 ~ 29쪽

차 례 :

一. 万代尔报告(1938年1月28日)

二. 万代尔报告(1938年 2月9日)

자료명 : 不堪回首的屈辱往事 — 一个侵琼日军“慰安妇”的诉述(자료)

저 자 : 符和积

게재지 : 纵横 1995年 4期

발행연도 : 1995年

발행처 : 中国文史出版社

쪽 수 : 15 ~ 19쪽

차 례 :

被诱骗征入“战地后勤服务队”

被体检遭强暴杀鸡骇猴

被破身开始屈辱生涯

被远遗海南岛红尘辛酸

被再遗天涯海角九死一生

被遗弃战后重获新生

자료명 : 日军“慰安妇”的天涯血泪(기사)

저 자 : 符和积

게재지 : 文史精华 1995年 9期

발행연도 : 1995年

발행처 : 河北省政协文史资料委员会

쪽 수 : 38 ~ 40쪽

차 례 :

无瑕少女屡遭强暴

押送军营充当慰安妇

谎骗日军逃脱魔窟

자 료 명 : 一位韩国“慰安妇”的自述(자료)

저 자 : 袁远

계 재 지 : 清明 1995年 5期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 安徽省文联

쪽 수 : 176~185, 38쪽

차 례 :

引言

一

二

三

四

五

补记

자 료 명 : 国耻五十年祭 — 记日军侵华战争中的劳工, 难童, 慰安妇(기사)

저 자 : 李秀平, 齐声

계 재 지 : 法律与生活 1995年 8期

발행연도 : 1995年

발 행 처 : 法律出版社

쪽 수 : 2~8쪽

차 례 :

野人刘连仁穴居13年

我们没有童年

侵访慰安妇

자 료 명 : 我做“慰安妇”的痛苦经历(자료)

저 자 : 李天英
게 재 지 : 文史精华 1995年 8期
발행연도 : 1995年 8月
발 행 처 : 河北省政协文史资料委员会
쪽 수 : 41~44, 49쪽
차 례 :
一
二
三
四
五

자 료 명 : 灵魂的回归(서평)
저 자 : 张侯
게 재 지 : 小说评论 1995年 4期
발행연도 : 1995年
발 행 처 : 陕西省作家协会
쪽 수 : 87~88쪽
차 례 : 없음

자 료 명 : 评话剧《情系母亲河》(평론)
저 자 : 陈斌善
게 재 지 : 剧本 1995年 4期
발행연도 : 1995年
발 행 처 : 中国戏剧家协会
쪽 수 : 14~15쪽
차 례 : 없음

자 료 명 : 《“大东亚战争”解放史观”的虚妄性》述评(서평)

저 자 : 文以明

게 재 지 : 史学史研究 1996年 4期

발행연도 : 1996年

발 행 처 : 北京师范大学史学研究所

쪽 수 : 35~43쪽

차 례 :

(一) 反动史观之史

(二) “大东解放史观”是殖民侵略史观

(三) “帮助各国独立”是个弥天大谎

(四) “解放史观”的逻辑混乱与自我否定

자 료 명 : 一个侵华日本老兵的日记与回忆之五大兵中的瘟疫(기사)

저 자 : 泽昌利

역 자 : 鞠克光, 鞠超英, 杨琳, 鞠佟生, 田西如

게 재 지 : 山西档案 1996年 5期

발행연도 : 1996年

발 행 처 : 山西省档案局;山西省档案学会

쪽 수 : 39~41쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 纪念七七事变60周年国际学术讨论会综述(보고서)

저 자 : 赵淑玲, 李宗远

게 재 지 : 抗日战争研究 1997年 3期

발행연도 : 1997年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所; 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 236~242쪽

차 례 :

- 一. 关于七七事变的发生, 发展和国际影响
- 二. 关于七七事变后日本侵华政策的演变
- 三. 关于正面战场
- 四. 关于日本对华经济掠夺
- 五. 关于抗战时期的思想文化
- 六. 关于战争遗留问题
- 七. 关于钓鱼岛归属问题

자 료 명 : 新发现的日军在天津强征中国妇女充当慰安妇的档案资料(기사)

저 자 : 卞修跃

게 재 지 : 抗日战争研究 1998年 3期

발행연도 : 1998年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会

쪽 수 : 246~247쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 透过历史的尘埃看中国“慰安妇”真相(기사)

저 자 : 陈秋兰

게 재 지 : 中国律师 1998年 11期

발행연도 : 1998年

발 행 처 : 中华全国律师协会

쪽 수 : 18~23쪽

차 례 :

从一张手绘地图引出的 ……

日本右翼, 闭佳妮的嘴!

- 一. 设置慰安所的经过与目的
 1. 设置慰安所的经过
 2. 设置慰安所的目的
- 二. 随军慰安妇制度的本质
 1. 日本国家与军队的参与

2. 在中国的征募方法

蒙难同胞, 中日律士为你昭雪

1. 被告违反国际法, 国际习惯法
2. 条约以及国际习惯法的国内效力
3. 被告应承担损害赔偿任

日本政府, 你必须向受害者低头!

1. 关于国际私法方面
2. 关于“国家无答责”
3. 关于时效与除斥

结束语

자 료 명 : 人性演化中解读历史的力作(서평)

저 자 : 吴野

게 재 지 : 文学自由谈 1999年 5期

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 天津市文联

쪽 수 : 145~148쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 苏智良与中国慰安妇研究(인터뷰)

저 자 : 赵兰英

게 재 지 : 了望 34期

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 新华通讯社

쪽 수 : 51~53쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 台湾上映《阿妈的秘密》血泪控拆日军暴行(기사)

저 자 : 赵郁美

게 재 지 : 统一论坛 1999年 1期

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 中国和平统一促进会

쪽 수 : 40~41쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 不要掩耳盗铃了(칼럼)

저 자 : 冯英子

게 재 지 : 民主 1999年 9期

발행연도 : 1999年

발 행 처 : 中国民主促进会中央委员会

쪽 수 : 29쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 中国首次“慰安妇”问题研讨会在上海师范大学举行(기사)

저 자 : 미상

게 재 지 : 上海师范大学学报(哲学社会科学版) 2000年 2期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 中国上海师范大学

쪽 수 : 미상

차 례 : 없음

자 료 명 : 从边缘到中心 韩国女性纪录电影导演 — 卞英珠(기사)

저 자 : 朴彦珍

게 재 지 : 电影艺术 2000年 4期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 中国电影协会

쪽 수 : 111~114쪽

차 례 :

韩国女性电影的实践

卞英珠女性电影的实践

附录

자 료 명 : 敢于和善于进行开拓性的研究 — 苏智良教授访谈(대담문)

저 자 : 苏智良, 谢宝耿

게 재 지 : 学术月刊 2000年 第8期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 上海市社会科学界联合会

쪽 수 : 100~105쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 让“慰安妇”站起来的人们(기사)

저 자 : 李秀平

게 재 지 : 法律与生活 2000年 6期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 法律出版社

쪽 수 : 14~18쪽

차 례 :

众人托起的第一人

一位高级官员和慰安妇的故事

一个史学工作的调查报告

真情和良知化作行动的人群

자 료 명 : “根据天皇命令行动的野兽集团”的性奴隶 — 《慰安妇研究》评介(서평)

저 자 : 张振鷗

게 재 지 : 抗日战争研究 2000年 2期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所 : 中国抗日战争史学会

쪽 수 : 203~211쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 世界抗日战争史实维护联合会举行第四届学术年会(기사)

저 자 : 扈良

게 재 지 : 抗日战争研究 2000年 4期

발행연도 : 2000年

발 행 처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会

쪽 수 : 231쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 东宁要塞慰安妇首次揭秘(기사)

저 자 : 兰草, 韩茂才

게 재 지 : 文史精华 137期

발행연도 : 2001年

발 행 처 : 河北省政协文史资料委员会

쪽 수 : 17~23쪽

차 례 :

日军侵华最大的军事要塞

寻找军事要地里的慰安所

慰安妇埋在心底的血和泪

后记

자 료 명 : 不堪回首的回忆 — 我的慰安妇生涯(기사)

저 자 : 朴莲伊, 金镇烈

역 자 : 黄一兵

게 재 지 : 纵横 2001年 1期

발행연도 : 2001年

발 행 처 : 中国文史出版社

쪽 수 : 54~58쪽

차 례 :

那个人告诉我广东好玩极了, 还能赚钱
没有上到那样的事 情会落到我的头上来
军人排着队不断地涌进来
我无论如何要活下去
慰安所主人说我欠了他的债
又去了新加坡
那些存款簿一下子变成了废纸

자 료 명 : 本月热点 : 中国慰安妇的世纪血泊(기사)

저 자 : 孙国栋

게 재 지 : 中国律师 2001年 1期

발행연도 : 2001年

발 행 처 : 中华全国律师协会

쪽 수 : 25~29쪽

차 례 :

慰安妇制度是一种有组织的强奸
中国是慰安妇制度最大的受害国
讨还失落的尊严

자 료 명 : 东北首次发现保存最完整的侵华日军“慰安所”(기사)

저 자 : 王志东

게 재 지 : 中国国情国力 2001年 9期

발행연도 : 2001年

발 행 처 : 中国信息报社

쪽 수 : 미상

차 례 :

深山密林中神秘的“慰安所”

见证人说“慰安所里的女孩子是日寇铁蹄下的性奴隶”

专家揭开“慰安所”的面纱

자 료 명 : 战后日军仍设有慰安所重要证据在山西省档案馆发现(기사)

저 자 : 雨华

게 재 지 : 山西档案 2001年 5期

발행연도 : 2001年

발 행 처 : 山西省档案局;山西省档案学会

쪽 수 : 4쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 状告日本(기사)

저 자 : 赵润生

게 재 지 : 文史月刊 2001年 5期

발행연도 : 2001年

발 행 처 : 山西省政协文史资料委员会

쪽 수 : 4~16쪽

차 례 :

不堪回首

状告日本

中国受害女性首次出庭

斗争正未有穷期

자 료 명 : 再读《我在霞村的时候》(서평)
저 자 : 秋山洋子
역 자 : 陈苏黔
게 재 지 : 中国现代文学研究丛刊 2001年 1期
발행연도 : 2001年
발 행 처 : 中国现代文学馆
쪽 수 : 260~264쪽
차 례 : 없음

자 료 명 : 香港“日军战时暴行见证会”综述(기사)
저 자 : 本刊
게 재 지 : 抗日战争研究 2002年 1期
발행연도 : 2002年
발 행 처 : 中国社会科学院近代史所;中国抗日战争史学会
쪽 수 : 249~251쪽
차 례 :

1. 于日军战时性奴隶“慰安妇”的见证
2. 关于日军强掳劳工及其他暴行的见证
3. 关于南京大屠杀和日军细菌战罪行的见证

자 료 명 : 对罪恶的认证 — 中日学者随侵华老兵实地考察记(기사)
저 자 : 赵永强
게 재 지 : 山西档案 2002年 3期
발행연도 : 2002年
발 행 처 : 山西省档案局 : 山西省档案学会
쪽 수 : 34~37쪽
차 례 :
一. 考察活动记述

二. 侵华老兵的证词

자 료 명 : 日军“慰安妇”当了八路军(기사)

저 자 : 芦焰

게 재 지 : 党史文汇 2002年 3期

발행연도 : 2002年

발 행 처 : 山西省史志研究院

쪽 수 : 13~16쪽

차 례 :

来了一个妖艳的女人

“面子大大的不好看?”

她笑得那么开心

齐铎里失踪了

“我也干革命工作了”

大葱和慰问信

자 료 명 : 不是为了“圣战”(기사)

저 자 : Walter Rundle

게 재 지 : 华夏人文地理 2003年 2期

발행연도 : 2003年

발 행 처 : 云南省社会科学院

쪽 수 : 31쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 慰安妇照片讲述的沉重历史(기사)

저 자 : 戈叔亚

게 재 지 : 华夏人文地理 2003年 2期

발행연도 : 2003年

발행처 : 云南省社会科学院

쪽 수 : 미상

차례 :

若春·朴永心 - 照片引发的故事

松山

李老汉 - 我见过这位“朝鲜姑娘人”

熊维纪, 熊维元 - 招聘的发现者

朴永心·若春 - 这个人就是我

犯了失职的“被告” - 一个中国男人的悲哀

日本军歌《满洲姑娘》

자료명 : 慰安妇朴永心(기사)

저자 : 金荣

역자 : 刘建中

게재지 : 华夏人文地理 2003年 2期

발행연도 : 2003年

발행처 : 云南省社会科学院

쪽 수 : 22~27쪽

차례 :

照片

南京

缅甸

拉孟

被捕

同家

자료명 : 为了未来的诉讼 - 日本律师为日军侵华受害者辩护纪实(기실문학)

저자 : 赵冬苓

게재지 : 时代文学 2003年 1期

발행연도 : 2003年

발행처 : 山东省作家协会

쪽 수 : 4~30쪽

차례 :

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

后记

자료명 : 南京寻证(기사)

저자 : 韩晓蓉

게재지 : 华夏人文地理 2003年 2期

발행연도 : 2003年

발행처 : 云南省社会科学院

쪽 수 : 32~35쪽

차례 :

文昌巷的“菊水楼”

利济2号和18号

沈玲老人故地重寻

保存遗址就是保存历史

자료명 : 孟县“慰安妇”起诉日军暴行的前前后后(기사)

저자 : 苏小平, 张慧青

게재지 : 山西档案 2004年 1期

발행연도 : 2004年

발행처 : 山西省档案局; 山西省档案学会

쪽 수 : 48~52쪽

차례 :

孟县“慰安所”的惨痛经历

心, 永远地痛

“慰安所”问题引发强烈关注

要让所有的日本人都知道

艰难曲折的跨世纪起诉

历史铁账岂容否认

자료명 : 朴永心 : 侵华日军慰安妇制度的活人证(기사)

저자 : 经盛鸿

게재지 : 纵横 2005年 1期

발행연도 : 2005年

발행처 : 中国文史出版社

쪽 수 : 25~29쪽

차례 :

怀孕的慰安妇
屈辱的血泪生活
日本老兵的回忆
寻找慰安所旧址
重回伤心地

자 료 명 : 评《东亚三国的近现代史》(서평)

저 자 : 郭永虎

게 재 지 : 历史教学(高校版) 2005年 10期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 历史教学社

쪽 수 : 76~77쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 贞贞是个“慰安妇” — 丁玲《我在霞村的时候》解析(서평)

저 자 : 董炳月

게 재 지 : 中国现代文学研究丛刊 2005年 2期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 中国现代文学馆

쪽 수 : 211~219쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 滇西抗战中的另类人生 — 日军慰安妇(기사)

저 자 : 李配亮, 张惟祜

게 재 지 : 云南教育(视界版B) 2005年 7期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 云南省教育厅

쪽 수 : 48~50쪽

차 례 :

慰安妇照片的发现

照片里的故事

慰安妇及慰安所在腾冲

자 료 명 : 永远不能忘怀的痛与重(서평)

저 자 : 毛时安

게 재 지 : 上海文学 2005年 8期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 上海市作家协会

쪽 수 : 50~51쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 金坛慰安所内情六则(기사)

저 자 : 范学贵, 施志霞

게 재 지 : 档案与建设 2005年 12期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 江苏省档案局 : 江苏省档案学会

쪽 수 : 37~38쪽

차 례 :

有骨气的小姑娘

六个骷髅头

营救表妹

慰安妇种菜

神秘的小平房

受害人心态

자 료 명 : 寻访金坛慰安所遗址(기사)

저 자 : 范学贵, 赵亚平

게 재 지 : 档案与建设 2005年 9期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 江苏省档案局;江苏省档案学会

쪽 수 : 23~24쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 呐喊的“黑镜头” — 读《中国慰安妇》(서평)

저 자 : 徐斌

게 재 지 : 新闻实践 2005年 8期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 浙江日报报业集团 : 浙江省新闻研究所

쪽 수 : 67쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 沉重的话题 : 再说“慰安妇”(기사)

저 자 : 苏智良

게 재 지 : 中国社会导刊 2005年 18期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 中国社会新闻出版总社

쪽 수 : 45~57쪽

차 례 :

中国“慰安妇”的历史

社会上最弱者的人群

明天, 我们拿什么去记忆

자 료 명 : 纪念胜利 毋忘国耻(기사)

저 자 : 王大鲁

게 재 지 : 前进论坛 2005年 9期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 中国农工民主党中央委员会

쪽 수 : 16~17쪽

차 례 :

胜利来之不易

苦难和屈辱

자 료 명 : 南京慰安妇悲恨往事实录(기사)

저 자 : 王炳毅

게 재 지 : 档案与建设 2005年 7期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 江苏省档案局; 江苏省档案学会

쪽 수 : 47~48쪽

차 례 :

朱金香 : 受尽摧残的织布女工

小贺 : 拼死抗争的女大学生

杨隆珍 : 被骗落入火坑

邵美英 : 不堪回首的往事

자 료 명 : 滇西 : 远征军的生死之路(기사)

저 자 : 张力

게 재 지 : 时代潮 2005年 15期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 人民日报社

쪽 수 : 21~23쪽

차 례 :

命悬一线

最后一课

山之上, 有国殇

倾城之难

자 료 명 : “善霸”李敖(기사)

저 자 : 张立洁

게 재 지 : 三月风 2005年 10期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 中国残疾人联合会

쪽 수 : 12~15쪽

차 례 :

“不是我爱慰安妇, 是我恨日本人”

李敖为何受到如此拥趸?

跪拜恩师送美金探望子尤小狂人

对黑暗表示沉默, 你就是同犯

一边表演意淫, 一边坐而论道

자 료 명 : 一位日本枢机主教的“中国情”与“历史观” — 专访白柳诚—枢机主教(기사)

저 자 : 张士江

게 재 지 : 中国宗教 2005年 5期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 国家宗教局

쪽 수 : 29~31쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : “我是慰安妇!”(기사)

저 자 : 陈庆港

게 재 지 : 中国社会导刊 2005年 1期

발행연도 : 2005年 1月

발 행 처 : 中国社会新闻出版总社

쪽 수 : 55~58쪽

차 례 :

图片说明 :

1. 林石姑
2. 陈亚扁
3. 杨恶榜
4. 林亚金
5. 赵润梅
6. 菜爱花
7. 郭喜翠
8. 薄阿白
9. 符学英
10. 周喜香

자 료 명 : 把日本国推向被告席(下)(자료)

저 자 : 陈廷一

게 재 지 : 时代文学 2005年 5期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 山东省作家协会

쪽 수 : 4~26쪽

차 례 :

2. 如果没有一个张双兵的中国男人, 中国慰安妇的诉讼案还不知要推迟多久
3. 三系美人刘面换的悲剧

第五章 用化学, 细菌武器杀人, 世界当数日军最残毒

1. 杀人者 — 原侵华日军宪兵三尾丰认罪, 而日本政府却连连矢口否认
2. 杨志慧等 180名中国姐妹控告日本播撒? 疫杆菌, 戕害中国人民…
3. 细菌战受害者的中方律师王选女士如是说飞机在万米高空飞行着, 东京在望

第六章 东京审判
第七章 十月, 横瀨的北京
第八章 战争伤害索赔, 何时水滴石穿
 在何民先生家做客
 采访日本尾山宏
 尾山宏, 今年70岁
 战争伤害, 我们还要承受多久?

자 료 명 : 记录黎苗族“慰安妇”血泪史的人 — 记黎族退休干部张应勇(기사)

저 자 : 黄青文

게 재 지 : 今日海南 2005年 9期

발행연도 : 2005年

발 행 처 : 中共海南省委员会

쪽 수 : 43쪽

차 례 :

寻觅当地“慰安妇”

纪录辛酸血泪史

寻求爱心助大娘

자 료 명 : 我研究“慰安妇”问题的历程(인터뷰)

저 자 : 苏智良(구술), 陈礼茂(정리)

게 재 지 : 史林 2006年 1期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 上海社会科学院历史研究所

쪽 수 : 80~87쪽

차 례 :

调查慰安所倡议设立“慰安所”纪念馆

寻访合资助“慰安妇”

科研成果和学术活动

자 료 명 : 大姐(기사)

저 자 : 杨刚, 张蜀南

게 재 지 : 晚霞 2006年 7期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 四川省委老干部局 : 云南省委老干部局; 贵州省委老干部库 : 西藏自治区
委老干部局

쪽 수 : 26쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 黑暗深处的光 — 读班忠义《“盖山西”和她的姐妹 — 山西日军性暴力十年调查》(서평)

저 자 : 余杰

게 재 지 : 社会科学论坛(学术评论卷) 2006年 9期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 河北省社会科学界联合会

쪽 수 : 54~61쪽

차 례 :

- 一. 不是慰安妇,而是日军性暴力受害者
- 二. 日本文化中“不忏悔”的因子
- 三. 她们永远生活在伤害之中
- 四. 凭着爱, 让自己作光

자 료 명 : 《泥岸》: 一个慰安妇的痛史 — 评省三的长篇小说《泥岸》(서평)

저 자 : 王碧清

게 재 지 : 海南广播电视大学学报 24期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 海南广播电视大学

쪽 수 : 7~9쪽

차 례 :

- 一. 民族的悲剧
- 二. 时代的悲剧
- 三. 社会的悲剧
- 四. 性格的悲剧
- 五. 命运的悲剧

자 료 명 : 我所做的是还历史一个真相 — 访中国慰安妇研究中心主任苏智良教授
(기사)

저 자 : 王恒利

게 재 지 : 河南教育(高校版) 2006年 3期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 河南省教育报刊社

쪽 수 : 44~46쪽

차 례 :

杨家宅到底在哪里

“慰安妇”制度罪行铁证如山

对话 : 慰安妇援助需立法保护

实地走访 : 日军首个慰安所面临拆迁命运

자 료 명 : 《日本侵晋实录》 : 一部民族呐喊之作(서평)

저 자 : 愚若

게 재 지 : 山西老年 2006年 8期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 山西省委老干部局

쪽 수 : 32쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 大森典子 : 为中国“慰安妇”奋战的日本女律师(기사)

저 자 : 邢五一

게 재 지 : 中国律师 2006年 4期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 中华全国律师协会

쪽 수 : 37~38쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 瑞芬, 我为你哭泣 — 关于《沦陷》中“瑞芬”的创作(기사)

저 자 : 惠娟艳

게 재 지 : 剧影月报 2006年 6期

발행연도 : 2006年

발 행 처 : 江苏省文化艺术研究所

쪽 수 : 76~77쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : “活证人”周粉英 — 一个如皋“慰安妇”的血泪控诉(기사)

저 자 : 鞠九江

게 재 지 : 档案春秋 2007年 12期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 上海市档案馆

쪽 수 : 4~8쪽

차 례 :

血泪控诉, “我成了慰安妇的‘1号花姑娘’”

社会关注, 向勇敢坚强的母亲致敬

母子同心, 残疾儿背盲母去取证

자 료 명 : 历史影象 : 最后的故事(서평)

저 자 : 大漠

게 재 지 : 书摘 2007年 2期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 光明日报社

쪽 수 : 79~82쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 坐山雕的把兄弟(서평)

저 자 : 大漠

게 재 지 : 党史文苑 2007年 9期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 党史文苑杂志社

쪽 수 : 49~51쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : 迈克·本田 : 抓住慰安妇问题不放的美国众议员(기사)

저 자 : 杨孝文

게 재 지 : 环球军事 2007年 7期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 解放军报社

쪽 수 : 미상

차 례 :

“理应拿出勇气, 正式道歉”

“收容所”里的苦孩子

伸張正義, 主持公道

자 료 명 : 本田 为“慰安妇”落泪(기사)

저 자 : 王树军

게 재 지 : 环球人物 2007年 14期

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 人民日报社

쪽 수 : 42~45쪽

차 례 :

“你是不是在做秀”

“他们被戳到了痛处”

“我们要的只是日本政府的道歉”

别让她们带着遗恨死去

一张旧报纸带来的震撼

자 료 명 : 三名慰安妇的一生 2007年 9期(기사)

저 자 : 张英, 朱晴依

게 재 지 : 人民文摘

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 人民日报出版社

쪽 수 : 44~45쪽

차 례 :

袁竹林 湖北 已故

韦绍兰 广西 88岁

林亚金 海南 81岁

자 료 명 : 是该反省的时候了 2007年 16期(기사)

저 자 : 赵利

게 재 지 : 环球军事

발행연도 : 2007年

발 행 처 : 解放军报社

차 례 : 없음

자 료 명 : 张国通 我的镜头不说谎 2008年 1期(기사)

저 자 : 陈涛

게 재 지 : 三月风

발행연도 : 2008年

발 행 처 : 中国残疾人联合会

쪽 수 : 42~43쪽

차 례 :

从纪录中国劳工开始

定格性暴力受害者

遭遇“鬼子”兵



동북아역사재단
NORTHEAST ASIAN HISTORY FOUNDATION

한일 역사현안 관련 일본군 '위안부' 연구논저 목록·하

—
IV
·
기
과
역
사
—



동북아역사재단
NORTHEAST ASIAN HISTORY FOUNDATION



동북아역사재단

NORTHEAST ASIAN HISTORY FOUNDATION

1. 저 서

책 명 : Witness of the Victims of Military Sexual Slavery By Japan
편 자 : The Korean Council for The Women Drafted for Sexual Slavery
by Japan

발행연도 : 1992년

발 행 처 : THE KOREAN COUNCIL FOR THE WOMEN DRAFTED FOR SEXUAL
SLAVERY BY JAPAN

쪽 수 : 100쪽

차 례 : 없음

책 명 : War crimes on Asian women : military sexual slavery by Japan during

World War 2 : The case of the Filipino comfort women [IMPORT]
(Unknown Binding)

편 자 : Task Force on Filipina Victims of Military Sexual Slavery by Japan

발행연도 : 1993년

발행처 : Task Force on Filipina Victims of Military Sexual Slavery by Japan

쪽 수 : 233쪽

차 례 : 없음

책 명 : Recommendations on the Issue of "Comfort Women"

편 자 : JFBA

발행연도 : 1995년

발행처 : Tokyo : Japan Federation of Bar Associations(JFBA)

쪽 수 : 30쪽

차 례 : 없음

책 명 : The Japanese wartime empire, 1931-1945

편 자 : Peter Duus, Ramon Hawley Myers, Mark R Peattie, Wan-yao Chou

발행연도 : 1996년

발행처 : Princeton, N.J. : Princeton University Press

쪽 수 : 375쪽

차 례 :

Preface

Introduction / Japan's Wartime Empire : Problems and Issues / Peter Duus

PART I : Japan's Wartime Empire and the Formal Colonies

Chapter 1 / Total War, Industrialization, and Social Change in Late Colonial Korea / Carter J. Eckert

Chapter 2 / The Kominka Movement in Taiwan and Korea : Comparisons and Interpretations / Wan-yao Chou

PART II : Japan's Wartime Empire and Northeast Asia

Chapter 3 / Imagined Empire : The Cultural Construction of Manchukuo / Louise Young

Chapter 4 / Managing Occupied Manchuria, 1931–1934 / Y. Tak Matsusaka

Chapter 5 / Creating a Modern Enclave Economy : The Economic Integration of Japan, Manchuria, and North China, 1932–1945 / Romon H. Myers

Chapter 6 / The Yen Bloc, 1931–1941 / Takafusa Nakamura

PART III : Japan's Wartime Empire and Southeast Asia

Chapter 7 / Nanshin : The "Southward Advance," 1931–1941, as a Prelude to the Japanese Occupation of Southeast Asia / Mark R. Peattie

Chapter 8 / Anomaly or Model? Independent Thailand's Role in Japan's Asian Strategy, 1941–1943 / E. Bruce Reynolds

Chapter 9 / Cooperations, Submission, and Resistance of Indigenous Elites of Southeast Asia in the Wartime Empire / Ken 'ichi Goto

PART IV : Japan's Wartime Empire in Other Perspectives

Chapter 10 / The "Comfort Women." / George Hicks

Chapter 11 / The Postwar Economic Legacy of Japan's Wartime Empire / Hideo Kobayashi

Chapter 12 / Reflections on the Japanese and German Empires of World War II / L. H. Gann Contributors

Index

책 명 : True Stories of the Korean Comfort Women

편 자 : Korean Council for Women Drafted for Military Sexual Slavery by Japan(Author), Keith Howard(Editor)

발행연도 : 1996년

발행처 : Casseell

쪽 수 : 244쪽

차 례 :

Introduction : KEITH HOWARD

1. A Korean Tragedy

KEITH HOWARD

2. Korean Women Drafted for Military Sexual Slavery by Japan

CHIN SUNG CHUNG

Survivors Tell Their Stories

3. Bitter Memories I Am Loath to Recall
KIM HAKSUN
4. I Have Much to Say to the Korean Government
KIM TŎKCHIN
5. I Will No Longer Harbour Resentment
YI YŎNGSUK
6. I Would Rather Die
HA SUNNYŎ
7. I Thought I Was Going to a Textile Factory
OH OMOK
8. I Want to Live without Being Treated with Contempt
HWANG KŬMJU
9. I So Much Wanted to Study
MUN P'ILGI
10. Return My Youth to Me
YI YONGSU
11. Taken Away at Twelve
YI OKPUN
12. Back to My Wretched Life
MUN OKCHU
13. It Makes Me Sad That I Can't Have Children
YI SUNOK
14. I Came Home, But Lost My Family
YI SANGOK
15. Wandering around Manchuria, China and Sumatra
YI TŬNGNAM
16. I Thought I Would Die
YI YONGNYŎ
17. Death and Life Crises
KIM T'AESŎN
18. Hostage to My Past
PAK SUNAE
19. Silent Suffering
CH'OE MYŎNGSUN
20. From the Women's Volunteer Labour

Corps to a Comfort Station

KANG TÖKKYÖNG

21. Shut Away Close to Home

YUN TURI

Appendix : Military Sexual Slavery by Japan and Issues in Law

ETSURO TOTSUKA

책 명 : The Comfort Women : Japan's Brutal Regime of Enforced Prostitution
in the Second World War

저 자 : George L. Hicks

발행연도 : 1997년

발행처 : W.W. Norton & Company

쪽 수 : 303쪽

차 례 :

ACKNOWLEDGMENTS

NOTE ON NAMES, INSTITUTIONS AND EXCHANGE VALUES

INTRODUCTION

Mars and Venus

The flash market

Sex in a war zone

The Shanghai Regulations and their variations

The Empire of the Sun

The end of a nightmare, the beginning of another

Consciousness—raising and exposure

The politics of sex

The governments speak up

The international dimensions

Conclusion

SELECT ANNOTATED BIBLIOGRAPHY

INDEX

책 명 : “Chongshindae” (Military Comfort Women) Issue : Why Now and Now
What?

저 자 : Seong-Phil Hong

발행연도 : 1997년

발 행 처 : Asian Center for Women’s Studies Ewha Womans University

쪽 수 : 113쪽

차 례 :

[I]

State Responsibility

United Nations Human Rights Bodies

[II]

True Stories of the Korean Comfort Women (Excerpts from Keith Howard)

[III]

Two articles on the EW issue (Seong-Phil Hong)

[IV]

Asian Women’s Fund

Professor Yasuaki Onuma’s view on the outcomes of the Tokyo Tribunal

[V]

The Findings of ILO on the comfort women issue

Rebuttals on the Asian Women’s Fund Initiative (Material on Wartime Sexual Slavery)

UN response to the Asian Women’ Fund initiative

책 명 : Korean American women : from tradition to modern feminism

편 자 : Ailee Moon, Young I Song

발행연도 : 1998년

발 행 처 : Westport, Conn. : Praeger

쪽 수 : 298쪽

차 례 :

Preface

Part One : Introduction : From Tradition to Modern Feminism

1. A Woman-Centered Perspective on Korean American Women Today ?/Young I. Song

2. A Critical Feminist Inquiry in a Multicultural Context / Sung Sil Lee Sohng
 3. The Social Reality of Korean American Women : Toward Crashing with the Confucian Ideology / El—Hannah Kim
- Part Two : A Profile of Korean Women and Men in the United States
4. Demographic and Socioeconomic Characteristics of Korean American Women and Men / Ailee Moon
 5. Demographic Characteristics and Trends of Post—1965 Korean Immigrant Women and Men / Pyong Gap Min ; Young I. Song
 6. Attitudes Toward Ethnic Identity, Marriage, and Familial Life among Women of Korean Descent in the United States, Japan, and Korea / Ailee Moon
- Part Three : Korean American Women Working Outside of the Family
7. Work Status, Conjugal Power Relations, and Marital Satisfaction among Korean Immigrant Married Women / Hye Kyung Chang ; Ailee Moon
 8. The Burden of Labor on Korean American Wives in and outside the Family / Pyong Gap Min
 9. Family and Work Roles of Korean Immigrant Wives and Related Experiences / Kwang Chung Kim ; Shin Kim
- Part Four : Korean American Identity
10. Searching for and Defining a Korean American Identify in a Multicultural Society / Luke I. Kim ; Grace S. Kim
 11. Intraethnic, Interracial, and Interethnic Marriages among Korean American Women / Gin Yong Pang
 12. Ethnic Identities Reflected in Value Orientation of Two Generations of Korean American Women / Ailee Moon and Young I. Song
- Part Five : Marriage and Family
13. Separation and Divorce among Korean Immigrant Families / Siyon Rhee
 14. The Domestic Violence against Women in Korean Immigrant Families : Cultural, Psychological, and Socioeconomic Perspectives / Young I. Song ; Ailee Moon
 15. Korean American Mothers' Parenting Styles and Adolescent Behavior / Eunai Kim Shrake
 16. Life Satisfaction of the Korean American Elderly / Young I. Song
- Part Six : Mental Health Issues
17. The Mental Health of Korean American Women / Luke I. Kim
 18. Korean Women's Hwa—Byung : Clinical Issues and Implications for Treatment / Mikyong Kim—Goh
- Part Seven : Issues for the Future

19. Korean Feminist and Human Rights Politics : The Chongshindae / Jugunianfu (“Comfort Women”) Movement / Alice Yun Chai
20. Revisioning of Family Reunions : A Case of Korean American Women and Their Families Separated by War / Sook Ja Paik ; Dong Soo Kim
21. Modern Feminist Issues Facing Korean American Women : A Global Perspective / Young I. Song
- Index
- About the Editors and Contributors

책 명 : Japan’s role in international politics since World War II

편 자 : Edward R. Beauchamp

발행연도 : 1998년

발행처 : New York : Garland

쪽 수 : 328쪽

차례 :

vii. Volume Introduction

1. Reinventing Security : Japan Since Meiji / Richard J. Samuels
23. Japan in the Coming Century : Looking East or West? / Ronald Dore
31. Japan’s Abiding Sakoku Mentality / Mayumi Itoh
42. The Korean “Comfort Women” : Movement for Redress / Chunghee Sarah Soh
57. Free—Floating Anxieties on the Pacific : Japan and the West Revisited / Laura E. Hein
85. Japan’s United Nations Peacekeeping and Other Operations / Takashi Inoguchi
104. Japan’s 1991 Minesweeping Decision : An Organizational Response / Peter J. Woolley
118. Pax Nipponica? / Ezra F. Vogel
134. Collaboration or Conflict? Foreign Aid and U.S. Japan Relations / Robert M. Orr Jr.
149. Perennial Anxiety : Japan—U.S. Controversy over Recognition of the PRC, 1952—1958 / Sayuri Shimizu
175. The U.S.—Japanese Alliance at Risk / G. Cameron Hurst III
183. Japanese—American Relations After the Cold War / Ezra F. Vogel
210. Whither Japan—U.S. Relations?
Partners for the Coming Century / Komori Yoshihisa, Ezra Vogel, and Saito Kunihiko
The Japan—U.S. Security Arrangements in a New Era / Tanaka Hitoshi

- Economic Relations : What Lies Ahead? / Kondo Takeshi, Nogami Yoshiji, and Takenaka Heizo
- Foresight Needed in Japan—U.S. Ties / Okazaki Hisahiko
229. Japan and the Spratlys Dispute : Aspirations and Limitations / Lam Peng Er
245. Japan and Global Environmental Leadership / Rowland T. Maddock
257. The Participation of Japanese Military Forces in United Nations Peacekeeping Operations / Milton Leitenberg
303. Yeltsin's Visit and the Outlook for Japanese—Russian Relations / Hiroshi Kimura
316. Diplomacy and Security in the Twenty—First Century / Kosaka Masataka
327. Acknowledgments

책 명 : Women and Women's Issues in Post World War II Japan(Dimensions of Contemporary Japan)

편 자 : Edwar R. Beauchamp

발행연도 : 1998년

발행처 : Routledge

쪽 수 : 400쪽

차례 :

Volume Introduction

Status Conflict : The Rebellion of the Tea Pourers—Susan J Pharr

The Japanese Woman's Movement : Ichikawa Fusae, a Pioneer in Woman's Suffrage—Dee Ann Vavich

Women and War in Japan, 1937—1945—Homas R H Havens

Peripheries : Rural Culture in Tokugawa Japan—Anne Walthall

Japanese Women—Old Images and New Realities—Michael Berger

Female Suicides — Mamoru Iga

Gender—Bending in Paradise : Doing “Female” and “Male” in Japan — Jennifer Robertson

Company Man Makes Family Happy : Gender Analyses of the Japanese Family — Kimiko Komoto

Home Truths : Women and Social Change in Japan — Merry White

Decent Housewives and Sensual White Women — Representations of Women in Postwar Japanese Magazines — Emiko Ochiai

The Death of “Good Wife, Wise Mother”? – Kathleen S. Uno
 The Flawed U.N. Report on Comfort Women – Hata Ikuhiko
 The Virtue of Japanese Mothers : Cultural Definitions of Women’s Lives – Merry White
 Professional House wife :
 The Career of Urban Middle Class Japanese Women – Suzanne H. Vogel
 Current Legal Problems Concerning Women Workers in Japan – Mutsuko Asakura
 Japanese Harlequin Romances as Transcultural Woman’s Fiction – Chieko Irie Mulhern
 Acknowledgments

책 명 : SILENCE BROKEN : Korean Comfort Women

편 자 : Dai Sil Kim-Gibson

발행연도 : 1999년

발행처 : Parkersburg, Iowa : Mid-Prairie Books

쪽 수 : 212쪽

차례 :

Introduction

Chapter 1 I WOULD RATHER DIE THAN
 Hwang Keum Ju

Chapter 2 JAPANESE MILITARY SUPPLIES
 Colonial Master in Korea
 Origins of Comfort Houses : Why and How
 Recruitment : Who and How

Chapter 3 SLAVES OF SEX
 Life in Comfort Houses
 Life After Comfort Hoses

Chapter 4 I WOULD RATHER MARRY A JAPANESE
 Bae Jok Gan

Chapter 5 REVIVED PAST
 Silence Broken
 Legal Hide and Seek

Chapter 6 I WANT TO BUY A HOUSE FOR MY SON
 Park Oak Yeun

Chapter 7 I ASKED MY BABY GIRL TO DO ME A FAVOR, TO DIE

A Mother—Daughter Story
Chapter 8 IF ONLY MY FATHER LET ME GO TO SCHOOL
Yun Doo Ri
Epilogue
Yun Dong Ju(1917—1945)

책 명 : Comfort Woman : A Filipina's Story of Prostitution and Slavery under
the Japanese Military

저 자 : Maria Rosa Henson

발행연도 : 1999년

발행처 : Rowman & Littlefield Publishers, Inc

쪽 수 : 128쪽

차 례 :

Preface, Sheila Coronel

Introduction, Yuki Tanaka

My Mother, Julia

My Childhood

The War Begins

Comfort Women

Pain and Recovery

My Marred Life

Single Mother

Going Public

Chronology

책 명 : “Women’s international war crimes tribunal on Japan’s military sexual
slavery in 2000” and the issues of Japanese military sexual slavery

편 자 : Seoul International Symposium(June 4th—5th, 1999 : Seoul, Korea),
Korean Council for the Women Drafted for Military Sexual Slavery
by Japan, Association of National Assembly Members Studying the

‘Comfort Women’ Issue, Korean Association of Law and Society
Studies

발행연도 : 1999년

발행처 : Seoul, Korea (South) : The Association

쪽 수 : 176쪽

차례 :

[Keynote speech]

A International Legal Approach toward the of Japan’s Military Sexual Slavery and the Liability
of Government of Japan” / Gay MacDougall(Special Rapporteur UNHCR)

[Topic 1] The Limit of Japanese government’s fact finding and assignment

Presentation(1) “Study on the limitation of Japan’s Efforts to Road with the past from the
Viewpoint of Political History”

Presenter : Korea(Kang Changil / professor of Baijai university)

Presentation(2) Report on the investigation of Rape, Sexual Violence and forced prostitution
by the Imperial Japanese Forces before and during WWII

Presenter : Japan (Utsumi Aiko / Prof. Keisen Jogakuen Univ.)

Discussion on the Topic (1)

1. Korea (Kang Jungsuk / The Institute of JUNGSHINDAE)
2. China (Su ZHiliang / professor of Shanhai College of Education)
3. Japan (Kawaguchi Kazko / Lawyer)

[Topic 2] The legal possibility of settlement for the issue of Japanese military sexual slavery

Presentation (3) : “Possibility legal solution in the issue of the Japanese army’s ‘comfort
women’—from the perspective of one of the victimized countries / Korea

Presenter : Korea (Kim Changrock / professor of Pusan National University)

Presentation (4) : “The legal strategy in view of offending state : current situation on the
reparation and punishment on the responsible”

Presenter : Japan (Yasushi Higashizawa / Lawyer)

Discussion on the Topic 2

1. Korea (Lee Mikyung / member of Korean National Assembly)
2. The Philippines (Bae Keumja / lawyer)
3. USA (Vahida Nainar / International Advisory Committee)

[Topic 3] “The constitution and activities of the Women’s International War Crimes Tribunal
on Japanese Military Sexual Slavery in 2000”

Presentation (5) : “The purpose and meaning of the Women’s Tribunal 2000”

Presenter : Japan (Matsui Yayori / VAWW-net Japan)

Presentation (6) : On the constitution and the procedure of the Women's Tribunal 2000"

Presenter : Korea (Cho shihyun / professor of Sungshin University)

Discussion on the Topic 3

1. Gay McDougall
2. Taiwan(Ying-Chih Laio / Lawyer)
3. The Philippines(Indai Sajor / ASCENT)
4. Korea(Hong, Shungphil / prof. Ewha women's Univ)

[Appendix1] Japan Federation of Bar Association's Lecture(2, June)

"The Analysis of Lega Responsibility of the Government of Japan on Comfort Women Issues and Recommendations to Solve It"

Presenter : Gay McDougall

[Appendix 2] Violence Against Women in War Network Lecture

Meeting on 1 JUNE 1999, TOKYO

Presenter : Gay McDougall

책 명 : Ianfu, the comfort women of the Japanese Imperial Army of the Pacific
War : broken silence

저 자 : David A. Schmidt

발행연도 : 2000년

발행처 : Lewiston, N.Y. : Edwin Mellen Press

쪽 수 : 218쪽

차례 :

Preface

Introduction

CHAPTER ONE

I. The Setting

II. Shadow & Light

CHAPTER TWO

I. The Issue

II. South Korea's call for an apology, 1990

CHAPTER THREE

I. The Japanese government is officially sued, December 1991

CHAPTER FOUR

I. The Japanese government admits a role in the ianfu issue in the face of overwhelming evidence, July 1992

CHAPTER FIVE

I. Japan's annexation of Korea, 1910–1945, and the road to war

II. Forced Labor

III. Implementation of the ianfu system

IV. Prostitutes and Prostitution in Japan before World War II

V. War and the Abuse of Women

VI. Conclusion

CHAPTER SIX

I. Today's Memories—Scars that Never Heal

II. Testimony of former ianfu

III. Testimony of former Imperial Army soldiers

IV. Testimony of former United States soldiers

CHAPTER SEVEN

I. Prospects for the Future

II. Conclusion

ENDNOTES

BIBLIOGRAPHY

INDEX

책 명 : The Guilt Of Nations : restitution and negotiating historical injustices

저 자 : Elazr Barkan

발행연도 : 2000년

발행처 : New York : W.W. Norton

쪽 수 : 414쪽

차 례 :

Preface

Introduction : Amending Historical Injustices in International Morality

PART I : RESIDUES OF WORLD WAR II

Chapter 1 : The Faustian Predicament : German Reparation to Jews
Chapter 2 : American Memory : Japanese Americans Remember the Camps
Chapter 3 : Sex Slaves : Comfort Women and Japanese Guilt
Chapter 4 : Plunder and Justice : Russian Victims and Glorious Museums
Chapter 5 : Nazi Gold and Swiss Solidarity : A New Mechanism for Rewriting Historical Crimes?
Chapter 6 : Restitution in East Central Europe : Deserving and Underserving Victims
PART II : COLONIALISM AND ITS AFTERMATH
Chapter 7 : "First Nations" Renaissance : Indigenous Groups and the Pluralistic Model
Chapter 8 : Native American Restitution : Land, Human Remains, and Sacred Objects
Chapter 9 : Hawaii : The Other Native Americans
Chapter 10 : Oceanic Models for Indigenous Groups : Australian Aborigines
Chapter 11 : Once Were Warriors : The Limits of Successful Restitution
Chapter 12 : Restitution for Slavery : Opportunity of Fantasy?
Conclusion : Toward a Theory of Restitution
Notes
Acknowledgments
Index

책 명 : Comfort Women Speak : Testimony by Sex Slaves of the Japanese
Military : Includes New United Nations Human Rights Report

편 자 : Sangmie Choi Schellstede(Editor), Soon Mi Yu(Editor, Photographer)

발행연도 : 2000년

발행처 : Holmes & Meier Publishers

쪽 수 : 154쪽

차례 :

Foreword

Editor's Note

Acknowledgments

Testimonies

Hwang Keum-ju

Jin Kyung-Paeng

Kang Duk-kyung

Kim Bun-sun

Kim Dae-il
Kim Sang-hi
Kim Soon-duk
Kim Yoon-shim
Kim Young-shil
Moon Ok-ju
Moon Pil-gi
Pak Du-ri
Pak Kyung-soon
Pak Ok-nyon
Son Pan-im
Yi Bok-nyo
Yi Yong-nyo
Yi Yong-sook
Ms. K.

책 명 : Legacies of the Comfort Women of World War II

편 자 : Margaret Stetz and Bonnie B.C. Oh

발행연도 : 2001년

발행처 : Armonk, New York : M. E. Sharpe

쪽 수 : 230쪽

차 례 :

Part I, Historical and Cultural Contexts

1. The Japanese Imperial System and the Korean "Comfort Women"
of World War II
Bonnie B. C. Oh
2. "Comfort Women" and the Cultural Tradition of Prostitution
in Japanese Erotic Art
Linda Gertner Zatlin
3. "Comfort Women" in the Dutch East Indies
Yuki Tanaka
4. Prostitutes versus Sex Slaves : The Politics of Representing
the "Comfort Women"

- Chunghee Sarah Soh
- Part II. Academic and Activist Responses
5. Wartime Sexual Violence against Women :
A Feminist Response
Margaret D. Stetz
 6. “Such an Unthinkable Thing” : Asian American
Transnational Feminism and the “Comfort Women’
of World War II” Conference
Pamela Thoma
 7. Urgent Matters : Redress for Surviving “Comfort Women”
Dongwoo Lee Hahm
 8. My Own Gaiatsu : A Document from 1945 Provides Proof
Grant K. Goodman
 9. Placing Japanese War Criminals on the U.S. Justice
Department’s “Watch List” of 3 December 1996 :
The Legal and Political Background
John Y Lee
- Part III. Artistic Responses
10. A Film within the Film : Making a Documentary
about Korean “Comfort Women”
Dai Sil Kim—Gibson
 11. Making In the Name of the Emperor
Christine Choy
 12. Tomiyama Taeko ‘sA Memory of the Sea
Margaret D. Stetz and Bonnie B. C. Oh,
with three illustrations of work by Tomiyama Taeko
 13. “Unsuspecting Souls” : Art Evokes History at
the Isabella Stewart Gardner Museum
Jill Medvedow,
with two illustrations of work by Mona Higuchi
 14. To Give a Voice
Therese Park
- Index

책 명 : Perilous memories : the Asia—Pacific War(s)

편 자 : T. Fujitani, Geoffrey M. White, and Lisa Yoneyama

발행연도 : 2001년

발행처 : Durham, N.C. : Duke University Press

쪽 수 : 462쪽

차례 :

Vii Acknowledgments

T. Fujitani, Geoffrey M. White, and Lisa Yoneyama

Introduction

1 : MEMORY FRAGMENTS, MEMORY IMAGES

Marita Sturken — Absent Images of Memory : Remembering and Reenacting the Japanese Internment

Daqing Yang — The Malleable and the contested : The Nanjing Massacre in Postwar China and Japan

Ishihara Masaie — Memories of War and Okinawa

Lamont Lindstrom — Images of Islanders in Pacific War Photographs

Morio Watanabe — Imagery and War in Japan : 1995

2 : POLITICS AND POETICS OF LIBERATION

Vincente M. Diaz — Deliberating “Liberation Day” : Identity, History, Memory, and War in Guam

Chen Yingzhen — Imperial Army Betrayed

Utsumi Aiko — Korean “Imperial Soldiers” : Remembering Colonialism and Crimes against Allied POWS

Diana Wong — Memory Suppression and Memory Production : The Japanese Occupation of Singapore

T. Fujitani — Go for Broke, the Movie : Japanese American Soldiers in U)S) National, Military, and Racial Discourses

Geoffrey M. White — Moving History : The Pearl Harbor Film(s)

ATONEMENT, HEALING, AND UNEXPECTED ALLIANCES

Arif Dirlik — “Trapped in History” on the Way to Utopia : East Asia’s “Great War” Fifty Years Later

Lisa Yoneyama — For Transformative Knowledge and Postnationalist Public Spheres : The Smithsonian

Enola Gay — Controversy

George Lipsitz – “Frantic to Join ... the Japanese Army” : Black Soldiers and Civilians
Confront the Asia Pacific War

Toyonaga Keisaburo – Colonialism and Atom Bombs : About Survivors of Hiroshima Living in
Korea

Chungmoo Choi – The Politics of War Memories toward Healing

Bibliography

Filmography

Index

Contributors

책 명 : Japan's Comfort Women : Sexual Slaver & Prostitution during World
War II & the US Occupation(Asia's Transformations)

저 자 : Yuki Tanaka

발행연도 : 2001년

발행처 : Routledge

쪽 수 : 244쪽

차례 :

List of figure and tables

List of plates

Foreword

Acknowledgments

Author's note

Introduction

1. The origins of the comfort women system

The initial establishment of comfort stations

A rapid increase in comfort stations after the “Rape of Nanjing”

The organizational structure of the comfort women system

Why comfort women?

2. Procurement of comfort women and their lives as sexual slaves

The colonization of Korea and the growth of the prostitution industry

Procurement of Korean and Taiwanese women

Procurement of women in China and the Philippines

- Life as a comfort woman
3. Comfort women in the Dutch East Indies
 - Japan's invasion of the Dutch East Indies and military violence against women
 - Exploitation of existing prostitutes by the Japanese troops
 - Procurement of Dutch women
 - Enforced prostitution at comfort stations in Semarang
 - The Dutch military authorities' indifference towards Indonesian comfort women
 4. Why did the US forces ignore the comfort women issue?
 - US military indifference towards comfort women
 - US military policies on the prevention of venereal disease in World War II
 - The Brumfield Report and military-controlled prostitution
 - Military prostitution in the Caribbean, Australia and elsewhere
 - Criticism, cover-up and a change in the War Department's attitude
 5. Sexual violence committed by the Allied occupation forces against Japanese women : 1945-1946
 - Sexual violence prior to the Allied occupation of Japan
 - Fear and confusion before the landing of the Allied occupation forces
 - Official reports on sexual violence committed by the occupation forces against Japanese women
 - Testimonies of victims of sexual violence committed by the occupation troops
 6. Japanese comfort women for the Allied occupation forces
 - The Japanese government creates a comfort women system for the occupation forces
 - The Recreation and Amusement Association
 - Occupation policies and the spread of prostitution
 - VD problems and the failure of GHQ's VD prevention policies
- Epilogue
- From karayuki-san to comfort woman
- Sexual slavery, social death, and military violence
- Imperialism, the patriarchal state, and the control of sexuality
- Notes
- Index

책 명 : Comfort Women
저 자 : Yoshiaki Yoshimi

역 자 : Suzanne O'Brien

발행연도 : 2002년

발 행 처 : Columbia University Press

쪽 수 : 240쪽

차 례 :

Translator's Introduction

Author's Introduction to the English Edition

The Emergence of the Issue

1. The Course and Conditions of the Establishment of the Military Comfort Station System :
From the First Shanghai Incident to the Start of All-Out War in China

2. Expansion Into Southeast Asia and the Pacific : The Period of the Asia Pacific War

3. How Were the Women Rounded Up? Comfort Women's Testimonies and Soldiers'
Recollections

4. The Lives Comfort Women Were Forced to Lead

5. Violations of International Law and War Crime Trials

6. Conditions After the Defeat

Conclusion

Epilogue

Notes

Bibliography

Index

책 명 : Nationalism and Gender

편 자 : Chizuko Ueno, Beverley Yamamoto

발행연도 : 2004년

발 행 처 : Trans Pacific Press

쪽 수 : 263쪽

차 례 : 미상

책 명 : Gender and human rights politics in Japan : global norms and

domestic networks

편 자 : Jennifer Chan-Tiberghien

발행연도 : 2004년

발행처 : Stanford, Calif. : Stanford University Press

쪽 수 : 220쪽

차례 :

Redefining gender and race in Japan : an introduction

Constructing Japanese state identity and interests

Global norms concerning women's, children's, and minority rights

Policy, institutional, and legal changes concerning women's and children's human rights in Japan

Grassroots mobilization : the pill, sexual harassment, military sexual slavery, domestic violence, and child prostitution

Human rights education in Japan

Japanese nongovernmental mobilization at the World Conference against Racism

Domestic mobilization of global human rights norms : issue reframing, advocacy education, and leverage politics

Conclusions : reconstructing Japanese political culture in the age of globalization

책 명 : Asian Labor in the Wartime Japanese Empire : Unknown Histories

편 자 : Paul H. Kratoska

발행연도 : 2005년

발행처 : Armonk, New York : M.E.Sharpe

쪽 수 : 433쪽

차례 :

List of Illustrative Materials

Acknowledgments

Introduction

Paul H. Kratoska

List of Abbreviations

Maps of Eastern Asia

Maps of Eastern Indonesian Archipelago

Part I. Japan

1. Labor Mobilization in Japan and the Japanese Empire

Paul H. Kratoska

Part II. Manchuria

2. Labor Policy and the Construction Industry in Manchukuo : Systems of Recruitment, Management, and Control

David Tucker

Part III. North China

3. Northern Chinese Laborers and Manchukuo

Ju Zhifen

Part IV. Korea

4. Japan's Korean Soldiers in the Pacific War

Utsumi Aiko

5. Korean Forced Labor in Japan's Wartime Empire

Naitou Hisako

Part V. Taiwan

6. Total War, Labor Drafts, and Colonial Administration : Wartime Mobilization in Taiwan, 1936-1945

Caroline Ts 'ai Hui-yu

Part VI. Indonesia

7. "Economic Soldiers" in Java : Indonesian Laborers Mobilized for Agricultural Projects

Shigeru Sato

8. The Construction of a Railway Line in West Java during the Japanese Occupation : The Road to Hell

Harry A. Poeze

9. The Heiho during the Japanese Occupation of Indonesia

Kaori Maekawa

10. Indonesian Romusha and Coolies under Naval Administration : The Eastern Archipelago, 1942-1945

Remco Raben

11. End of a Forgotten Drama : The Reception and Repatriation of Romusha after the Japanese Capitulation

Henk Hovinga

Part VII. Malaya

12. Labor in the Malay Peninsula and Singapore under Japanese Occupation

Paul H. Kratoska

13. Malayan Labor on the Thailand–Burma Railway

Nakahara Michiko

Part VIII, Philippines

14. Labor Usage and Mobilization during the Japanese Occupation of the Philippines, 1942–1945

Ricardo T. Jose

Part IX, Vietnam

15. Working for the Japanese : Working for Vietnamese Independence, 1941–1945

Tr?n M?–Vân

Part X, Memory and Reconciliation

16. The Origin and Development of Military Sexual Slavery in Imperial Japan

Chin–Sung Chung

17. History, Memory, Compensation, and Reconciliation : The Abuse of Labor along the Thailand–Burma Railway

E. Bruce Reynolds

Notes

About the Editor and Contributors

Index

책 명 : Rethinking historical injustice and reconciliation in northeast Asia : the Korean experience.

편 자 : Gi–Wook Shin, Soon–Won Park, and Daqing Yang

발행연도 : 2007년

발행처 : London ; New York : Routledge.

쪽 수 : 266쪽

차례 :

Part I, Coming to terms with the darker past in Korea

1. The Korean “comfort women” tragedy as structural violence / Chunghee Sarah Soh

2. The resignification of the “comfort women” through NGO trials / Hideko Mitsui

3. The politics of remembrance : the case of Korean forced laborers in the Second World War / Soon–won Park

4. The war against the “enemy within” : hidden massacres in the early stages of the Korean War / Dong—choon Kim
5. Justice incomplete : the remedies for the victims of Jeju April Third Incidents / Tae—Ung Baik
6. From Seoul to Saigon : Gook meets Charlie / Kyung—yoong Bay
Part II. Toward a Northeast Asian approach to historical injustice?
7. The aesthetic construction of ethnic nationalism : war memorial museums in Korea and Japan / Hong Kal
8. Difficult neighbors : Japan and North Korea / Gavan McCormack
9. Dynamics of denial : responses to past atrocities in Germany, Turkey, and Japan / John Torpey
10. Pop culture, public memory, and Korean—Japanese relations / Chiho Sawada
11. A strong state, weak civil society and Cold War geopolitics : why Japan lags behind Europe in confronting a negative past / Andrew Horvat
12. Economic integration and reconciliation in Northeast Asia : possibilities and limitations / Wonhyuk Lim.

책 명 : Gender violence : interdisciplinary perspectives

편 자 : Laura L. O’Toole, Jessica R. Schiffman, and Margie L. Kiter Edwards

발행연도 : 2007년

발 행 처 : New York : New York University Pres

쪽 수 : 529쪽

차 례 :

Part I : Roots of Male Violence and victimization of Women

SECTION 1 : THE ROOTS OF MALE VIOLENCE AGAINST WOMEN

Suggestions for Further Reading

“Visit from the Footbinder” / Sarah Corham

1. The origin of the family, private property, and the state / Friedrich Engels
2. The construction of masculinity and the triad of men’s violence / Michael Kaufman
3. The socio—cultural context of rape : a cross—cultural study / Peggy Reeves Sanday

SECTION 2 : GENDER VIOLENCE IN THE UNITED STATES

Suggestions for Further Reading

“Need : a chorale for Black woman voices” / Audre Lorde

4. Sexual coercion in American life / Edwin Schur

Contextualizing men's violence : the personal meets the political / Michael Kimmel

Sexual terrorism / Carole J. Sheffield

Part II : Forms of Sexual Coercion and Violence

SECTION 1 : SEXUAL HARASSMENT

Suggestions for Further Reading

"Anatomy lesson" / Cherríe Moraga

Obscene and Threatening Telephone Calls to Women : Data from a Canadian National Survey

/ Michael D. Smith and Norman N. Morra

Dames at Sea : Life in the Naval Academy / Carol Burke

Changed women and changed organizations : consequences of and coping with sexual

harassment / Barbara A. Gutek and Mary P. Koss

The Victimization of Women / Kathryn Quina

SECTION 2 : RAPE

Suggestions for Further Reading

"The rape" / Jeanne Murray Walker

A Feminist Redefinition of Rape and Sexual Assault : Historical Foundation and Change /

Patricia L. N. Donat and John D'emilio

Undeclared war : African-American women writers explicating rape / Opal Palmer Adisa

Raped : A Male Survivor Breaks His Silence / Fred Pelka

Subcultural theory of rape revisited / Laura L. O'Toole

The Global Health Burden of Rape / Mary P. Koss, Lori Heise, and Nancy Felipe Russo

SECTION 3 : BATTERING IN INTIMATE RELATIONSHIP

Suggestions for Further Reading

"To Judge Faolain, Dead Long Enough : A Summons" / Linda MacCarriston

Nothing New under the Sun : Spouse Abuse in Colonial America / Larry D. Eldridge

Violence against Women / R. Emerson Dobash and Russel P. Dobash

Violence in intimate relationships : a feminist perspective / Bell hooks

Violence, gender, and elder abuse : toward a feminist analysis and practice / Terri Whittaker

SECTION 4 : CHILDREN AND GENDER VIOLENCE

Suggestions for Further Reading

"The second photograph" / Margaret Randall

Family violence, feminism, and social control / Linda Gordon

Who stole incest? / Louise Armstrong

Child sexual abuse and the regulation of women : variations on a theme / Carol-Ann Hooper

Definition and Scope of the Problem / Peter Jaffe, David Wolfe, and Susan Kaye Wilson

Part III : Social Problems—Social Change

SECTION 1 : PORNOGRAPHY AND VIOLENCE : A CONTESTED SOCIAL PROBLEM

Suggestions for Further Reading

“Philadelphia story : September 1987” / Kathleen O’Toole

The Female Nude : Pornography, Art, and Sexuality / Lynda Nead

Conflicting Ideologies and the Politics of Pornography / Charles E. Cottle, Patricia Searles, Ronald I. Berger, and Beth Ann Pierce

Pornography and Black women’s bodies / Patricia Hill Collins

Pornography, civil rights, and speech / Catharine MacKinnon

Pornography and Violence : What the “Experts” Really Say / Lynne Segal

SECTION 2 : CHANGING OUR MINDS : TOWARD NONVIOLENCE IN GENDER RELATIONS

Suggestions for Further Reading

Beyond the masculine mystique / Myriam Miedzian

Violence, Gender, and Social Change / Christine Alder

Violence against Women or Family Violence? Current Debates and Future Directions / Demie Kurz

Pornography and the alienation of male sexuality / Harry Brod

The Reality of Linguistic Violence against Women / William C. Gay

Action / Elizabeth Ward

Bibliography

Index

책 명 : The Comfort Women : Sexual Violence and Postcolonial Memory in
Korea and Japan

저 자 : Sarah Soh

발행연도 : 2009년

발행처 : University of Chicago Press

쪽 수 : 304쪽

차 례 : 없음

책 명 : “Comfort Women” : Military sexual slavery by Japan

편 자 : Federation of Korean Trade Unions

발행연도 : 미상

발 행 처 : Seoul : Federation of Korean Trade Unions

쪽 수 : 49쪽

차 례 :

Report on Military Sexual Slavery by Japan, submitted by the Federation of Korean Trade Unions

The Reality of survivors and Activities of the Korean Council for the Women Drafted for Military Sexual Slavery by Japan

New Report of the Korea Herald on Sex Slave Issue

2. 논 문

논 문 명 : Women and War in Japan, 1937-45

저 자 : Thomas R. H. Havens

게 재 지 : The American Historical Review, Vol. 80, No. 4

발행연도 : 1975년

발 행 처 : American Historical Association

쪽 수 : 913~934쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : The World's Oldest Debate? Prostitution and the State in Imperial Japan, 1900-1945

저 자 : Sheldon Garon

게 재 지 : The American Historical Review, Vol. 98 No. 3

발행연도 : 1993년

발 행 처 : American Historical Association

쪽 수 : 710~732쪽

차 례 : 없음

논문명 : “Comfort women” from Korea : Japan’s World War II sex slaves
and the legitimacy of their claims for reparations

저 자 : Yvonne Park Hso

게재지 : Pacific Rim Law & Policy Journal

발행연도 : 1993년

발행처 : Pacific Rim Law & Policy Journal

쪽 수 : 97~130쪽

차 례 :

INTRODUCTION

I. BACKGROUND

A. Evidence of Comfort Women

B. Issue of Coercion

C. Japan’s Attitude Concerning Reparations

D. Meaning of the Treaty with Japan

1. Assessment of Post-World War II Settlement Agreements Between Japan and the Allied Powers

2. Comparison of Japan’s Settlement Agreements With Its Formerly Occupied Territories

E. Human Rights Under the Meiji Constitution

F. International Principles Respecting Human Rights

1. Pre-World War II Human Rights Principles

2. Post-World War II Codifications of Pre-existing Human Rights Principles

3. Principles of State Responsibility

II. DUTY TO MAKE REPARATIONS

A. Legal Obligations

1. State Responsibility for Reparations

2. Continuing Duty

3. Decisions of International Courts

B. Moral Obligations

C. Grounds for Denial of Redress

III. MEANS OF REDRESS

A. Apology

1. Disclosure of the Complete Truth
2. Textbook Revision

B. Compensation

IV. CONCLUSION

논문명 : Militarism, Colonialism, and the Trafficking of Women : “Comfort Women” Forced into Sexual Labor for Japanese Soldiers

저자 : Watanabe Kazuko

게재지 : Bulletin of Concerned Asian Scholars, Vol. 26

발행연도 : 1994년

발행처 : Cambridge, Mass. : Bulletin of Concerned Asian Scholars

쪽수 : 3~17쪽

차례 :

Disclosures by Comfort Women

History of Comfort Women

Comfort Women and the Trafficking of Women

Japanese Government Response to the Comfort Women Issue

Comfort Women as a Feminist Issue and Action

Protest against a Condom Manufacturer

Conclusion

Some of the Many Organizations That Have Dealt with or Are Dealing with “Comfort Women” and Related Issues

A Call for Action

논문명 : The Transformation of Sexual Work in 20th—Century Korea

저자 : John Lie

게재지 : Gender and Society, Vol. 9 No. 3

발행연도 : 1995년

발행처 : Sage Publications, Inc

쪽 수 : 310~327쪽

차 례 :

AGRARIAN PATRIARCHY AND THE TRADITIONAL KISAENG

THE COLONIAL PERIOD : 1910-45

THE LIBERATION AND U.S. MILITARY BASE PROSTITUTION : 1945-70

THE RISE OF THE SEX TOUR INDUSTRY : THE 1970s

DIVERSIFICATION OF THE SEX INDUSTRY : THE 1980s

SEXUAL WORK IN SOUTH KOREA, c. 1990

논문명 : Trafficking in Women's Bodies, Then and Now : The Issue of
Military 'Comfort Women'

저 자 : Kazuko Watanabe

게재지 : Peace and Change, Vol. 20 Issue 4

발행연도 : 1995년

발행처 : California State College

쪽 수 : 501~514쪽

차 례 : 없음

논문명 : Women's voice, Women's Pain

저 자 : Ustina Dolgopol

게재지 : Human Rights Quarterly, Vol. 17 Issue 1

발행연도 : 1995년

발행처 : Johns Hopkins University Press

쪽 수 : 127~155쪽

차 례 :

I. INTRODUCTION

II. THE HISTORICAL CONTEXT

III. THE COMFORT STATIONS

- A. Government Responsibility
 - B. Organization of the Comfort Stations
 - C. The Aftermath
- IV. THE HIDDEN PAIN
- A. Philippines
 - 1. Julia Porras, age 64
 - B. Republic of Korea
 - 1. Kim Pok Sun
 - C. Democratic People's Republic of Korea
 - 1. Ri Po Pu
- V. THE CLOSE OF THE WAR AND THE KNOWLEDGE OF THE ALLIES.

논문명 : The Korean "Comfort Women" : Movement for Redress

저자 : Chunghee Sarah Soh

게재지 : Asian Survey, Vol. 36 No. 12

발행연도 : 1996년

발행처 : University of California Press.

쪽수 : 1226~1240쪽

차례 :

Chŏngsindae, the "Voluntary" Labor Service Corps

Sexual Culture and the Political Economy of Sex

The Chŏngsindae Movement

Feminist Political Activism for Redress

From a Bilateral Compensation Dispute to an International Human Rights Issue Conclusion

논문명 : Nations Examine Their Past : A Comparative Analysis of the
Historiography of the "Long" Second World War

저자 : R. J. B. Bosworth

게재지 : The History Teacher, Vol. 29 No. 4

발행연도 : 1996년

발행처 : Society for the History of Education

쪽 수 : 499~523쪽

차 례 : 없음

논문명 : Popular Culture as Political Protest : Writing the Reality of Sexual Slavery

저 자 : Caroline M. Berndt

게재지 : Journal of Popular Culture; Fall97, Vol. 31 Issue 2

발행연도 : 1997년

발행처 : Popular Press

쪽 수 : 177~187쪽

차 례 :

The Discovery of the "Comfort Women" Story

A Manga for "Comfort Women"

논문명 : The origin and development of the military sexual slavery problem in imperial Japan

저 자 : Chin Sung Chung

게재지 : Positions, Vol. 5 No. 1

발행연도 : 1997년

발행처 : Duke University Press

쪽 수 : 219~253쪽

차 례 :

Introduction

Some Facts behind the Problem of Military Sexual Slavery

1. The Problem of Terminology
2. The Formation and Development of Military Sexual Slavery Policy

A PROTOTYPE OF A MILITARY BROTHEL, 1905-1937

THE ESTABLISHMENT OF ASYSTEMATIC POLICY BY THE JAPANESE GOVERNMENT, 1937

THE ROLE OF OTHER ORGANIZATIONS IN THE JAPANESE AND COLONIAL GOVERNMENTS

3. Characteristics of Military Brothels, Their Establishment, and Management

CHARACTERISTICS AND TYPES OF MILITARY BROTHELS

EVOLUTION OF BROTHEL ESTABLISHMENT AND MANAGEMENT

4. Military Sex Slaves and Their Mobilization

5. Regulations and Practices of Military Brothels

6. The Army's Postwar Treatment of Women and Women's Lives Back Home

The Sociohistorical Background of the Establishment of the Military Brothel and the Mobilization of Colonized Women

Fifty Years of Silence

The Emergence of Military Sex Slavery and the Ensuing Social Movement

1. Disclosure of the Problem and a Social Movement

2. Monetary Compensation for Victims and Seeking Justice

3. Internationalization of the Movement

The Korean Government's Responses and Public Opinion

Japanese Government Responses and Public Opinion

1. The Japanese Government

2. Public Opinion in Japan

Conclusion

논문명 : They Are Our Grandmas

저자 : Dai Sil Kim-Gibson

게재지 : Positions, Vol. 5 No. 1

발행연도 : 1997년

발행처 : Duke University Press

쪽수 : 255 ~ 284쪽

차례 : 없음

논문명 : The Licensed Prostitution System and the Prostitution Abolition Movement in Modern Japan

저 자 : Fujime Yuki
게 재 지 : Positions, Vol. 5 No. 1
발행연도 : 1997년
발 행 처 : Duke University Press
쪽 수 : 135~170쪽
차 례 :

Introduction

The Licensed Prostitution System in Modern Japan

1. The Modern Reorganization of the Licensed Prostitution System
2. The Licensed Prostitution System and the Collapse of the People's Rights Movement
3. The Licensed Prostitution System and the Sino- and Russo- Japanese Wars

The Prostitution Abolition Movement in Modern Japan

The Case of the Abolition of Prostitution in Gumma Prefecture

The Prostitution Abolition Movement and Women in the "Shameful Occupation"

Japanese Aggression in Asia and the Prostitution Abolition Movement

Conclusion

논 문 명 : World War II Scholarship, Now and in the Future

저 자 : Gerhard L. Weinberg

게 재 지 : The Journal of Military History, Vol. 61 No. 2

발행연도 : 1997년

발 행 처 : Society for Military History

쪽 수 : 335~345쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : Revisiting the issue of Korean "Military Comfort Women" : The
Question of Truth and Positionality

저 자 : Hyunah Yang

게 재 지 : Positions Vol. 5 No. 1

발행연도 : 1997년

발행처 : Duke University Press

쪽 수 : 51~71쪽

차례 :

Objective Truth and Marginalization of the Women

The Pursuit of the Truth and Japanese Hegemony

Which Truth, Whose Truth? A Case of Genocidal Rape

Toward an Articulation of the Korean Women's Positionalities

논문명 : History and Memory : The "Comfort Women" Controversy

저자 : Hyu Sook Kim

게재지 : Positions Vol. 5 No. 1

발행연도 : 1997년

발행처 : Duke University Press

쪽 수 : 73~106쪽

차례 :

Introduction

The Production of History Writing and Memory

The Selective Absence of "Comfort Women" in Japanese Official History

The Marginality of "Comfort Women" in the Official History of South Korea

Countermemory : Testimonials of Women Survivors of Military Sexual Slavery

논문명 : Chinese Americans Remember World War II

저자 : Jon Wiener

게재지 : Radical History Review; Winter 97 Issue 67

발행연도 : 1997년

발행처 : Duke University Press

쪽 수 : 123~128쪽

차례 : 없음

논문명 : From Comfort Woman

저자 : Keller, Nora Okja

게재지 : Grand Street, Spring97, Vol. 15 Issue 4

발행연도 : 1997년

발행처 : GRAND STREET PRESS

쪽수 : 178~199쪽

차례 : 없음

논문명 : The Fifty-second Session of the UN Commission on Human Rights

저자 : Michael J. Dennis

게재지 : The American Journal of International Law, Vol. 91 No. 1

발행연도 : 1997년

발행처 : American Society of International Law

쪽수 : 167~177쪽

차례 :

INTRODUCTION

EXPANSION OF COMMISSION'S FOCUS

Women

Terrorism

HUMAN RIGHTS STANDARD SETTING – VULNERABLE GROUPS

Indigenous Issues

Defenders

THEMATIC HUMAN RIGHTS MACHINERY

ECONOMIC, SOCIAL AND CULTURAL RIGHTS

Toxic Waste

Debt

Force Evictions

Other Resolutions

Country – Specific Resolutions

Advisory Services

Confidential Procedure
Statements of the Chairman
SELECTIVITY
China No – Action Motion
Israel
COMMISSION REFORM
Specific Proposals
Restructuring the Agenda
Consensus
CONCLUSION

논문명 : War and Apology : Japan, Asia, the Fiftieth, and After

저자 : Norma Field

게재지 : Positions, Vol. 5 No. 1

발행연도 : 1997년

발행처 : Duke University Press

쪽수 : 1~49쪽

차례 :

Post / Prelude

In this Beginnings : 15 August 1993

Apology in the Lives of Individuals and Nations

Lexicon

Buried in the Agenda : Japanese Reflections on Responsibility for the War

Victims and Martyrs, Peace and Prosperity

The Military Comfort Women

Apology As Speech Act, Testimony, and Truth

Uneven Development in the Remembrance of Atrocities : Toward a Commitment to Concrete
Memory and Abstract Justice

논문명 : Military Rape

저 자 : Roland Littlewood

게 재 지 : Anthropology Today, Vol. 13 No. 2

발행연도 : 1997년

발 행 처 : Royal Anthropological Institute of Great Britain and Ireland

쪽 수 : 7~16쪽

차 례 :

Introductory

Militarism

Making and remaking boundaries on women's bodies

Why sexual violence? Biosocial and situational arguments

Men in a group

Genes, territory and resources

Conclusion

논 문 명 : Japanese Reparations Policies and the "Comfort Women" Question

저 자 : Won Soon Park

게 재 지 : Positions Vol. 5 No. 1

발행연도 : 1997년

발 행 처 : Duke University Press

쪽 수 : 107~136쪽

차 례 :

Introduction

The Concept and Categories of Reparation

The Development of Postwar Reparations Policies in Japan

Collective Reparation

Individual Compensation

Other Measures of Reparation

Admission of Wrongdoing and Apology

Disclosure of the Truth and Educating the Next Generation

Punishment As Reparation : The Tokyo Trials and Problematic Justice

Historical Background Limiting the Boundaries of Reparation

Allied Indifference and U.S. Hegemony in the Cold War Period
Asian Conceptions of Human Rights and the Reparations Issue
Japanese Responses to the Inactive Reparations Claims
The Flood of Civil Litigation for Reparations
The Last Resort : Appeal to the International Community and Its Response
Conclusion

논문명 : Han-Laden Women : Korean “Comfort Women” and Women in Judges
19–21

저자 : Yani Yoo

게재지 : Semeia No. 78

발행연도 : 1997년

발행처 : Society of Biblical Literature

쪽수 : 37~46쪽

차례 :

I. INTRODUCTION

II. CONFLUENCE OF “COMFORT WOMEN” AND WOMEN IN JUDGES 19–21

A. Korean “Comfort Women” : Historical Overview

B. *Women in Judges 19–21*

C. Han : A Hermeneutical Clue

III. CONCLUSION : TOWARD THE RESOLUTION OF HAN

논문명 : Japanese Colonial Rule and State—Managed Prostitution : Korea’s
Licensed Prostitutes

저자 : Youn-ok Song, Melissa Wender

게재지 : Positions, Vol. 5 No. 1

발행연도 : 1997년

발행처 : Duke University Press

쪽수 : 171~218쪽

차 례 :

Introduction

Laws and Policies of the Licensed Prostitution System

Laying the Ground for the General Introduction of the Licensed Prostitution System : 1905
-1916

The Establishment and Maintenance of the Licensed Prostitution System : After 1916

Other Regulations : Go-Betweens Linking Women with Business Operators
Operators of Prostitution Houses

Critique of the Licensed Prostitution System

Prostitutes' Struggles

The Movement to Abolish Prostitution

Contemporary Criticism of the Licensed Prostitution System

Changes in the Licensed Prostitution System and the Expansion of State-Managed Prostitution

Conclusion

논문명 : Japanese comfort women in southeast Asia

저 자 : Hayashi Hirofumi

게 재 지 : Japan Forum, Vol. 10 Issue 2

발행연도 : 1998년

발 행 처 : Oxford University Press for the British Association for Japanese
Studies

쪽 수 : 211~219쪽

차 례 :

Introduction

Comfort women in Southeast Asia

Comfort women and the system of prostitution

Conclusion

논문명 : Historians and Public Memory in Japan : The "Comfort Women"
Controversy

저 자 : Jordan Sand

게 재 지 : History & Memory; Fall / Winter 99, Vol. 11 Issue 2

발행연도 : 1999년

발 행 처 : History & Memory

쪽 수 : 116~128쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : South Korean Movements against Militarized Sexual Labor

저 자 : Katharine H. S. Moon

게 재 지 : Asian Survey, 39~2

발행연도 : 1999년

발 행 처 : University of California Press

쪽 수 : 310~327쪽

차 례 :

The Chongsindae Movement and the Kijich'on Movement

Differences in Ideology, Leadership, and Organization

Contemporary Developments in Civil Society

Conclusion

논 문 명 : Trafficking in Women's Bodies, Then and Now : The Issue of
Military 'Comfort Women'

저 자 : Kazuko Watanabe

게 재 지 : Women's Studies Quarterly, Vol. 27 Issue 1 / 2

발행연도 : 1999년

발 행 처 : Women's Studies Quarterly

쪽 수 : 19~31쪽

차 례 : 없음

논문명 : Savage Irony : The Imaginative Power of the 'Military Comfort Women'
in the 1990s

저자 : Laura Hein

게재지 : Gender & History, Vol. 11 Issue2

발행연도 : 1999년

발행처 : B. Blackwell

쪽수 : 336~372쪽

차례 : 없음

논문명 : The Politics of Memory : Nation, Individual and Self

저자 : Ueno Chizuko

게재지 : History & Memory; Fall / Winter 99, Vol. 11 Issue 2

발행연도 : 1999년

발행처 : Indiana University Press

쪽수 : 129~152쪽

차례 :

JAPAN'S "HISTORICAL REVISIONISTS"

BEYOND POSITIVIST HISTORY

THE CHALLENGE OF THE COMFORT WOMEN ISSUE

FEMINISM AND ORAL TESTIMONY

MULTIVALENT REALITY

OVERCOMING THE NATION—STATE

논문명 : For the Sake of the Nation For the Sake of Women : The Pragmatism
of Japanese Feminisms in the Asia—Pacific War(1931—1945)

저자 : Beth Sara Katzoff

게재지 : 미상

발행연도 : 2000년

발행처 : Columbia University

쪽 수 : 311쪽

차례 :

CHAPTER ONE : Interrogating Japanese Feminisms During the Asia— Pacific War

I. Terminology : Feminism by Any Other Name?

Prewar Japanese Feminism?

Leading Wartime Feminists

Writing Histories of Feminism

Women's and / or Feminist Movements

II. Circulating Feminisms : Writing and Reading Wartime Feminisms

Reading Wartime Women's Writings : Restrictions and Financial Possibilities

The Risks of Resistance

CHAPTER TWO : The Pragmatics of Japanese Feminisms

I. The Manchurian Incident—1931

II. Period of Crisis(Hijoji)—1932—1937

Suffrage Setback

III. The China War—1937—1945

Being a Woman, Being Japanese—Being a Japanese Woman

Women's War Work

Population Policy and Motherhood Protection

IV. The Pacific War—1941—1945

CHAPTER THREE : "We are Japanese Women" : Nationalism, Feminism, and the Dai Nihon

Fujinkai

I. Competition Among Existing Women's Groups

II. National Among Existing Women's Groups

III. The New Order Movement

IV. Arguments for Integration by Feminists and Women's Organizations

V. Formation and Organization of Nippu

VI. Reform Through Participation : Feminists as National Policy Committee Mebers

CHAPTER FOUR : Neighborhood as Nation : Feminists' Discourse on the Tonarigumi

I. About the Tonarigumi

II. Feminists' Recommendations to Reform the Tonarigumi

Women as Tonarigumi Leaders

Monthly Meetings Segregated by Gender

Tonarigumi as Alternatives to Women's Associations

III. Feminists Envision the Tonarigumi

Housewives as Pillars of the Tonarigumi

Public Service Through the Tonarigumi

Tonarigumi and the Community(Kyodotai)

CHAPTER FIVE : The Wartime Roots of Postwar Japanese Feminisms

I. Political Reform During the Occupation and Beyond : Suffrage, Political Participation, and formal Equality

II. Postwar Women's organizations and their Wartime Roots

III. Pacifism, Motherhood, and Postwar Feminism

IV. Reconciling the Past : The Jugun ianfu Issu

V. Military Sexual Slavery as a Feminist Issue

VI. The Internationalization of Japanese Feminisms : Choosing Women Over the Nation

WORKS CITED

논문명 : Human Rights and the "Comfort Women"

저자 : Chunghee Sarah Soh

게재지 : Peace Review, Vol. 12 Issue 1

발행연도 : 2000년

발행처 : Carfax Publishing Company

쪽수 : 123~129쪽

차례 : 없음

논문명 : From imperial gifts to sex slaves : theorizing symbolic representations of the 'comfort women'

저자 : C. Sarah Soh

게재지 : Social Science Japan Journal, Vol. 3, No. 1

발행연도 : 2000년

발행처 : Oxford University Press

쪽수 : 59~76쪽

차례 :

1. The Nature of the Comfort System
2. The Discourse Politics of Representing 'Comfort Women'
Ianfu and other Official Terms in Japanese
Chongsindae
3. Multiple Ideologies and Partial Representations
Patriarchal Fascism and the Provision of Imperial 'Gifts'
Masculinist Sexism and Consumption of the 'Pi'
Feminist Humanitarianism and Redress for Military Sex Slaves
Conclusion

논문명 : Cultural Autobiography, Testimonial, and Asian American
Transnational Feminist Coalition in the "Comfort Women of World
War II" Conference

저자 : Pamela Thoma

게재지 : Frontiers : A Journal of Women Studies, Vol. 21 Issue 1 / 2

발행연도 : 2000년

발행처 : University of Nebraska Press

쪽수 : 29~54쪽

차례 : 없음

논문명 : Comforting The Nation : 'Comfort Women,' the Politics of Apology
and the Workings of Gender

저자 : You-Me Park

게재지 : Interventions : The International Journal of Postcolonial Studies,
Vol. 2 Issue 2

발행연도 : 2000년

발행처 : Routledge

쪽수 : 199~211쪽

차례 : 없음

논문명 : Contemporary Forms of Slavery

저자 : Suzanne Miers

게재지 : Canadian Journal of African Studies / Revue Canadienne des Études
Africaines, Vol. 34 No. 3

발행연도 : 2000년

발행처 : Canadian Association of African Studies

쪽수 : 714~747쪽

차례 :

Introduction

Stretching the Meaning of Slavery

Sudan : The Re-birth of Chattel Slavery?

Vestiges of Chattel Slavery : The Case of Mauritania

Debt Bondage

Forced Prostitution and Sexual Slavery

Child Slavery

Forced or Compulsory Labor

Forced and Servile Marriage

Cult of Ritual Slavery

Conclusion

논문명 : 'WE CAME TO TELL THE TRUTH' : Reflections on the Tokyo
Women's Tribunal

저자 : Alexis Dudden

게재지 : Critical Asian Studies; Dec 2001, Vol. 33 Issue 4

발행연도 : 2001년

발행처 : Routledge

쪽수 : 591~602쪽

차례 :

Judging the Living

Judging the Dead

논문명 : Women's International Tribunal on Japanese Military Sexual Slavery

저자 : Christine M. Chinkin

게재지 : The American Journal of International Law, Vol. 95 No. 2

발행연도 : 2001년

발행처 : American Society of International Law

쪽수 : 335~341쪽

차례 : 없음

논문명 : The Politics of Palestinian Textbooks

저자 : Fouad Moughrabi

게재지 : Journal of Palestine Studies, Vol. 31 No. 1

발행연도 : 2001년

발행처 : University of California Press on behalf of the Institute for
Palestine Studies

쪽수 : 5~19쪽

차례 :

THE NEW PALESTINIAN TEXTBOOKS

FRAMING THE ISSUE

EXAMINING THE TEXTS

Delegitimizing Israel

Anti-Semitic Book?

AN ALTERNATE FRAMING

CONCLUSION

논문명 : Subject to Debate—Cold Comfort

저자 : Katha Pollitt

게재지 : The Nation, Vol. 272 Issue 23

발행연도 : 2001년

발행처 : New York : Nation Co

쪽 수 : 10쪽

차 례 : 없음

논문명 : Comfort Women—Shifting shame and stigma from victims to victimizers

저 자 : Kelly D. Askin

게재지 : International Criminal Law Review, Vol. 1 Issue1/2

발행연도 : 2001년

발행처 : Brill Academic Publishers

쪽 수 : 5~32쪽

차 례 :

Rape and sexual slavery

The sexual slavery regime established by Japan during World War II

Stories of survivors

The survivors are again victims—The war nears an end

The survivors endure additional injustice—After the war ends

Fifty years later—The former Yugoslavia and Rwanda

Conclusion

논문명 : A New Forum for Comfort Women : Fighting Japan in United States Federal Court

저 자 : Maki Arakawa

게재지 : Berkeley Women's Law Journal, Vol. 16

발행연도 : 2001년

발행처 : University of California, Boalt Hall School of Law

쪽 수 : 174~200쪽

차 례 :

I. INTRODUCTION

II. BACKGROUND

A. The Japanese Comfort Women System During WWII

B. The Japanese Government's Response to the Comfort Women Issue

III. SUBSTANTIVE LEGAL LIABILITY OF THE JAPANESE GOVERNMENT

A. Sources of Prevailing International Law

B. Right to Individual Compensation Under International Law

C. Effect of Post-War Treaties on Individual Claims

D. Statute of Limitations

IV. JURISDICTIONAL REQUIREMENTS FOR SUING JAPAN IN UNITED STATES COURT :
ALIEN TORTS CLAIM ACT AND FOREIGN SOVEREIGN IMMUNITIES ACT

V. CONCLUSION

논문명 : “Comfort Women” In Malaysia

저자 : Nakahara Michiko

게재지 : Critical Asian Studies, Vol. 33 Issue 4

발행연도 : 2001년

발행처 : Routledge

쪽수 : 581 ~ 589쪽

차례 :

Establishment of Military “Comfort Stations”

Surviving Women in Malaysia

MCA's Investigation

논문명 : Seeking Justice for “Comfort” Women : Without an International
Criminal Court, Suits Brought by World War II Sex Slaves of the
Japanese Army May Find Their Best Hope of Success in U.S
Federal Courts

저자 : Susan Jenkins Vanderweert

게 재 지 : North Carolina Journal of International Law and Commercial Regulation,
Vol. 27

발행연도 : 2001년

발 행 처 : North Carolina International Law and Commercial Regulation Association

쪽 수 : 141 ~ 183쪽

차 례 :

I. Introduction

II. Background

- A. Implementation of the Ianfu System
- B. Why No Suits Were Filed Until the 1990s
- C. Official Japanese Responses
- D. Responses from International Organizations

III. Analysis

- A. Results to Date in Japanese Courts
- B. Reactions to Date in International Forums
 - 1. U.N. Finds That Japan's Military Sex Slave Activities Violated International Law
 - 2. Impact of the ICTY's and ICTR's Recent Holdings on Wartime Rape as a Violation of International Law
 - 3. Effect of Installation of the ICC
- C. Results to Date in U.S. Courts

IV. Conclusion

논 문 명 : WOMEN'S INTERNATIONAL WAR CRIMES TRIBUNAL ON JAPAN'S
MILITARY SEXUAL SLAVERY : MEMORY, IDENTITY, AND SOCIETY

저 자 : Yayori Matsui

게 재 지 : East Asia : An International Quarterly; Winter 2001, Vol. 19 Issue 4

발행연도 : 2001년

발 행 처 : East Asia : An International Quarterly

쪽 수 : 119 ~ 142쪽

차 례 :

Structure and Composition of the Tribunal

Survivors' Voices

Criminal Responsibility of the Emperor and State Responsibility

To End the Impunity of Wartime Sexual Violence

The Challenge to Japan, the International Community, and the Women's Movement

References

논문명 : From Shanghai to Globocourt : An Analysis of the 'Comfort Women's' Defeat in Hwang v. Japan

저자 : Christopher P. Meade

게재지 : Vanderbilt Journal of Transnational Law, Vol. 35 Issue 1

발행연도 : 2002년

발행처 : Vanderbilt University, School of Law

쪽수 : 211 ~ 289쪽

차례 :

ABSTRACT

I. INTRODUCTION : A PICTURE SPEAKS A THOUSAND WORDS

II. "UNHAPPY EVENTS"

A. Historical Background

B. Prewar : Japanese Treaties and Customary International Law

C. Japanese Post-War Treaties

D. The "Comfort Women" in Japanese Courts

III. GERMAN RESPONSIBILITY AND JAPANESE DENIAL

A. The German Response to the Holocaust

B. The U.S. Approach Towards Japanese Slave Labor Claims

IV. HOPE AND HEARTBREAK : DOMESTIC LEGAL DOCTRINES AND PRE-DECISION DISPOSITION

A. Applicable Legal Doctrines

1. The Cause of Action : The Alien Tort Claims Act,

2. The Japanese Defense : The Foreign Sovereign Immunities Act,

B. The Motion for Declaratory Judgment

C. Procedural Developments

V. ANALYSIS OF HWANG v. JAPAN

- A. No Decision on the Retroactive Application of the Foreign Sovereign Immunities Act
- B. The Exceptions to the Foreign Sovereign Immunities Act Are Not Implicated
 - 1. Explicit Waiver
 - 2. Implied Waiver
 - 3. Commercial Activity
 - 4. The Case Raises Non—Justiciable Political Questions

VI. DISCUSSION : “COMFORT WOMEN” AND GLOBOCOURT

- A. The Big Picture : Using Courts to Achieve Political Results
- B. The U.S. Approach in Hwang v. Japan in consistent with Past Practice
- C. “Plaintiff’s Diplomacy”
- D. Globocourt?

VII. CONCLUSION

논 문 명 : Prolonged Silence and Comfort Women

저 자 : Roman Mohita

계 재 지 : 미상

발행연도 : 2002년

발 행 처 : The Graduate School Yonsei University Department of Korean Studies

쪽 수 : 83쪽

차 례 :

Chapter One. Introduction

Purpose and Scope of Research

Literature Review

Division of Chapters

Chapter Two. A Historical Overview for the Comfort Women Issue

Prostitution in Japan before Expansion

Invasion of Manchuria and Rape of Nanking

Mobilization : Recruitment and Coercion

Coercive Environment

Government Involvement

Life in the Comfort Stations

Abandonment

Chapter Three. Why the Issue did not Surface
Collaboration
Geo-Politics, Industrialization and Economic Interdependence
Chapter Four. Emergence of Issue and Governments' Position
The Jungshindae Movement
The Korean Government's Response
The Japanese Government's Position
Chapter Five. Conclusion.

논문명 : A Study of First-Person Narrative in Comfort woman : From a
Perspective of Women's Speaking and Writing

저 자 : So-Hee Lee

게재지 : 영미문학페미니즘(Feminist Studies in English Literature) 제10권 2호

발행연도 : 2002년

발행처 : 한국영미문학페미니즘학회

쪽 수 : 163~188쪽

차 례 : 없음

논문명 : Virtual Memories : Japanese History Debates in Manga and
Cyberspace.

저 자 : Tessa Morris-Suzuki, Peter Rimmer

게재지 : Asian Studies Review; Jun 2002, Vol. 26 Issue 2

발행연도 : 2002년

발행처 : Asian Studies Association of Australia

쪽 수 : 147~164쪽

차 례 :

HISTORY DEBATES IN CONTEMPORARY JAPAN

MANGA

HISTORY DEBATES ON THE INTERNET

The Comfort Women Issue

The Nanjing Massacre

THE MEDIUM AND THE MEMORY : REFLECTIONS ON THE DEBATES
REFERENCES

논문명 : Nonapplicability of FSIA Exceptions to “Comfort Women” Case

저자 : 학회 편집부

게재지 : The American Journal of International Law, Vol. 97 No. 3

발행연도 : 2003년

발행처 : American Society of International Law

쪽수 : 686~688쪽

차례 : 없음

논문명 : Representing History in Amy Tan’s “The Kitchen God’s Wife”

저자 : Bella Adams

게재지 : MELUS, Vol. 28 No. 2

발행연도 : 2003년

발행처 : The Society for the Study of the Multi-Ethnic Literature of the
United States (MELUS)

쪽수 : 9~30쪽

차례 : 없음

논문명 : Japan’s National / Asian Women’s Fund for “Comfort Women”

저자 : C. Sarah Soh

게재지 : Pacific Affairs, Vol. 76 Issue 2

발행연도 : 2003년

발행처 : University of British Columbia

쪽 수 : 209~234쪽

차 례 :

Historical Background

Some Contentious Issues

From Postcolonial Disputes to a Transnational Human Rights Movement

Japanese Public Discourse and Actions

The National / Asian Women's Fund

The Birth of a National Public Organization("NPO")

Organizational Structure of the Fund and Its Internal Tension

Semantic Politics of Apology

Divergent Responses to the Fund

Conclusion

논문명 : Sexual Slavery and the "Comfort Women" of World War II

저 자 : Carmen M. Argibay

게재지 : Berkeley Journal of International Law, Vol. 21 Issue 2

발행연도 : 2003년

발행처 : University of California Press

쪽 수 : 389쪽

차 례 :

I. INTRODUCTION

II. HISTORICAL BACKGROUND

III. JAPANESE GOALS

IV. THE "RECRUITMENT"

V. SLAVERY

A. Freedom

B. The International Prohibition of Slavery before World War II

C. Developments in International Slavery Law after World War II

D. Determining When Slavery Occurs

1. Chattel Slavery

2. Forced Labor

3. The 1926 Slavery Convention

- 4. Kunarac
- 5. The Special Rapporteur to the UN Commission on Human Rights
- E. Sexual Slavery
- VI. INDICIA OF SEXUAL SLAVERY IN THE “COMFORT SYSTEM”
- VII. CONCLUSION

논문명 : An Emerging Transnational Movement in Women’s Human Rights :
Campaign of Nongovernmental Organizations on “Comfort Women”
Issue in East Asia

저 자 : Chih-Chieh Chou

게재지 : Journal of Economic & Social Research, Vol. 5 Issue 1

발행연도 : 2003년

발행처 : Department of Economics at Faith University

쪽 수 : 153~181쪽

차례 :

- 1. Introduction
- 2. Research Framework
- 3. Historical Background of “Comfort Women” Issue
Comfort Women System During & After World War II
A Concealed Issue
- 4. The Role of Non-Governmental Organisation
Formation of Korean Council
Effective Activities Led by the Korean Council
Activities against the Japanese Government
 - (1) Fact-finding
 - (2) Apology
 - (3) Reparation
 - (4) Punishment
 - (5) Lawsuit
- International Movement
 - (1) Activities in the United Nations
 - (2) World Conference on Human Rights in Vienna

(3) Solidarity with Asian Women

5. Japanese Response

Denial

From Admission to Apology

Investigation Report

Asian Women's Fund

Unwilling Apology and Compensation

6. Position of United Nations

UN Commission Report

Resolution of the Fourth World Women Conference in Beijing

7. An Emerging Transnational Movement

8. Conclusion

논문명 : Freeing the 'Slaves of Destiny' : The Lolas of the Filipino Comfort
Women Movement

저자 : Katharina R. Mendoza

게재지 : Cultural Dynamics, Vol. 15 Issue 3

발행연도 : 2003년

발행처 : Sage Publications (London)

쪽수 : 247 ~ 266쪽

차례 :

The 'Girl Army' : Institutionalizing 'Comfort'

'Slaves of Destiny' : The Lolas of the Filipino Comfort Women Movement

Impossible Apologies?

Comforting the Present

논문명 : Korean "Comfort Women" : The Intersection of Colonial Power,
Gender, and Class

저자 : Pyong Gap Min

게재지 : Gender and Society, Vol. 17 No. 6

발행연도 : 2003년

발행처 : Sage Publications, Inc

쪽 수 : 938~957쪽

차례 :

HISTORICAL AND CONTEMPORARY BACKGROUND

DATA SOURCES

COLONIAL POWER

GENDER HIERARCHY

SOCIAL CLASS

CONCLUSION

논문명 : THE SHAME OF HWANG V. JAPAN : HOW THE INTERNATIONAL
COMMUNITY HAS FAILED ASIA'S "COMFORT WOMEN"

저자 : Afreen R. Ahmed

게재지 : Texas Journal of Woman & the Law, Vol. 14 Issue 1

발행연도 : 2004년

발행처 : University of Texas at Austin, School of Law Publications

쪽 수 : 121~149쪽

차례 :

I. Introduction 121

II. Background : From the Battlefield to the Courtroom

The "Comfort System" in World War II

After the War

Not Yet Forgotten

Why a Resolution is Needed

III. Post-War Inaction : No Excuses

An Open Secret

Clear Violations of Customary International Law

IV. Despite the Law : Race, Gender, and Politics

Political Trials : "For the Sake of All"?

European Lives Worth More Than Asian Ones?

- Traditional Neglect of Women and Gender Crimes in War
- V. Hwang V. Japan : More of the Same?
- A. The Claim, the Defenses, and the Statement of Interest
- B. The District Court's Opinion : Politics and Sexism
- C. The Court of Appeals
- VI. Later Developments in International Law
- VII. Conclusion

논문명 : ASPIRING TO CRAFT MODERN GENDERED SELVES : “Comfort Women” and Chyngsindae in Late Colonial Korea

저자 : C. Sarah Soh

게재지 : Critical Asian Studies, Vol. 36 Issue 2

발행연도 : 2004년

발행처 : Routledge

쪽수 : 175~198쪽

차례 :

“Comfort Women” as Chyngsindae : Myth and Reality

Gender, Class, and Labor in Late Colonial Korea

Testimonial Narratives of Han

A Runaway Daughter Aspiring to Craft a Modern Educated Self

Conclusion

논문명 : Women's Sexual Labor and State in Korean History

저자 : Chunghee Sarah Soh

게재지 : Journal of Women's History : Winter 2004, Vol. 15 Issue 4

발행연도 : 2004년

발행처 : Indiana University Press

쪽수 : 170~177쪽

차례 :

Institution of Kisaeng / Kinyo

Licensed Prostitution

The South Korean Military Comfort System

Prostitution in South Korea

논문명 : China's history Activists and the War of Resistance against Japan :
History in the Making

저자 : James Reilly

게재지 : Asian Survey, Vol. 44 No. 2

발행연도 : 2004년

발행처 : University of California Press

쪽수 : 276~294쪽

차례 :

Abstract

Background : Party Priorities and Historical Obstructionism

Chinese Textbooks and Japanese Atrocities

The Emergence of History Activism

A Three-Part Explanation : The Government, Society, and History Activists

Three Academic Perspectives on Japan

Academic Liberties and Political Entrepreneurs

Institution Building

Private Individuals

Private Individuals Collaborating with History Activists

Using Existing Institutions to Build New Ones

Horizontal Support among History Institutions

Public Outreach and Education

Activism Abroad : Joining NGO Networks to Demand Change

Implications : A New Kind of Social Movement in China

논문명 : Princess Pari in Nora Okja Keller's Comfort Woman

저자 : Kun Jong Lee

게재지 : positions, Vol. 12 Issue 2

발행연도 : 2004년

발행처 : Duke University Press

쪽 수 : 431 ~ 456쪽

차례 :

Princess Pari a la Keller

Princess Pari and Comfort Women

Princess Pari in Hawaii

논문명 : Prisoners of the Japanese and the Politics of Apology : A Battle
over History and Memory

저자 : Michael Cunningham

게재지 : Journal of Contemporary History, Vol. 39 No. 4, Special Issue :
Collective Memory

발행연도 : 2004년

발행처 : Sage Publications, Ltd

쪽 수 : 561 ~ 574쪽

차례 : 없음

논문명 : Federal district court in District of Columbia dismisses actions by
Korean "Comfort women" against Japan on grounds of sovereign
immunity : An article from : International Law Update[HTML](Digital)

저자 : 미상

발행연도 : 2005년

발행처 : Transnational Law Associates

쪽 수 : 4쪽

차례 : 없음

논문명 : Teaching “comfort women” issues in women’s studies courses.(military sex slaves) : An article from : Radical Teacher [HTML] (Digital)

저자 : Margaret D. Stetz

발행연도 : 2005년

발행처 : Center for Critical Education

쪽수 : 15쪽

차례 : 없음

논문명 : Emergence of the “Comfort Women” Issue and the Victims’ Breaking Silence in South Korea

저자 : Pyong Gap Min

게재지 : Conference Papers – American Sociological Association, 2005 Annual Meeting, Philadelphia

발행연도 : 2005년

발행처 : American Sociological Association

쪽수 : 1~21쪽

차례 :

Data Sources

HISTORICAL EVENTS THAT CONTRIBUTED TO THE EMERGENCE OF THE COMFORT WOMEN ISSUE

Korea Church Women United Fought against Sex Tourism

Women’s Organizations Fought against Sexual Interrogations of College Women by the Police

THE BEGINNING OF THE REDRESS MOVEMENT

Yun Chung Ok Began Research on the “Comfort Women”

Korean Church Women United Took Up the “Comfort Women” Issue

The Impetus for the Chongshindae Movement

논문명 : Victims or Victimizers? Museums, Textbooks, and the War Debate in Contemporary Japan

저 자 : Roger B. Jeans

게 재 지 : The Journal of Military History, Vol. 69 No. 1

발행연도 : 2005년

발 행 처 : Society for Military History

쪽 수 : 149~195쪽

차 례 :

Abstract

“War” Museums

Yasukuni Shrine War Museum (Yushukan)

Showa Hall (Showa-kan)

The Chiran Peace Museum for Kamikaze Pilots

“Peace Museums”

Hiroshima Peace Memorial Museum

Nagasaki Atomic Bomb Museum

Osaka International Peace Center (Kokusai heiwa Sentaa)

Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University

The Struggle over Textbooks in Present-day Japan

The society for the Creation of New History Textbooks

The 2001 Textbook Struggle

Conclusions

논 문 명 : Narrating the Right to Sexual Well-being and the Global
Management of Misery : Maria Rosa Henson's Comfort Woman and
Charlene Smith's Proud of Me

저 자 : Sidonie Smith

게 재 지 : Literature & Medicine, Vol. 24 Issue 2

발행연도 : 2005년

발 행 처 : State University of New York Press

쪽 수 : 153~180쪽

차 례 :

Case Study One : Narrating Sexual Servitude

Case Study Two : South Africa and the Narrative of Rape
Conclusion

논문명 : In / fertility among Korea's "comfort women" survivors : A comparative perspective

저자 : C. Sarah Soh

게재지 : Women's Studies International Forum, Jan. 2006, Vol. 29 Issue 1

발행연도 : 2006년

발행처 : Elsevier Science

쪽수 : 67~80쪽

차례 :

Synopsis

Imperial Japan's military comfort system

Women's han in Korean society

In / fertility in postwar marital life

Marital status

In / fertility rate

Causality for in / fertility after sexual slavery

Individual narratives of han

Kim Hak-sun, a married fertile survivor

Yun Tu-ri, an unmarried childless survivor

Conclusion

Acknowledgements

References

논문명 : Variation in Sexual Violence during War

저자 : Elisabeth Jean Wood

게재지 : Politics & Society Vol. 34 No. 3

발행연도 : 2006년

발행처 : SAGE

쪽 수 : 307~342쪽

차 례 :

VARIATIONS IN WARTIME SEXUAL VIOLENCE : SELECTED CASES

World War II

Bosnia—Herzegovina

Sri Lanka

Israel / Palestine

Sierra Leone

U.S. Troops in Vietnam

El Salvador

Peru

Summary of Observed Patterns

CHALLENGES TO DOCUMENTING WARTIME SEXUAL VIOLENCE

EXPLAINING VARIATION IN WARTIME SEXUAL VIOLENCE

Opportunity

Incentive

Sexual Violence as Instrumental for the Group

Sanctions against Sexual Violence

CONCLUSION

논문명 : Remembering the Forgotten : Nora Okja Keller's Comfort Woman
and Chang—rae Lee's A Gesture Life

저 자 : Joo Hyun Park

게재지 : 미상

발행연도 : 2006년

발행처 : The Graduate School Yonsei University Department of English

쪽 수 : 79쪽

차 례 :

Introduction

Counter—Discourse : Writing between the Lines of 'History'

History of the Survivor : Nora Okja Keller's Comfort Woman

Narrative of a Victim(izer) : Chang—rae Lee's A Gesture Life

Conclusion

논문명 : Redressing Past Human Rights Violations : Global Dimensions of Contemporary Social Movements

저자 : Kiyoteru Tsutsui

게재지 : Social Forces; Sep 2006, Vol. 85 Issue 1

발행연도 : 2006년

발행처 : 미상

쪽수 : 331~354쪽

차례 :

Global Dimensions of Contemporary Social Movements

Global Political Opportunity Structures

International Dimensions of Resources and Networks for Mobilization

Framing Processes at the Global Level

Global Human Rights Norms and the World Polity

The International Context of the Comfort Women Movement

Historical Background

Global Political Opportunities for the Movement

International Networks and Resources for the Movement

The Rise of Global Framing in the Movement

Changes in Domestic Politics in Korea and Japan

Conclusion

References

논문명 : Reporting the 'Comfort Women' Issue, 1991-1992 : Japan's contested war memories in the national press

저자 : Philip Seaton

게재지 : Japanese Studies, Vol. 26 Issue 1

발행연도 : 2006년

발행처 : Routledge

쪽 수 : 99~112쪽

차 례 :

Introduction : The 'Comfort Women' Issue and Japanese War Memories

Newspapers in Japanese Society

Introduction to the Two Newspaper Surveys

The Emergence of the 'Comfort Women' Issue, December

1991–February 1992

Japanese Public Reaction : Letters to the Editor

Publication of the First 'Comfort Women' Report

Conclusions

논문명 : The Transnational Campaign for Redress for Wartime Rape by the
Japanese Military : Cases for Survivors in Shanxi Province

저 자 : Yuki Terazawa

게재지 : NWSA Journal (Project Muse), Vol. 18, No. 3

발행연도 : 2006년

발행처 : Indiana Univ., Bloomington

쪽 수 : 133~145쪽

차 례 :

The Japanese Occupation and Sexual Violence in Shanxi

The Formation of a Transnational Redress Movement

A Former Japanese Soldier's Testimony

Conclusion

논문명 : Imagined Sovereignty : The 1990–2006 Movement for Redress for
the 1930–1945 Imperial Japanese Military's 'Comfort Women'
Prostitution System

저 자 : Leeann Townsend

게재지 : Conference Papers—International Studies Association

발행연도 : 2007년

발행처 : International Studies Association
쪽 수 : 1~29쪽
차 례 : 없음

논문명 : From Charity to Justice : The Case of the “Comfort women” Revisited
저 자 : Mari Ishibashi
게재지 : Conference Papers—International Studies Association
발행연도 : 2007년
발행처 : International Studies Association
쪽 수 : 1~33쪽
차 례 : 없음

논문명 : Depoliticizing Comfort Women
저 자 : Masahiro Matsumura
게재지 : Far Eastern Economic Review, Vol. 170 Issue 7
발행연도 : 2007년
발행처 : Far Eastern Economic Review Publishing Co. Ltd., etc
쪽 수 : 32~36쪽
차 례 :
Orthodoxy and Heterodoxy
The Struggle of the Modern Japanese Citizen
Global Implications
Patching the U.S.—Japan Schism

논문명 : Writing Rape, Trauma, and Transnationality onto the Female Body :
Matrilineal Em—body—ment in Nora Okja Keller’s Comfort Woman
저 자 : Sivia Schultermantl

게 재 지 : Meridians : Feminism, Race, Transnationalism; Apr. 2007, Vol. 7 Issue 2

발행연도 : 2007년

발 행 처 : Indiana University Press

쪽 수 : 71~100쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : The politics of national atonement and narrations of war

저 자 : Hideko Mitsui

게 재 지 : Inter-Asia Cultural Studies; Mar. 2008, Vol. 9 Issue 1

발행연도 : 2008년

발 행 처 : Taylor & Francis Ltd.

쪽 수 : 47~61쪽

차 례 :

'When the Japanese came' : a Filipina survivor's story

Aftermaths : fifty years in silence

The AWF's narration of the 'comfort women' issue

Invisible soldiers

Redrawing trajectories

Moral Japan versus pitiful women

Justice versus atonement : bringing the soldiers back in

The re-signification of the gift

In place of a conclusion

논 문 명 : Finding the "Map of Memory" : Testimony of the Japanese Military
Sexual Slavery Survivors

저 자 : Yang Hyunah

게 재 지 : positions; Spring2008, Vol. 16 Issue 1

발행연도 : 2008년

발 행 처 : Duke University Press

쪽 수 : 79~107쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : Politics of Memory in Korea and China : Remembering the
Comfort Women and the Nanjing Massacre

저 자 : Jungmin Seo

게 재 지 : New Political Science; Sep. 2008, Vol. 30 Issue 3

발행연도 : 2008년

발 행 처 : CAUCUS FOR A NEW POLITICAL SCIENCE

쪽 수 : 369~392쪽

차 례 :

Introduction

Democratization, Feminist Movement and the Memories of Comfort Women in South Korea

Conclusion

논 문 명 : Nishimatsu Construction Co.v. Song Jixiao et al.; Ko Hanako et
al.v. Japan : Japanese Supreme Court decisions on private claims
against Japan and its nationals for wartime acts of forced labor
and sexual slavery

저 자 : M. A. Levin

게 재 지 : The American journal of internal law

발행연도 : 2008년

발 행 처 : American Society of International Law

쪽 수 : 148~154쪽

차 례 : 없음

논 문 명 : Politics of collective memory : Nationalism, history textbooks, and

“Comfort women” in East Asia

저 자 : Sangjoon Lee

발행연도 : 2008년

발 행 처 : Harvard University

쪽 수 : 186쪽

차 례 : 없음

3. 기 타

자 료 명 : review : Senso Daughters, by Noriko Sekiguchi(서평)

저 자 : John W. Dower

게 재 지 : The journal of Asian Studies, Vol. 51 No. 3

발행연도 : 1992년

발 행 처 : Association for Asian Studies

쪽 수 : 723~724쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Japan Admitted the Comfort Women Program to Koreans(기사)

저 자 : S. Yen Lee

게 재 지 : Chinese American Forum, Vol. 7 Issue 4

발행연도 : 1992년

발 행 처 : Chinese American Forum Inc

쪽 수 : 23쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Japan : Women representatives demand compensation for ‘comfort women’(기사)

저 자 : 미상
계 재 지 : Women's International Network News, Vol. 18 Issue 2
발행연도 : 1992년
발 행 처 : Women's International Network
쪽 수 : 65쪽
차 례 : 없음

자 료 명 : “Comfort women” and the Asian Problem(기사)
저 자 : Hsienli Tan
계 재 지 : Chinese American Forum, Vol. 9 Issue 1
발행연도 : 1993년
발 행 처 : Chinese American Forum Inc
쪽 수 : 7~8쪽
차 례 : 없음

자 료 명 : “Your Comfort Vs. My Death” : A Korean Woman's Reflection on
Military Sexual Slavery by Japan(회의록)
편 자 : Chung Hyun Kyung
계 재 지 : Voices From The Third World, Vol. 18 No. 1
발행연도 : 1994년
발 행 처 : Association of Third World Theologians
쪽 수 : 192~210쪽
차 례 : 없음

자 료 명 : Why The Issue Of Military Sexual Slavery By Japan Has Remained
Unresolved For 50 Years?(토론회 자료집)
편 자 : The Korean Council for the Women Drafted for Military Sexual

Slavery by Japan

게재지 : The first East Asian women's forum

발행연도 : 1994년

발행처 : 서울 : The Korean Council for the Women Drafted for Military
Sexual Slavery by Japan

쪽 수 : 154쪽

차례 :

Acknowledgements / Yun, Chung—Ok

Program of the Forum

Poem “Pay It Back Now” / Ok—Nyo Lee

Country Report I—Why we oppose “sympathy money”?

- A Korean(South) Survivor : Soon Duk Kim
- A Filipino Survivor : Julia Porras
- Japan : Itsuko Ishikawa
- Korea Resident in Japan : Youngji Yang
- Korea(North) : Sun Ok Hong
- Korea(South) : Kyung Hee Kim
- Filippinse : Nelia Sancho
- Taiwan : Yu Fang Shiau

Testimony of the former comfort woman in Malayasia / Mazul Yayori(Japan)

Country Report II—“What are the Strategies for Resolving the Problem?”

- Korea(North) : Keum Chun Choi
- Philippines : Nelia Sancho
- Korean resident in Japan : Yong Hee Kim
- Japan : Tsuburaya Kyouko
- Korea(South) : Eun Hee Chi

Report on our Activities at the Un Human Rights

Sub— Commission : Hel Soo Shin[Korea(South)]

Final Discussions and adoption of the resolution

The Statement of The 3rd Asian Woman's Forum

Pictures Taken at the Conference

Appendix

- The Statement of the Signature to Oppose Japan Vecoming
- A Permanent Member of The UN Security Council

- The Military Sexual Slavery Issue and Asian Peace, Presented at The First East Asian Forum : Hee Soon Kwon[Korea(South)]

자 료 명 : Review : The Comfort Women : Japan's Brutal Regime of Enforced Prostitution in the Second World War by George Hicks(서평)

저 자 : Joan Beaumont

게 재 지 : The Journal of Military History, Vol. 60 No. 2

발행연도 : 1996년

발 행 처 : Society for Military History

쪽 수 : 388 ~ 389쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Review : The Comfort Women : Japan's Brutal Regime of Enforced Prostitution in the Second World War by George Hicks(서평)

저 자 : Katharine H. S. Moon

게 재 지 : Contemporary Sociology, Vol. 25 No. 5

발행연도 : 1996년

발 행 처 : American Sociological Association,

쪽 수 : 630 ~ 631쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Washington Coalition for Comfort Women Issues(기사)

저 자 : Fran P. Hosken

게 재 지 : Women's International Network News, Vol. 23 Issue 2

발행연도 : 1997년

발 행 처 : Women's International Network

쪽 수 : 79쪽

차 례 : 없음

자료명 : Remembering the comfort women(사진)

저 자 : Jay Mallin

게재지 : Photo District News, Vol. 17 Issue 9

발행연도 : 1997년

발행처 : Photo District News

쪽 수 : 55~58쪽

차 례 : 없음

자료명 : review : [untitled] (Eight Prison Camps : A Dutch Family in Japanese Java by Dieuwke Wendelaar Bonga)(서평)

저 자 : Jean Gelman Taylor

게재지 : The Journal of Asian Studies, Vol. 56 No. 4

발행연도 : 1997년

발행처 : The Journal of Asian Studies

쪽 수 : 1151~1153쪽

차 례 : 없음

자료명 : review(The Japanese War Time Empire, 1931~1945)(서평)

저 자 : Prasenjit Duara

게재지 : The American Historical Review, 102-5

발행연도 : 1997년

발행처 : American Historical Association

쪽 수 : 1553~1554쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Review : The Comfort Women : Japan's Brutal Regime of Enforced Prostitution in the Second World War by George Hicks(서평)

저 자 : Richard H. Mitchell

게 재 지 : The American Historical Review, Vol. 102 No. 2

발행연도 : 1997년

발 행 처 : American Historical Association

쪽 수 : 503쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : [review] Uncovering the truth about the 'comfort women.' (The Comfort Women : Japan's Brutal Regime of Enforced Prostitution in the Second World War ; True Stories of the Korean Comfort Women ; 50 Years of Silence 에 대한 서평)(서평)

저 자 : Chunghee Sarah Soh

게 재 지 : Women's Studies International Forum, Vol. 21 Issue 4

발행연도 : 1998년

발 행 처 : Elsevier Science

쪽 수 : 451~454쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Review : The Comfort women : colonialism, war and sex. Special issue of positions : East Asia cultures critique 5 : 1(서평)

저 자 : Mary N. Layoun

게 재 지 : The Journal of Asian Studies, Vol. 57 No. 3

발행연도 : 1998년

발행처 : Association for Asian Studies

쪽 수 : 872~874쪽

차례 : 없음

자료명 : review : [untitled](Hidden Horrors : Japanese War Time Crimes in World War II)(서평)

저자 : Sheldon H. Harries

게재지 : The American Historical Review 103-2

발행연도 : 1998년

발행처 : American Historical Association

쪽 수 : 570~571쪽

차례 : 없음

자료명 : Japan : Mock trial for soldiers who used 'comfort women'(기사)

저자 : 편집부

게재지 : Off Our Backs, Vol. 29 Issue 9

발행연도 : 1999년

발행처 : Off Our Backs

쪽 수 : 3쪽

차례 : 없음

자료명 : [video review] Centering the Korean 'Comfort Women' Survivors
(영상물리뷰)

저자 : C. Sarah Soh

게재지 : Critical Asian Studies; Dec2001, Vol. 33 Issue 4

발행연도 : 2001년

발행처 : ROUTLEDGE TAYLOR FRANCIS GROUP

쪽 수 : 603~608쪽

차 례 : 없음

자료명 : [Review]Comfort Women Speak : Testimony by sex slaves of the
Japanese Military(서평)

저 자 : Dongwoo Lee Hahm

게재지 : Women's International Network News, Vol. 27 Issue1

발행연도 : 2001년

발행처 : Women's International Network

쪽 수 : 53쪽

차 례 : 없음

자료명 : Japan : international tribunal declares guilt in 'Comfort women'
rapes(기사)

저 자 : Gale Group

게재지 : Off Our Backs, Vol. 31 Issue1

발행연도 : 2001년

발행처 : Off Our Backs

쪽 수 : 3쪽

차 례 : 없음

자료명 : Japan's 'Comfort Women'(기사)

저 자 : Helen Durham, Bebe Loff

게재지 : Lancet, Vol. 357 Issue 9252

발행연도 : 2001년
발행처 : Lancet Ltd
쪽 수 : 302~302쪽
차례 : 없음

자료명 : [Review] Legacies of the Comfort Women of World War II(서평)
저자 : UNESCO 한국위원회
게재지 : Korea Journal, Vol. 41 Issue 3
발행연도 : 2001년
발행처 : Seoul, Korea : Korean National Commission for UNESCO
쪽 수 : 286~287쪽
차례 : 없음

자료명 : [Review] No Comfort For the Women, (Comfort Women : Sexual Slavery in the Japanese Military During World War II)(서평)
저자 : Velisarios Kattoulas
게재지 : Far Eastern Economic Review, Vol. 164 Issue 10
발행연도 : 2001년
발행처 : Far Eastern Economic Review Publishing Co. Ltd., etc
쪽 수 : 72~73쪽
차례 : 없음

자료명 : Reviewed work : Comfort Women Speak : Testimony by Sex Slaves of the Japanese Military by Sangmie Choi Schellstede(서평)
저자 : Vipin Chandra
게재지 : Pacific Affairs, Vol. 74 No. 3
발행연도 : 2001년

발행처 : Pacific Affairs, University of British Columbia

쪽 수 : 433~436쪽

차 례 : 없음

자료명 : State department attempts to halt 'comfort women' lawsuit(기사)

저 자 : 미상

게재지 : Contemporary Sexuality, Vol. 35 Issue 6

발행연도 : 2001년

발행처 : American Association of Sex Educators, Counselors & Therapists

쪽 수 : 8쪽

차 례 : 없음

자료명 : review[untitled](Guilt of Nations : Restitution and Negotiating Historical Injustices)(서평)

저 자 : Audrey Thomas McCluskey

게재지 : The American Historical Review, Vol. 107 No. 2

발행연도 : 2002년

발행처 : American Historical Association

쪽 수 : 507~509쪽

차 례 : 없음

자료명 : Review[untitled](Japanese Devils by Matsui Mionoru; Oguri Ken'ichi)
(영화평)

저 자 : Bob Tadashi Wakabayashi

게재지 : Journal of Japanese Studies 28-2

발행연도 : 2002년

발행처 : The Society for Japanese Studies

쪽 수 : 430~435쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : review[untitled](Perilous Memories : The Asian—Pacific War(s))(서평)

저 자 : Jeffery C. Livingston

게 재 지 : The Journal of American History, 89—3

발행연도 : 2002년

발 행 처 : Organization of American Historians

쪽 수 : 1112~1112쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : [Review] Legacies of the Comfort Women of World War II(서평)

저 자 : Keith Howard

게 재 지 : China Quarterly, Issue 170

발행연도 : 2002년

발 행 처 : London, etc. : London University, etc

쪽 수 : 497~499쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : [Review] Japan's Comfort Women : Sexual Slavery and Prostitution
during World War II and the U.S. occupation(서평)

저 자 : Raymond Lamont-Brown

게 재 지 : Contemporary Review, Vol. 281 Issue 1640

발행연도 : 2002년

발 행 처 : Contemporary Review Company Ltd

쪽 수 : 180~181쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : [Review] Yuki Tanaka, Japan's Comfort Women : Sexual Slavery
and Prostitution during World War II and the U.S. occupation
(서평)

저 자 : Joy Damousi

게 재 지 : American Historical Review, Vol. 108 Issue 4

발행연도 : 2003년

발 행 처 : American Historical Association

쪽 수 : 1122~1123쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : [Review] Japan's Comfort Women : Sexual Slavery and Prostitution
during World War II and the US Occupation(서평)

저 자 : Liew Kai Khiun

게 재 지 : Armed Forces & Society, Vol. 29 Issue 2

발행연도 : 2003년

발 행 처 : Transaction Publishers, Inc

쪽 수 : 309~312쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Military Comfort Women : Doing Justice to the Past(서평)

저 자 : Mellisa Wender

게 재 지 : Critical Asian Studies, Vol. 35 Issue 1

발행연도 : 2003년

발 행 처 : Routledge

쪽 수 : 139~146쪽

차 례 :

Crafting a Cultural Autobiography

Ideologies : Nation, Military, Race, and Masculinity

자 료 명 : Cries of the Korean Comfort Women : The vivid Testimony of a
Korean teenaged Girl during World War II(증언집)

저 자 : Samuel Kimm

게 재 지 : 미상

발행연도 : 2003년

발 행 처 : Philadelphia, PA : Xlibris

쪽 수 : 420쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : review[untitled](Sharing the Blame : Subhas Chandra Bose and The
Japanese Occupation of the Andamans, 1942-45 by T. R. Sareen)
(서평)

저 자 : Shigeru Sato

게 재 지 : The Journal of Asian Studies, Vol. 62 No. 2

발행연도 : 2003년

발 행 처 : Association for Asian Studies

쪽 수 : 571~572쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Nora Okja Keller and the Silenced Woman : An Interview(인터뷰)

저 자 : Young-Oak Lee and Nora Okja Keller

게 재 지 : MELUS, 28~4

발행연도 : 2003년

발 행 처 : Society for the Study of the Multi-Ethnic Literature of the United

States

쪽 수 : 145 ~ 165쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Yoshimi, Comfort Women : Sexual Slavery in the Japanese Military during World War II; Tanaka, Japan's Comfort Women : Sexual Slavery and Prostitution during World War II and the US Occupation (서평)

저 자 : G. K Goodman

게 재 지 : The Journal of Japanese studies Vol. 30 No. 1

발행연도 : 2004년

발 행 처 : The Journal of Japanese Studies

쪽 수 : 183 ~ 185쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : Japan : Comfort women demand justice(기사)

저 자 : Gale Group

게 재 지 : Off Our Backs, Vol. 36 Issue 4

발행연도 : 2006년

발 행 처 : Off Our Backs

쪽 수 : 3쪽

차 례 : 없음

자 료 명 : [Review] Comfort Women : sexual slavery in the Japanese military during world war II(서평)

저 자 : Sabine Fruhstuck

게 재 지 : Feminist Review, Issue 82

발행연도 : 2006년

발행처 : Palgrave Macmillan Limited

쪽 수 : 137~138쪽

차례 : 없음

자료명 : Commentary on Hughes, Chon, and Ellerman(서평)

저자 : Sea Ling Cheng

게재지 : Violence Against Women; Vol. 14 No. 3

발행연도 : 2008년

발행처 : SAGE

쪽 수 : 359~363쪽

차례 : 없음



동북아역사재단
NORTH EAST ASIAN HISTORY FOUNDATION

(가)

賈冀川 651

가와모토 리에코 115

角田由紀子 523

강가람 207

江文君 651

江美芬 509

江上幸子 608

江先光 282

康宣美 117

江城 660

姜英心 213

강용권 60, 62

姜維久 594, 595, 614

강정숙 136, 147, 157, 169, 185, 198, 208

姜春子 344

강호 54

강호(江浩) 558

개번 매클랙(Gavan McCormack) 131

京都 おしえてください! 『慰安婦』情報電話報告
集編集委員會 317

經盛鴻 525, 609, 614, 615, 637, 642, 652,
677

高宏高宏 525, 527

高橋哲哉 419, 519

高崎隆治 318

高嶋伸欣 378

고려대 민족문화연구원 227

고려대학교 민족문화연구원 한국사연구소
231, 232

高木健一 36, 291

高凡夫 640, 643

- 高士振 661
- 고스기 가쓰지 55
- 高萍萍 632
- 고혜정 110, 157
- 戈叔亞 674
- 郭迺亮 655
- 郭德宏 648
- 郭永虎 678
- 關口典子 286
- 管爾東 637
- 管寧 591
- 廣田和子 267
- 喬林生 638
- 喬治 569
- 久保井規夫 375
- 歐陽烈丹 622
- 구재진 213
- 白杵敬子 295
- 邱震海 653
- 鞠九江 653, 687
- 鞠克光 665
- 鞠修生 665
- 국무총리실 소속 일제강점하강제동원피해진상
규명위원회 260
- 國際公聽會實行委員會 320
- 國際法律家委員會(ICJ) 345
- 國際人權研究會 321
- 鞠超英 665
- 宮本謙介 435
- 宮前初子 323
- 根本理惠 428
- 琴秉洞 295, 460
- 기독살림여성회 98
- 吉見義明 29, 296, 346, 347, 377, 378, 492,
495, 496, 503, 506, 525, 535, 539, 550,
605, 638
- 吉田清治 14, 26, 269, 283
- 吉川春子 535
- 吉村眞理子 515
- 김당 177
- 金大商 132
- 김도형 178
- 김명혜 186
- 김문길 158, 169, 199
- 金文淑 297
- 김미정 174
- 김백일 148
- 金富子 344, 381, 417, 470
- 김선님 112
- 김철아 178
- 金昭英 14
- 김수아 148
- 金淳鎬 29
- 金榮 540, 675
- 金英達 298
- 金英姬 152, 170, 366, 439, 536
- 김용수 39
- 김원영 34
- 김윤옥 158
- 김은실 159
- 金一勉 270
- 김정란 186, 208
- 김정성 105
- 金鍾煥 224
- 김주영 189
- 金知榮 309
- 金鎭烈 568, 671
- 金昌秀 226
- 金薰子 344

(ㄹ)

나눔의 집 역사관 후원회 84
 남경희 209
 内田知行 451
 内海愛子 419
 니시무라 아야코 115

(ㄷ)

다물 편집부 29
 多田さやこ 17, 55, 280, 436
 다카하시 데즈야 149
 段廷志 653
 當代雜誌編輯部 649
 大内裕和 514
 大島孝一 366
 大漠 688
 大森典子 510, 545
 大沼保昭 394, 461, 465
 大越愛子 150, 425, 510, 519, 536
 渡辺美奈 546
 渡辺洋美 413
 渡辺春己 378
 渡部良三 336
 도진순 150
 도츄카 에츠로(戸塚悦郎) 64, 188
 董炳月 678
 董思齊 643
 東澤靖 537
 杜漢文 572
 滕建群 569
 藤目ゆき 365, 511, 523
 藤野豊 516
 鄧若華 615
 藤永壯 504, 506, 516, 531, 541

(ㄴ)

羅志平 649
 蘭草 670
 梁甫 591
 梁澄子 344, 511, 542
 呂春華 639
 鈴木裕子 285, 287, 299, 323, 336, 350, 367,
 377, 437, 449, 455, 457, 467
 鹿嶋節子 307
 賴采兒 574
 劉建中 675
 劉建平 659
 劉丹忱 630
 劉黎明 590
 劉蓮弟 639
 柳白 575
 劉予葦 606
 劉展 631
 劉添財 623
 劉萍 612
 劉曉麗 644
 劉孝春 624, 630
 陸可光 624
 林よし子 521
 林克歡 595
 林武永 122
 林博史 347, 381, 422, 492, 493, 496, 497,
 507, 512, 519, 526, 531, 537
 林柏燕 624
 林伯耀 520
 林郁 605
 林曉光 592
 笠原十九司 378, 507, 511

(ㄹ)

萬揆一 595

賣買春ととりくむ會 351
 賣買春問題ととりくむ會 324, 337
 梅田悦子 450
 모리카와 마치코 105
 毛時安 679
 牟廣欽 596
 木村宏一郎 504
 木村貴 142
 巫召鴻 466, 469
 武寅 602
 文永淑 199
 文以明 596, 665
 미네기시 겐타로 66
 梶村太一郎 472
 민가영 189
 민성길 189

(ㅂ)

박기갑 57
 朴蓮伊 671
 박보량 179
 박석분 120
 박옥순 66
 박원순 43, 120
 박유하 201
 朴潤南 344
 박은경 118
 박은미 163
 박은봉 120
 朴在英 18, 21
 박정애 159
 朴貞花 396
 박해순 115
 박홍규 64, 188
 박환무 212
 潘德昌 640

房建昌 615
 方善柱 116
 方毓强 654
 배홍진 114
 白泰雄 190
 범우사 41
 范學貴 679, 680
 卞修躍 610, 666
 步平 615, 638
 福地曠昭 301
 本刊 673
 峯岸賢太郎 416
 傅景賢 655
 婦女救援基金會 559
 부산대학교 법과대학 246
 富山妙子 303
 副巡官萬達爾 661
 副主編 云惟俊 572
 符和積 601, 662, 662
 北住炯一 606
 濱田徹 351

(ㄸ)

社団法人自由人權協會(JCLU) 345
 謝寶耿 669
 謝永光 557
 사카모토 치즈코 202
 사카시타 미키코 115
 山谷哲夫 278
 山口明子 371
 山本直英 513
 山田道隆 452
 山田盟子 288, 303, 304, 305, 325, 352, 353
 山田昭次 389
 山田清吉 273
 山下明子 379

- 山下英愛 117, 133, 457, 473, 532, 538
 杉本由美子 513
 三上昭彦 389
 森田三男 356
 三田英彬 18, 21
 森川萬智子 368
 桑山紀彦 517, 521
 上杉千年 337
 上杉聰 508, 513
 上野千鶴子 396, 521
 上野輝將 546
 上田敏明 533
 上坂冬子 325
 生井英考 508
 徐京秀 190, 191
 徐京植 389
 서기재 221
 서남현 25, 88
 徐明庭 654
 徐旼我 214
 徐斌 680
 서성집 172
 徐樹法 603
 西野留美子 305, 326, 356, 358, 379, 390,
 403, 422, 446, 493, 497, 498, 509, 517,
 526, 543
 서울대학교 사회과학대학 239, 248
 西田秀子 540
 徐憲成 557
 石田米子 451, 522, 548
 石井明 597
 石川康宏ゼミナール 453
 石川逸子 289, 328, 340
 石出法太 381
 성은애 42
 成田龍一 514
 盛志偉 639
 細身和之 523
 邵力群 597
 蘇小平 677
 蘇實 590
 소정희 209
 蘇智良 527, 559, 562, 578, 579, 580, 583,
 597, 598, 601, 602, 603, 604, 607, 610,
 616, 617, 620, 622, 634, 640, 644, 650,
 651, 669, 680, 684
 小澤弘子 533
 孫國棟 671
 孫宅巍 617
 孫良銘 609
 孫貞睦 116
 宋連玉 136, 417, 523, 527, 538
 松野誠也 505
 松井やより 528
 宋志勇 598, 622
 松村高夫 378
 松村由子 534
 叔弓 649
 스키유코 221
 勝山泰佑 41
 시모무라 미즈코 66
 柴洋子 547
 施志霞 679
 申敬淑 131
 新美隆 498
 신영숙 127, 160, 173, 174
 辛珠栢 203
 신현석 55
 神戶女學院大學石川康宏ゼミナール 459, 466
 深山あき 285, 467

심영희 151, 160

심은지 189

(ㅇ)

我研究“慰安婦”問題的歷程 684

安達洋子 545

안병직 215

安成日 606

安洙永 22

안연선 90

安原桂子 495, 498, 499

안이정선 111

岸俊光 465

岩崎稔 514

押川典明 515

야마시다 영애 133

楊剛 685

楊琳 665

양미강 161

양수조 191

양순임 221

楊青 617

양현아 162, 163, 210

楊孝文 688

彦坂諦 290

嚴海建 660

余杰 685

余思 591

「女性の人權」委員會 341

女性のためのアジア平和國民基金 383, 384,
385

女性のためのアジア平和國民基金「慰安婦」關係
資料委員會 409

여성부 229

余舜珠 121

燕子 613

榮維木 562, 578, 579

永井和 528

오경택 216

오쿠야마 요코 133

오누마 야스아키 66

吳野 667

오연숙 108

오오니니 도모코 115

오오니시 나오 115

吳玠錫 128

吳天威 611

奧村哲 499

오카노 야요(岡野八代) 163

오쿠야마 요코 134

와다 하루키 66

와타베 오사무 122

王冠保 642

王大魯 681

王麗娜 652

王琳 618

王碧清 650, 655, 685

王炳毅 681

王樹軍 689

王延華 598, 599

王志東 671

王清峰 631

王學文 625

王學新 565

王恒利 686

王海華 611

王浩威 645

外務部 國際機構局 223

外村大 457

姚霏 580, 583

- 요시다 세이지 24
 요시미 요시아키 57
 愚若 686
 우에노 치즈코(上野千鶴子) 58, 192
 雨華 672
 袁遠 663
 原爆正當化のアメリカと「從軍慰安婦」謝罪の日本 455
 爲了未來的訴訟－日本律師爲日軍侵華受害者辯護紀實 675
 「慰安婦」問題を考える都高教有志ネット 370
 有光健 366
 喻蓉蓉 623
 유해정 174
 윤경원 168
 尹明淑 135, 164, 193, 447, 529
 尹美香 655
 尹靜慕 306
 尹貞玉 307, 449, 590
 윤철순 27
 윤효진 180
 李凱琦 618
 李建軍 565, 605
 이규수 150
 이규태 57
 李金蓮 634
 伊藤桃子 656
 伊藤成彦 389
 伊藤孝司 44, 308, 328, 438
 李萬烈 152
 이민아 137
 李配亮 678
 이상봉 211
 이상화 118
 이선이 58, 192
 이선형 174
 이성순 163
 李小江 650
 李秀平 663, 668, 669
 이승우 211
 李承昱 180
 이시카와 야스히로 115
 李雅賢 164, 176
 이애리 193
 李廣廉 619
 李曄 612
 이영선 194
 이영옥 204
 이영훈 215, 216, 217
 이원웅 66
 이운선 204
 이은경 153
 李載坤 117
 이정선 143
 李宗遠 665
 李中邦 656
 이창호 189
 李天英 664
 이해미 217
 李訓革 659
 一勉 298
 日本の戦争責任資料センター 345, 398
 日本の戦争責任資料センター アクティブミュー
 ジウム「わたちの戦争と平和資料館」 467
 日本の戦争責任センター 500, 539, 541, 548,
 550
 일본교과서바로잡기운동본부 92
 一位韓國“慰安婦”的自述 663
 임인숙 181
 임종국 15

(ㄸ)

장남호 122
張濤 641
張力 681
張連紅 619
張立洁 682
장문석 209
張士江 682
張樹和 592
張承鈞 619
張新 656
張新知 625
張艷茹 625
張英 689
張友新 599
張惟禕 678
張子峰 587
張銓 600
長田由美 494
張貞任 27, 309
張振鵬 669
張昌鍾 44
張蜀南 685
長澤健一 283
張慧青 677
張侯 664
財団法人 女性のためのアジア平和國民基金 385
齋藤道彦 600
荻野富士夫 503
전경자 42
田蘇蘇 645, 646
田酉如 665
戰爭責任資料センター 494, 500, 505
前田朗 390, 399, 518, 529
田中良 641

戰地性暴力を調査する會 476
錢春霞 642
정경아 111
丁果 626
정몽준 165
程昭星 607
挺身隊問題實務對策班 223
정신대연구회 36, 42, 46, 334, 371
정신대할머니와 함께하는 시민모임 100, 111, 112
정연진 176
鄭尤 657
鄭在貞 139
정진성 101, 125, 126, 130, 139, 140, 144, 165, 166, 167, 183, 184, 218
鄭忠 632
丁海洙 13
鄭鉉栢 195, 219
齊聲 663
趙冬苓 675
趙蘭英 667
趙利 689
曹保明 589
朝鮮人從軍慰安婦問題を考える會 290
조성란 220
趙淑玲 665
趙亞平 680
曹良鉉 220
曹燕 652
趙永強 627, 673
槽屋廣一郎 472
趙郁美 667
趙潤生 672
조정현 153
趙增輝 593

- 조지 히스 42
 早川紀代 501, 514, 523
 조혜란 127
 趙喜鳴 599
 從軍慰安婦110番編集員會 310
 從軍慰安婦問題ウリヨソンネットワーク 334
 從軍慰安婦問題行動ネットワーク 552
 佐藤和夫 519
 朱德蘭 410, 632, 646
 朱成山 627
 朱秀子 548
 朱晴依 689
 朱和雙 628, 634
 中山和久 524
 中野敏男 470
 中村繁 330
 「中學校社會科教科書問題」特別委員會 386
 曾根一夫 331
 池谷好治 534
 池內靖子 519
 志水紀代子 519, 523
 池田惠理子 425
 陳建成 641
 陳景彥 628
 陳慶港 584, 589, 683
 陳濤 690
 陳麗菲 562, 578, 579, 580, 583, 586, 607,
 620, 633, 634, 650, 657
 陳禮茂 684
 陳櫓 647
 陳斌善 664
 陳蘇黔 673
 陳淑榮 647
 陳亞杰 648
 陳娟 593
 秦郁彥 410, 530
 秦維憲 621
 津田道夫 613
 陳正卿 635
 陳秋蘭 666
 輯參 604
 쯔즈끼 쯔토무 63
 (大)
 倉橋正直 342
 川見公子 548
 淺野千惠 524
 川田文子 286, 332, 361, 377, 387, 389, 402,
 501, 509, 524, 530, 543, 548
 千田夏光 13, 29, 266, 272, 275, 276, 281,
 312, 313, 557
 清水澄子 333
 村岡崇光 472
 崔强 655
 최동호 17
 최명희 54
 최영석 195
 최용기 37
 최유리 145
 최지선 196
 崔哲榮 125
 최현실 205
 秋山洋子 673
 (E)
 타카다 토쿠에 25
 台灣省文獻委員會 565
 台北市婦女救援基金會採訪記錄 夏珍 571
 埭叟 658
 태혜숙 197
 澤昌利 665

樋口雄一 491

(丑)

把日本國推向被告席(下) 683

坂口禎彦 534

彭漢良 608

平林久枝 314

平尾弘子 549

坪川宏子 551

包不同 629

俵義文 389

馮英子 668

(ㄱ)

何吉 591

하마노 도모카 115

夏蓓 658

河在煥 131

河棕文 168

何天義 604

下村滿子 394

학회 편집부 747

한국정신대문제대책협의회 36, 42, 46, 60,
82, 83, 99, 229, 241, 242, 243, 252, 253,
256, 334, 371, 568

韓國挺身隊研究所 60, 83, 97, 230, 244, 256,
257, 439

韓茂才 630, 670

韓百興 19

한우성 155

한일여성공동역사교재 편찬위원회 205

韓曉蓉 676

할머니그림전실행위원회 63

海南省政協文史資料委員會 572

解放出版社 335

許書宏 619

許善子 439

許俊雅 633

현대사연구실 24

叶琳 659

邢五一 687

惠娟麗 687

慧眞 403

扈良 670

芦焰 674

胡銀平 658

戶塚悅朗 502, 543, 544

胡海英 621

洪祥進 356

華強 601

華公平 314

和田春樹 394

黃文雄 469

황병주 198

黃善翌 206

황은진 145

黃一兵 568, 671

荒井信一 390, 495, 505, 549

黃宗祥 605

黃青文 684

橫浜ハンゲルの會 316

橫山伊德 498

曉蘇 641

侯桂芳 621

후지나가 다케시 212

후지메유키(藤目ゆき) 168

黑龍江大學歷史文化旅遊學院課題組 636

希克斯(Hicks, George) 569

히노 순조 63

(기타)

- 데이·J·마크도우гал 407
라데िका·クマラスワミ 428
마리아·로사·L·헨손 365
바우넷트 日本 407
부데이·하르트노, 다단·주리안트라
435
아이리스·찬 469
아시아女性資料센터 392
아시아·「太平洋地域の戦争犠牲者に思いを馳
せ·心に刻む集會」実行委員會 393
아시아·フォーラム 391
잔·라프=오하른 413
조지·히क्स 351
쿠마라스미報告書研究會 428
킴·윤심 428
블람데야·안анта·투울 452, 515
하르モニ의繪畫展実行委員會·日野詢城·都築勤
414
필리핀 「從軍慰安婦」補償請求裁判弁護団
363

(A)

- Adams, Bella 747
Ahmed, Afreen R. 751
Arakawa, Maki 741
Argibay, Carmen M. 748
Askin, Kelly D. 741

(B)

- Barkan, Elazr 706
Beauchamp, Edwar 701
Beauchamp, Edward R. 700
Beaumont, Joan 767
Bosworth, R. J. B. 724

(C)

- Caroline M. Berndt 725
Chandra, Vipian 772
Chan-Tiberghien, Jennifer 714
Cheng, Sea Ling 778
Chinkin, Christine M. 740
Choi Schellstede, Sangmie 707
Chou, Chih-Chieh 749
Chou, Wan-yao 694
Chung, Chin Sung 725
Chung, Hyun Kyung 765
Cunningham, Michael 754

(D)

- Damousi, Joy 775
Dennis, Michael J. 729
Dolgopol, Ustinia 723
Dower, John W. 764
Duara, Prasenjit 768
Dudden, Alexis 739
Durham, Helen 771
Duus, Peter 694

(E)

- Edwards, Margie L. Kiter 717
Federation of Korean Trade Unions 720
Field, Norma 730
Fruhstuck, Sabine 777
Fujitani, T. 710

(G)

- Gale Group 771, 777
Garon, Sheldon 720
Goodman, G. K. 777

(H)

Harries, Sheldon H. 770
Havens, Thomas R. H. 720
Hein, Laura 735
Henson, Maria Rosa 703
Hicks, George L. 697
Hirofumi, Hayashi 733
Hong, Seong-Phil 698
Hosken, Fran P. 767
Howard, Keith 774
Hso, Yvonne Park 721

(I)

ICJ國際セミナー東京委員會 373
Ishibashi, Mari 761

(J)

Jeans, Roger B. 756
JFBA 694

(K)

Kattoulas, Velisarios 772
Katzoff, Beth Sara 735
Kazuko, Watanabe 722
Keller, Nora Okja 776
Khiun, Liew Kai 775
Kim, Hyu Sook 728
Kim-Gibson, Dai Sil 702, 726
Kimm, Samuel 776
Kratoska, Paul H. 714

(L)

Lamont-Brown, Raymond 774
Layoun, Mary N. 769
Lee Hahm, Dongwoo 771

Lee, Kun Jong 753

Lee, S. Yen 764

Lee, So-Hee 746

Leer, Young-Oak 776

Levin, M. A. 763, 764

Lie, John 722

Littlewood, Roland 731

Livingston, Jeffery C. 774

Loff, Bebe 771

(M)

Mallin, Jay 768

Matsui, Yayori 743

Matsumura, Masahiro 761

McCluskey, Audrey Thomas 773

Meade, Christopher P. 744

Mendoza, Katharina R. 750

Mi, Yu Soon 707

Michiko, Nakahara 742

Miers, Suzanne 739

Min, Pyong Gap 750

Mitchell, Richard H. 769

Mitsui, Hideko 762

Mohita, Roman 745

Moon, Ailee 698

Moon, Katharine H. S. 734, 767

Morris-Suzuki, Tessa 746

Moughrabi, Fouad 740

Myers, Ramon Hawley 694

(O)

O'Brien, Suzanne 713

O'Toole, Laura L. 717

Oh, Bonnie B. C. 708

Okja, Keller Nora 729

(P)

Park, Joo Hyun 758
Park, Soon Won 716
Park, Won Soon 731
Park, You-Me 738
Peattie, Mark R. 694

(R)

Reilly, James 753
Rimmer, Peter 746
Rundle, Walter 674

(S)

Sand, Jordan 734
Sato, Shigeru 776
Schiffman, Jessica R. 717
Schmidt, David A. 705
Seaton, Philip 759, 760
Seo, Jungmin 763
Seoul International Symposium 704
Shin, Gi Wook 771
Smith, Sidonie 756
Soh, Chunghee Sarah 719, 724, 737, 747,
752, 757, 769, 770
Song, Young I 698
Song, Youn-ok 732
Stetz, Margaret D. 717, 755

(T)

Tan, Hsienli 765
Tanaka, Yuki 711
Task Force on Filipina Victims of Military
Sexual Slavery by Japan 694

Taylor, Jean Gelman 768
The Korean Council for the Women Drafted
for Military Sexual Slavery by Japan 693,
766
Thoma, Pamela 738
Townsend, Leeann 760
Tsutsui, Kiyoteru 759

(U)

Ueno, Chizuko 713, 735
UNESCO 한국위원회 772

(V)

Vanderweert, Susan Jenkins 742
VAWW-NET Japan 440, 443

(W)

Wakabayashi, Bob Tadashi 773
Watanabe, Kazuko 723, 734
Weinberg, Gerhard L. 727
Wender, Melissa 732, 775
White, Geoffrey M. 710
Wiener, Jon 728

(Y)

Yamamoto, Beverley 713
Yang, Daqing 716
Yang, Hyunah 727, 762
Yoneyama, Lisa 710
Yoo, Yani 732
Yoshimi, Yoshiaki 712
Yuki, Fujime 727

동북아역사재단 연구논저 목록 10

한일 역사현안 관련 일본군 '위안부' 연구논저 목록·하

초판 1쇄 인쇄 2009년 3월 10일

초판 1쇄 발행 2009년 3월 18일

편찬 동북아역사재단

펴낸이 김용덕

펴낸곳 동북아역사재단

등록 312-2004-050호(2004년 10월 18일)

주소 서울시 서대문구 의주로 77 입광빌딩

전화 02-2012-6065

팩스 02-2012-6187

e-mail book@historyfoundation.or.kr

© 동북아역사재단, 2009

ISBN 978-89-6187-094-8-94900

978-89-6187-095-5-세트

- 이 책의 출판권 및 저작권은 동북아역사재단이 가지고 있습니다.
저작권법에 의해 보호를 받는 저작물이므로 어떤 형태나 어떤 방법으로도
무단전재와 무단복제를 금합니다.
- 책값은 뒷표지에 있습니다. 잘못된 책은 바꾸어 드립니다.